

防衛省規格改正票

小火器弾薬包装

N D S

Y 7 9 0 1 (2)

制定 平成 4. 1.17

改正 平成22. 4.19

この改正票は，N D S Y 7 9 0 1（小火器弾薬包装）についてのものであり，N D S Y 7 9 0 1と併用される。

引用文書中“ N D S Z 0 1 3 2 折りたたみ紙箱 ”を削る。

付属書 1 の2.中“ 色は，N D S Z 0 1 3 2（折りたたみ紙箱）の3.1.3による。 ”を
“ 色は，灰色又は未さらしクラフト色など，鈍い非反射色とし、白色その他の明るい色は
指示された場合のみとする。 ” に改める。

解説 この改正票は，引用文書の廃止に伴う改正である。

防衛庁規格改正票

N D S

Y 7901(1)

小 火 器 弾 薬 包 装

制定 平成 4. 1. 17

改正 平成11. 9. 28

この改正票は、**N D S Y 7901** 小火器弾薬包装（平成4. 1. 17制定）の一部となるものであり、これと併用される。

この規格中 { } を付した従来単位及び数値を { } とともに削る。

1. 備考全文を削る。

解説 この改正票は、計量法が国際単位系（S I）に移行することに伴う改正である。

小 火 器 弾 薬 包 装

1. 適用範囲 この規格は、口径 20 mm 弾薬及び小火器弾薬の包装について規定する。

備考 この規格の中で { } を付けて示してある単位及び数値は、従来単位によるものであって規格値である。

2. 用語の意味 この規格で用いる主な用語の意味は、次のとおりとする。

- (1) 個装 個装とは、弾薬をリンクでベルト状に連結すること(以下、リンクベルトという。), 弾薬を直接紙箱などに収納すること又はリンクベルト入り紙箱を携行のうに収納することをいう。
 - (2) 内装 内装とは、弾薬を直接に又は個装したものを適切な数量にまとめて金属缶又は防湿袋に収納することをいう。
 - (3) 外装 外装とは、弾薬を直接に又は個装したもの若しくは内装したものを適切な数量にまとめて金属容器、木箱又は段ボール箱に収納することをいう。
 - (4) 包装容器 包装容器とは、付表 1 に示す紙箱、金属缶、防湿袋、木箱及び金属容器をいう。
 - (5) 金属缶 金属缶とは、内装に使用するもので、巻き締めによって気密を保つ金属製容器をいう。
 - (6) 金属容器 金属容器とは、外装に使用するもので金属缶よりも金属板が比較的厚く強度も大で、ゴムパッキンなどによって気密を保つ金属製容器をいう。
 - (7) 端数箱 端数箱とは、規定数量未満の弾薬が収納されている包装容器をいう。
3. 区分 包装の区分は、原則として表 1 のとおりとする。

表 1 包装の区分

区分	個 装			内 装		外 装		
	リンク ベルト	紙 箱	携 行 の う	金属缶	防湿袋	木 箱	金 属 容 器	段ボール
1	—	○	—	○	—	○	—	—
2	○	○	—	○	—	○	—	—
3	○	○	○	○	—	○	—	—
4	—	○	—	—	○	○	—	—
5	○	○	—	—	○	○	—	—
6	○	—	—	○	—	○	—	—
7	○	—	—	—	○	○	—	—
8	—	—	—	—	○	○	—	—
9	○	—	—	—	—	—	○	—
10	—	—	—	—	—	—	○	—
11	—	○	—	—	—	○	—	—
12	—	—	—	○	—	○	—	—
13	○	○	—	—	—	—	—	○

備考 表中の○印は、弾薬包装の区分ごとの構成を示す。

4. 包装の一般共通事項

4.1 一般事項 包装は、火薬類取締法（昭和25年法律第149号）及びこれに基づく規定によらなければならない。

4.2 包装資材 包装資材は、原則として付表1による。この規格以外の包装資材を使用する場合には、安全性、防湿性、耐久性など、この規格による包装と同等以上の性能が得られるものでなければならない。

また、包装資材の一部が官給の場合の包装も、原則としてこの規格による。

4.3 包装方法 包装方法は、次のとおりとする。

- (1) 外装後の包装一個の質量は、原則として40kg以下とする。
- (2) 弾頭方向は、原則として取扱・輸送中の安全、取り出しの容易、質量の釣り合いなどを考慮して指定する。
- (3) 内容品の動揺防止は、付表1の緩衝材を包装容器と内容品との間げきに入れて行う。
- (4) 封印は、付表1の封印紙、封印索又は封印鉛を使用し、原則として外装に行う。
- (5) 包装容器の外面に、粘着テープ、帯鋼などを使用する場合には、これによって表示を覆い隠してはならない。

(6) 包装作業を行うに当たっては、内容品の点検を行い内容品の欠陥又は数量不足などが判明した場合には、直ちに是正措置を行わなければならない。

4.4 金属缶包装の気密性 金属缶包装の気密性は、付属書2の5.1(2)の気密性試験を行ったとき、巻き締めした部分又は他の部分からの、気泡の漏れ又は漏気があってはならない。

4.5 リンクベルト包装 リンクベルト包装は、仕様書の規定による。

5. 包装の表示

5.1 一般的事項 一般的事項は、NDS Z 0001（包装の総則）の4.1によるほか次のとおりとする。

- (1) 表示及び標識の大きさは、原則として包装の大きさに調和させること。
- (2) 質量の単位は、kgとし、JIS Z 8401（数値の丸め方）によって原則として小数点以下1けたまで表示する。
- (3) 容積の単位は、 m^3 とし、JIS Z 8401によって小数点以下2けたまで表示する。
- (4) 製造年月は、原則として西暦下2けたと月の間に“－”を付けて表示する。

5.2 個装の表示 個装のうち紙箱の表示は、原則として次のとおりとする。

(1) 表示事項

- (a) 物品番号又はDODIC（Department of Defense Identification Codeの略）
- (b) 品名
- (c) 数量
- (d) 弾薬ロット番号
- (e) 製造年月

(2) 表示位置 表示位置は、付図1による。

5.3 内装の表示 内装の表示のうち金属缶の表示は、原則として次のとおりとする。

(1) 表示事項

- (a) 物品番号又はDODIC
- (b) 数量
- (c) 品名
- (d) 個装内容
- (e) 弾薬ロット番号
- (f) 製造年月

(2) 表示位置 表示位置は、付図2による。

5.4 外装の表示 外装の表示は、原則として次のとおりとする。

(1) 表示事項

- (a) 調達要求元標識
- (b) 物品番号

Y 7901

- (c) DODIC又は弾火薬コード
- (d) 数量
- (e) 品名
- (f) 個装内容
- (g) 弾薬ロット番号
- (h) 質量
- (i) 容積
- (j) 製造年月
- (k) 製造所名
- (l) 取扱注意表示は，“衝撃注意”の文字を赤色で表示する。

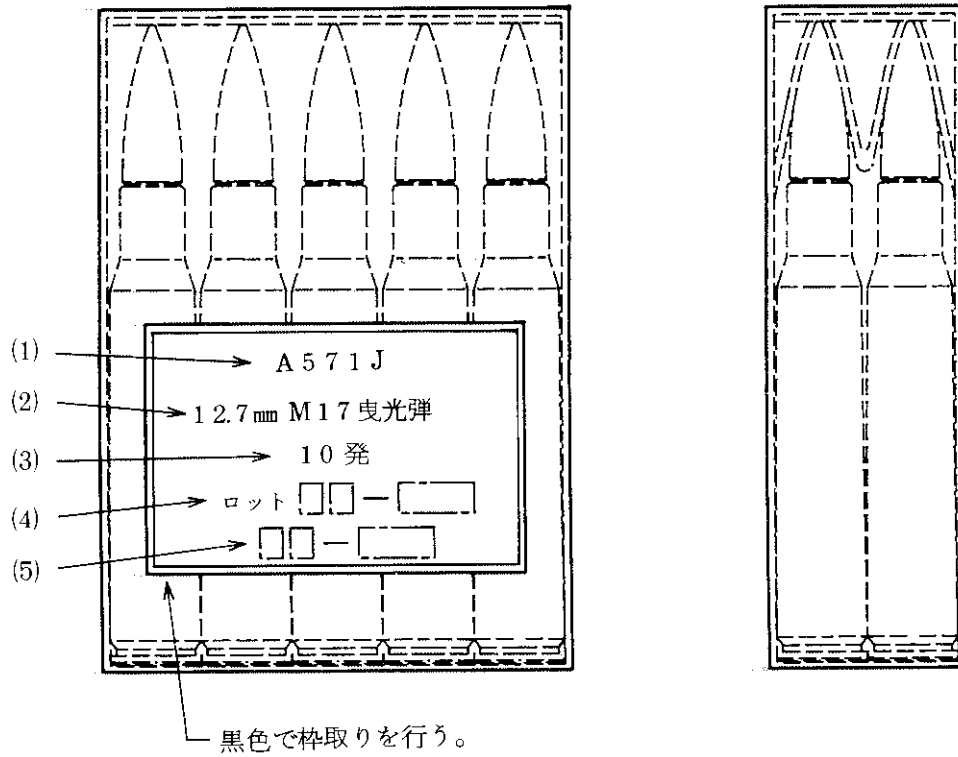
(2) 表示位置 表示位置は，付図3による。

5.5 端数箱の表示 端数箱の表示は，次のとおりとする。

- (1) 外装の表示事項のうち，数量及び質量を修正する。
- (2) 木箱包装は，ふたの四周に黄色塗料を塗る。
- (3) 金属容器包装は，ふたの四周に黄色布粘着テープをはり付ける。

6. 検査 検査に使用する欠点項目は，原則として付表2～4による。

付図1 個装の表示位置(紙箱)

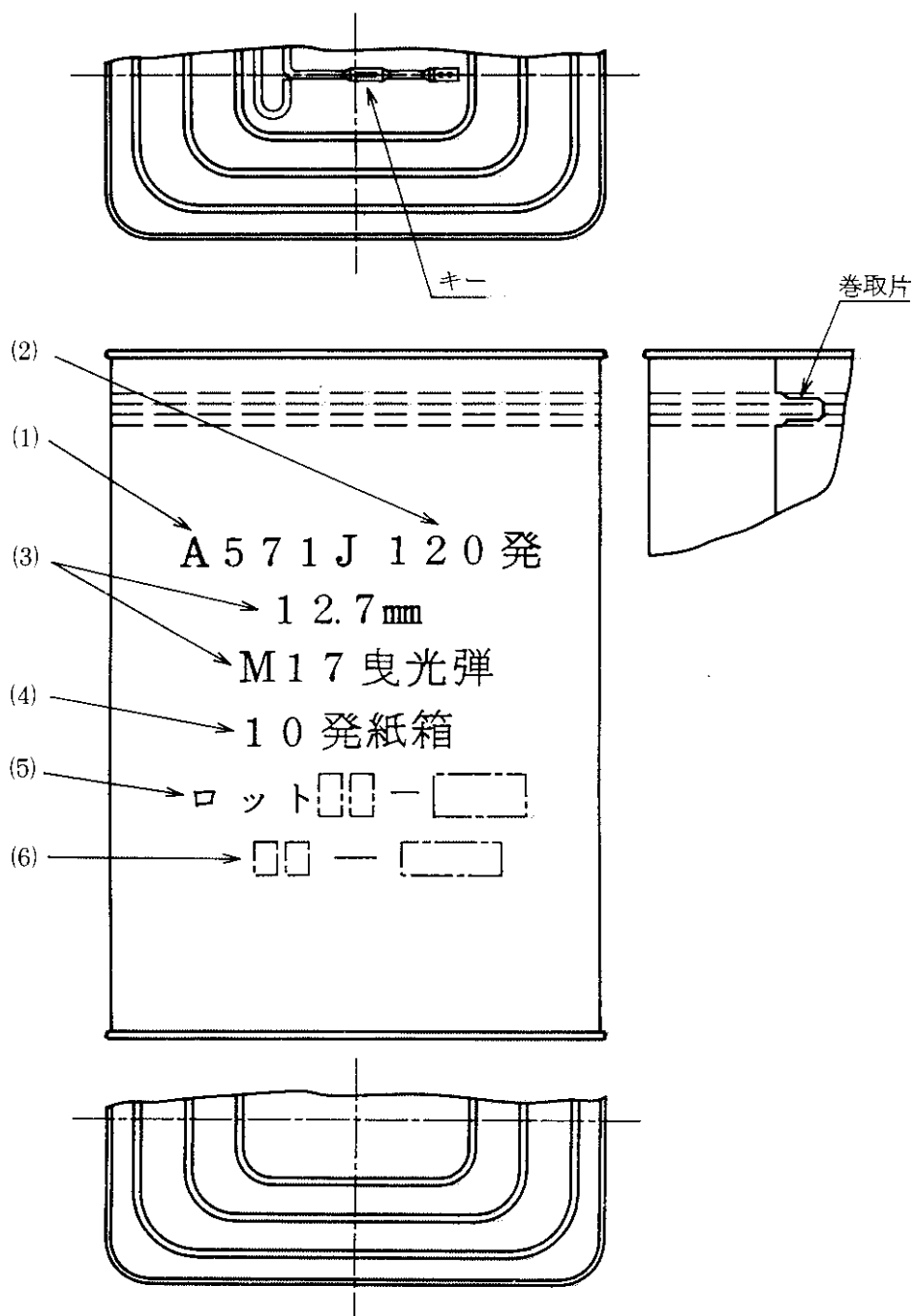


備考1 個装の表示は、次のとおりとする。

- (1) 物品番号又はDODIC
- (2) 品名
- (3) 数量
- (4) 弾薬ロット番号
- (5) 製造年月(西暦年下2けた-月)

2 表示の色は、黒色とする。

付図2 内装の表示位置(金属缶)

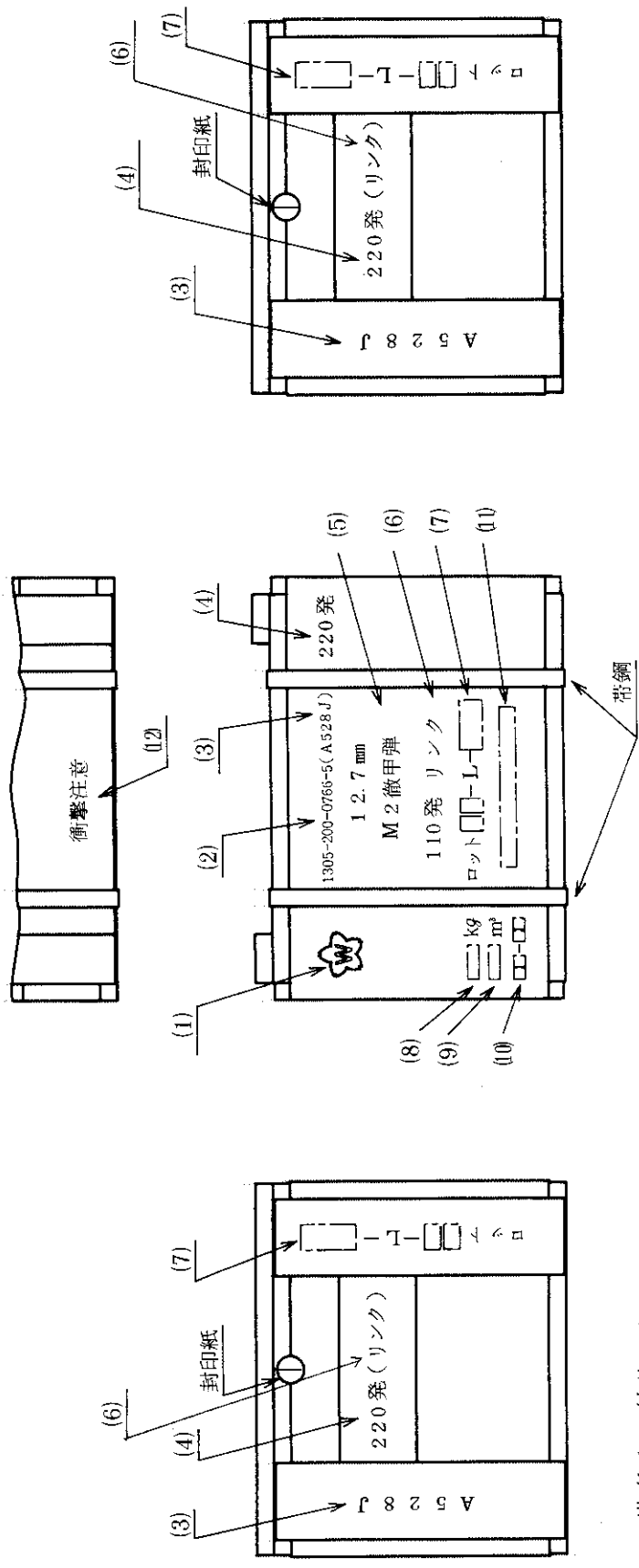


備考1. 個装の表示は、次のとおりとする。

- (1) 物品番号又はDODIC
- (2) 数量
- (3) 品名
- (4) 個装内容
- (5) 弾薬ロット番号
- (6) 製造年月

2. 表示の色は、黒色又は黄色とする。

付図 3 外装の表示位置(木箱)



備考 1 外装の表示は、次のとおりとする。

- (1) 自衛隊標識
- (2) 物品番号
- (3) DODIC又は弾火薬コード(例は、DODICを示す。), 弾火薬コードを表示するときは、品名(5)以下を下方に下げて物品番号(2)との間に表示する。
- (4) 数量
- (5) 品名
- (6) 個装内容
- 2 表示の色は、次による。
 - (1)~(11) 黒色とする。
 - (12) 赤色とする。
- (7) 弾薬ロット番号
- (8) 質量
- (9) 容積
- (10) 製造年月
- (11) 製造所名
- (12) 取扱注意事項の表示

付表1 包装資材

種 類	名 称	適 用 規 格	備 考
包 装 容 器	紙 箱	付 属 書 1	_____
	金 属 缶	付 属 書 2	
	防 湿 袋	付 属 書 3	
	木 箱	付 属 書 4	
	金 属 容 器	付 属 書 5	
緩 衝 材	充てん材(底)	_____	板ボール紙、段ボール又は発泡プラスチックで緩衝効果をもたせたものの。
	充てん材(ふた)		
	充てん材(側面)		
	充てん材(端部)		
	隔 板		
防 水 ・ 防 湿 材 料	ターポリン紙	JIS Z 1503 (ターポリン紙)	防湿袋に使用する。
	は り 合 わ せ アルミニウムはく	JIS Z 1520 (はり合わせアルミニウムはく)	
	包装用ポリエチレンフィルム	JIS Z 1702 (包装用ポリエチレンフィルム)	
封 かん 材 料	帯 鋼	JIS G 3141 (冷間圧延鋼板及び帯鋼)	幅16mm×厚さ0.5mmを標準とする。
	コ ネ ク タ	JIS G 3141 (冷間圧延鋼板及び帯鋼)	JIS H 8610 (電気亜鉛めっき)の亜鉛めっきを施す。帯鋼に使用する。
	封 印 紙	市 販 品	マニラペーパー又は上質紙
	ス テ ー プ ル	市 販 品	封印紙を木箱に打ち付けるために使用する。
	封 印 索	市 販 品	金属容器のふたと本体を封印するために使用する。
	封 印 鉛	市 販 品	
	紙粘着テープ	市 販 品	防湿袋などに使用する。
そ の 他	布 テ ー プ	市 販 品	個装(紙箱包装)など取り出しやすくするために使用する。
	布粘着テープ	市 販 品	金属容器外装の端数箱表示に使用する。

付表2 個装の欠点項目

(1) 紙箱包装

番号	欠点項目
1	内容品の数量が規定どおりでないもの。
2	異種弾薬の混入したもの。
3	弾丸の向きが規定どおりでないもの。
4	隔板がないか又は不適當なもの。
5	ロット番号が記入してないか又は誤っているもの。
6	紙箱内の弾種識別が誤っているか又は不明りょうなもの。
7	ラベルがないか、紙箱の汚れ又は印刷不良で判読できないもの。
8	紙箱又はラベルが破れているもの。

(2) リンクベルト包装

番号	欠点項目
1	リンクベルトの弾薬の数量が正規でないもの。
2	リンクが伸びたり、破損したり、固着しているもの。
3	油脂又はその他の異物が付着しているもの。
4	リンクの防せいが不良のもの。
5	リンクが変形しているもの。
6	リンク中の弾薬の挿入深さが不適當なもの。
7	リンク中の弾薬が仕様書の規定値を超える不整列なもの。
8	異種弾薬の混入したもの。

付表3 内装の欠点項目

(1) 内容品が紙箱包装のもの

番号	欠点項目
1	内容品の詰め方が不適当なもの。(弾頭が雷管と向き合っている。)
2	上記以外の紙箱の詰め方が不適当なもの。
3	充てん材、隔板、取り出し布テープがないか又は不適当に入っているもの。
4	内容品の数量が不足しているもの。

(2) 内容品がリンクベルト包装のもの

番号	欠点項目
1	内装中で弾頭の方向が誤っているか又は弾頭と雷管が向き合っているもの。
2	内装中でリンクベルトの取り出し先に二つの環がないもの。(12.7mm弾薬)
3	上記1及び2以外に詰め方が不適当なもの。
4	充てん材、隔板などがいないもの。
5	携行のうがないもの、又は携行のうの表示のないもの。(携行のう包装のみ)

(3) 金属缶包装

番号	欠点項目
1	巻取り口がないか又は不良のもの。
2	キーがないか又は不良のもの。
3	バリ又は鋭い縁のあるもの。
4	甚だしい打こん、へこみ又は傷のあるもの。
5	ロット番号がないか、誤っているもの又は不明りょうなもの。
6	ロット番号以外の表示がないか、誤っているもの又は不明りょうなもの。
7	気密不良のもの。

(4) 防湿袋包装

番号	欠 点 項 目
1	防湿袋の破れているもの又は穴のあるもの。
2	紙粘着テープのないもの。(仕様書に規定される場合。)
3	紙粘着テープが破れているもの。(同上)
4	紙粘着テープのはり方の誤っているもの。(同上)
5	防湿袋上面の折りたたみの不適当なもの。

付表4 外装の欠点項目

(1) 木箱包装

番号	欠 点 項 目
1	物品番号がないか、誤っているか又は不明りょうなもの。
2	ロット番号がないか、誤っているか又は不明りょうなもの。
3	上記以外の表示が不正確か、ないもの又は不明りょうなもの。
4	規定外又は承認されていない材料で書いたり、修正した表示のもの。
5	帯鋼がないか又は緩いもの。帯鋼の端末の処理が危害予防上不適当なもの。
6	封印紙の取り付けが不良か又はないもの。
7	内容品の動揺するもの。
8	上記以外の不適当な包装のもの。

1 2

Y 7901

(2) 金属容器包装

番号	欠 点 項 目
1	物品番号がないか，誤っているか又は不明りょうなもの。
2	ロット番号がないか，誤っているか又は不明りょうなもの。
3	上記以外の表示が不正確か，ないもの又は不明りょうなもの。
4	規定外の材料で書いたり，修正した表示のもの。
5	封印索又は封印鉛で封印されていないもの又は封印の不完全なもの。
6	内容品の動揺するもの。
7	上記以外の不適当な包装のもの。

(3) ダンボール箱包装

番号	欠 点 項 目
1	物品番号がないか，誤っているか又は不明りょうなもの。
2	ロット番号がないか，誤っているか又は不明りょうなもの。
3	上記以外の表示が不正確か，ないもの又は不明りょうなもの。
4	規定外の材料で書いたり，修正した表示のもの。
5	箱の内外面にしみ，やぶれのあるもの。
6	テープ，平線などにより，きちんととめられていないもの。
7	内容品の動揺するもの。
8	上記以外の不適当な包装のもの。

関連文書：この防衛庁規格に引用した次の文書は、最新版とする。

引用文書：J I S A 5 5 0 8 鉄丸くぎ
J I S G 3 1 4 1 冷間圧延鋼板及び帯鋼
J I S H 8 6 1 0 電気亜鉛めっき
J I S Z 0 2 0 2 包装貨物の落下試験方法
J I S Z 0 2 1 2 包装貨物及び容器の圧縮試験方法
J I S Z 1 4 0 2 木箱（輸出品包装用）
J I S Z 1 5 0 3 ターポリン紙
J I S Z 1 5 2 0 はり合せアルミニウムはく
J I S Z 1 7 0 2 包装用ポリエチレンフィルム
J I S Z 2 1 0 2 木材の平均年輪幅・含水率及び比重測定方法
J I S Z 8 4 0 1 数値の丸め方
N D S Z 0 0 0 1 包装の総則
N D S Z 0 1 3 2 折りたたみ紙箱

火薬類取締法 昭和25年法律第149号

昭和49年通商産業省告示第58号（火薬類の製造施設の構造，位置及び設備並びに製造方法の技術上の基準の細目を定める告示）

1 4

Y 7 9 0 1

附属書 1 紙 箱

1. 適用範囲 この附属書 1 は，口径 2 0 mm 弾薬及び小火器弾薬の包装に使用する紙箱について規定する。

2. 材質・色 材質は，当該弾薬の仕様書の規定による。色は，NDS Z 0 1 3 2（折りたたみ紙箱）の 3. 1. 3 による。

3. 構造・形状・寸法 構造，形状及び寸法は，当該弾薬の仕様書の図面による。ただし，寸法許容差は，仕様書で規定又は承認されない限り ± 1. 5 mm とする。

4. 外観 外観は，次のとおりとする。

- (1) 紙箱の接着面は，全面にわたってむらなく完全に接着されていること。
- (2) 紙箱は，汚れ，油脂類の付着，その他異物の付着，破れ，しわなどがないこと。

附属書2 金属缶

1. 適用範囲 この附属書2は、口径20mm弾薬及び小火器弾薬の包装に使用する金属缶について規定する。

2. 材質・構造・形状・寸法 材質、構造、形状及び寸法は、当該弾薬の仕様書の図面による。

3. 外観 外観は、次のとおりとする。

(1) 金属缶には、汚れ、油脂類の付着、その他異物の付着、へこみ、膨れなどがないこと。

(2) 金属缶の接合部又はその他の部分に、さびがないこと。

4. 性能

4.1 気密性 気密性は、次のとおりとする。

(1) 缶体は、5.1(1)の方法で試験したとき、漏気がないこと。

(2) 完成缶 缶体に底板(又はふた)を巻締めした金属缶は、5.1(2)の方法で試験したとき、漏気がないこと。

4.2 巻締め性 巻締め性は、5.2の方法で試験したとき、仕様書の規定どおり巻締めされていなければならない。

4.3 巻取性 巻取性は、5.3の方法で試験したとき、巻取片が途中で切れることなく、刻み線に沿って真っすぐに巻き取れて、缶体にぎざぎざの切り口が残ってはならない。

4.4 キーの離脱 キーの離脱は、5.4の方法で試験したとき、手の指で容易に離脱できなければならない。

5. 試験方法

5.1 気密性試験 気密性試験は、次のとおりとする。

(1) 缶体 缶体の気密性試験は、次の何れかの方法によって行う。

(a) 缶体の水没式気密性試験は、缶体の接合した側面を上にして、この側面が水面下約25mmになるように水中に沈め、内部気圧を外部気圧より19.6kpa {0.2kgf/cm²}高くして、10秒間放置する。その間に、はんだ付けした部分又は他の部分からの気泡の漏れがあるかどうか調べる。

(b) 缶体の乾式気密性試験は、缶体内の内部気圧を外部気圧より、19.6kpa {0.2kgf/cm²}高くして、最低10秒間放置する。その間に圧力計によって漏気の有無について調べる。

(2) 完成缶 完成缶の気密性試験は、次の何れかによる。

(a) 完成缶の水没式気密性試験は、缶体に底板(又はふた)を巻き締めした金属缶を試験容器の水中に完全に沈めて、内部気圧を外部気圧より、13.7kpa {0.14kgf/cm²}以上高くして、15秒間放置する。その間に巻き締めした部分又は他の部分からの気泡の漏れがあるかどうか調べる。

(b) 完成缶の乾式気密性試験は、缶体に底板(又はふた)を巻き締めした金属缶の内部気

圧を外部気圧より、 $26.5\text{ kPa} \{ 0.27\text{ kgf/cm}^2 \}$ 高くして、最低 10 秒間放置する。その間に圧力計によって、漏気の有無を調べる。

5.2 巻き締め性試験 巻き締め性試験は、金属缶の巻き締め各辺について、1箇所以上切断し、仕様書で規定した方法どおり巻き締めされているかどうかを調べる。

5.3 巻き取り性試験 巻き取り性試験は、金属缶に装着してあるキーを引きはずし刻み線に沿って真っすぐに巻き取り、途中で切れないか又は缶体にぎざぎざの切り口が残らないかを調べる。

5.4 キーの離脱試験 キーの離脱試験は、金属缶に装着してあるキーを手の指で引きはずし、離脱の難易を調べる。

附属書3 防 湿 袋

1. 適用範囲 この附属書3は、口径20mm弾薬及び小火器弾薬の包装に使用する防湿袋について規定する。
2. 材料 材料は、JIS Z 1503(ターポリン紙)、JIS Z 1520(はり合せアルミニウムはく)又は、これと同等以上のものとする。
3. 構造・形状・寸法 構造、形状及び寸法は、当該弾薬の仕様書の図面による。ただし、寸法許容差は、原則として±2.0mmとする。
4. 外観・性能 外観及び性能は、次のとおりとする。
 - (1) 防湿袋の側面及び底面の接着面は、全面にわたってむらなく完全に接着されていること。
なお、必要に応じて上面は、紙粘着テープで封じること。
 - (2) 防湿袋には、汚れ、油脂類・異物の付着、破れ、しわなどが無いこと。
 - (3) はり合せアルミニウムはくを使用した防湿袋は、包装状態で水中に6時間以上浸せきした後、防湿袋の内部に浸水が有ってはならない。

附属書4 木 箱

1. 適用範囲 この附属書4は、口径20mm弾薬及び小火器弾薬の包装に使用する木箱について規定する。

2. 材料 材料は、次のとおりとする。

- (1) 木箱に使用する木材は、JIS Z 1402〔木箱（輸出品包装用）〕の4.1(1)の種類のもので、比重0.35以上のものとする。ただし、ラワン材及び杉材は使用してはならない。

なお、1個の木箱に種類の異なる木材を使用してはならない。

- (2) くぎは、JIS A 5508（鉄丸くぎ）のN38，N45又はこれに相当するセメント被覆したものを使用する。ただし、補強用材などには、N25，N32，又は、これに相当するセメント被覆した、くぎを使用してもよい。

なお、用材を通してくぎの先端を打ち曲げる場合は、セメント被覆したくぎを使用しなくてもよい。

3. 構造・形状・寸法 構造、形状及び寸法は、次のとおりとする。

- (1) 板の寸法、枚数及びはぎ合わせの構造は、昭和49年通商産業省告示第58号（火薬類の製造施設の構造、位置及設備並びに製造方法の技術上の基準の細目を定める告示）第15条の別表第2(1)による。

- (2) 木箱の構造、形状及び寸法は、次のとおりとする。

(a) 木箱の構造は、附属書4付図に示すように、つま面の両側に縦棧各1枚、その中間に横棧1枚を使用し、横棧が手掛けを兼ねるものを基準とする。

(b) 木箱の形状・寸法 木箱の形状及び寸法は、当該弾薬の仕様書の図面による。

4. 外観・性能 外観及び性能は、次のとおりとする。

- (1) 木箱の外観は、性能に影響を及ぼすような割れ、穴、死節、入皮節、しみ、などがあってはならない。

また、外面は、標識が施し得る程度に仕上げなければならない。

- (2) 木箱に用いる木材の含水率は、原則として18%以下とする。

5. 加工方法 加工方法は、次のとおりとする。

- (1) くぎ打法は、JIS Z 1402の5.1による。ただし、くぎの先端を打ち曲げる場合には、曲げた部分が箱の内面と同一か又は内面から板の中へ沈ませなければならない。

- (2) くぎ打間隔は、JIS Z 1402の5.2による。

6. 試験方法

6.1 含水率測定試験 木箱の含水率測定試験は、JIS Z 2102（木材の平均年輪幅・含水率及び比重測定方法）又は電気抵抗含水率測定器によって行う。

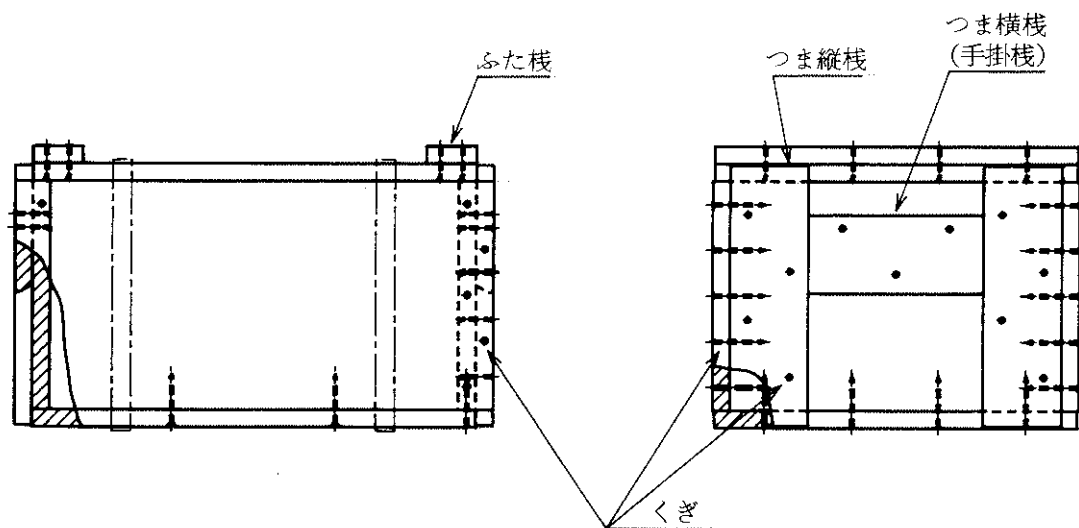
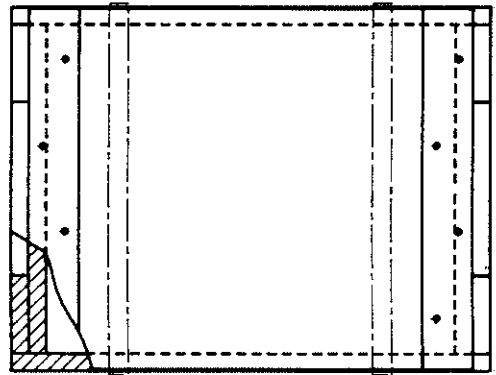
6.2 強度試験 木箱の強度試験を行う場合には、次のとおりとする。

- (1) 落下試験は、JIS Z 0202（包装貨物の落下試験方法）による。
- (2) 圧縮試験は、JIS Z 0212（包装貨物及び容器の圧縮試験方法）による。

20

Y 7901

附属書 4 付図 木箱構造



附属書5 金属容器

1. 適用範囲 この附属書5は、口径20mm弾薬及び小火器弾薬の包装に使用する金属容器について規定する。

2. 構成 構成は、附属書5表1のとおりとする。

附属書5表1

名 称	数 量
本 体	1
ふ た	1

3. 材料・部品 材料及び部品は、当該弾薬の仕様書の図面による。

4. 構造・形状・寸法・質量 構造、形状、寸法及び質量は、次によるほか、当該弾薬の仕様書の図面による。

(1) 構造は、本体に取り付けられた止め金によって、ふたの開閉ができるものとする。

(2) 形状は、附属書5付図1又は附属書5付図2による。

5. 外観・性能 外観及び性能は、次のとおりとする。

(1) 外観は、機能上有害な変形、きず、破損などがなく、仕上げは良好でなければならない。

(2) 弾薬を包装した場合、収納性が良好で容易にふたが開閉できること。この場合、内容品に著しいがたつきがないこと。

(3) 本体とふたは、互換性があり、5(4)の気密性を満足すること。

(4) 8.1の気密性試験を行ったとき、20秒間気密を保持すること。

(5) 気密性が確認された金属容器は、8.2の耐衝撃性試験を行った後、8.1の気密性試験を行い、5(4)の気密性を満足すること。

(6) 非磁性を要求される金属容器は、どの部分も磁気を帯びないこと。

6. 塗装 塗装は、当該弾種の仕様書の規定による。

7. 表示 表示は、当該弾種の仕様書の規定による。

8. 試験方法

8.1 気密性試験 気密性試験は、附属書5付図3に示す気密性試験器具を用い、次の手順に従い試験を行う。

(1) コンプレッサから圧縮空気を送り、中間タンク内圧力を外部圧力より31.6kpa { 0.22 kgf/cm² } 高める。

(2) バルブを開き、タンク内圧力を外部圧力より21.6kpa { 0.22 kgf/cm² } 高める。

(3) バルブを閉じ、20秒間内部圧力を示すゲージの指針の振れを観測し、指針が下降する

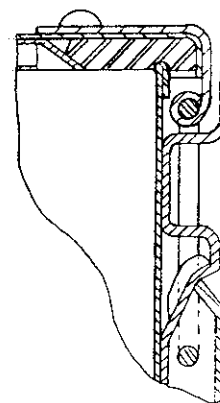
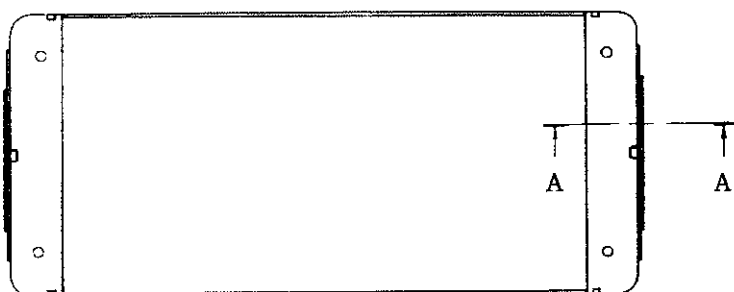
2 2

Y 7 9 0 1

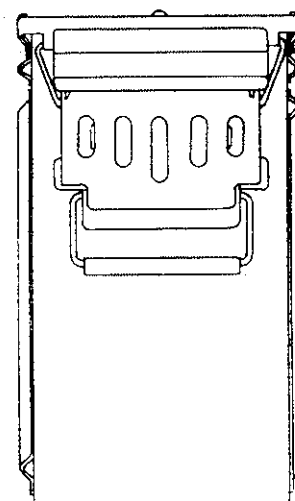
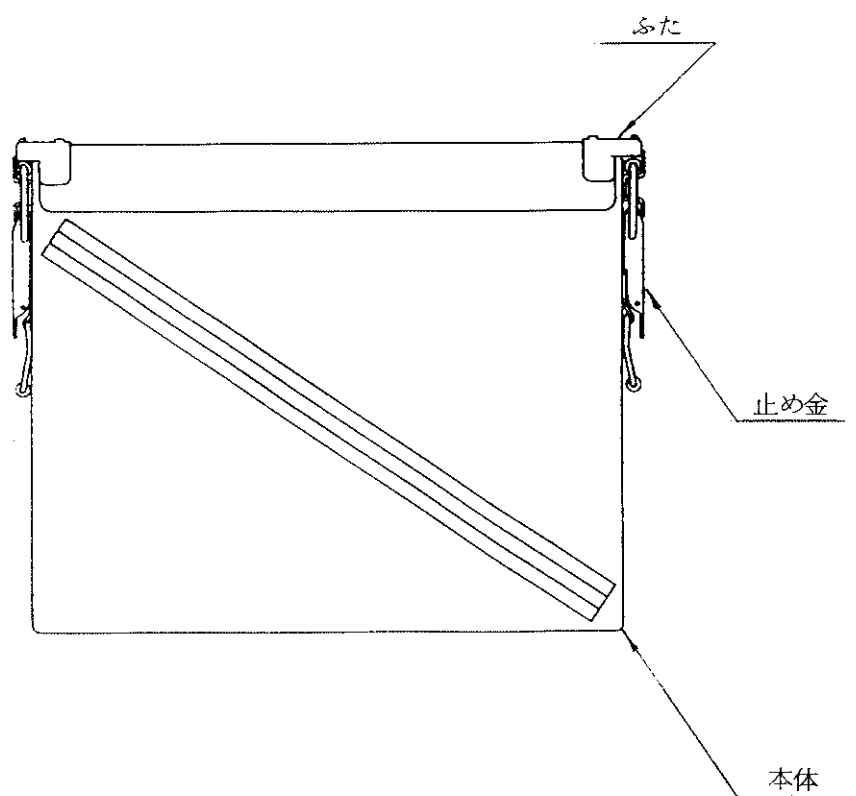
かどうかを確認する。

8.2 耐衝撃性試験 耐衝撃性試験は、金属容器の底面を、コンクリート又は鋼の床面に対し、水平にして1回、傾斜角 60 度以上にして1回、計2回落下させる。この場合、落下の高さは、30 cm 以上とする。

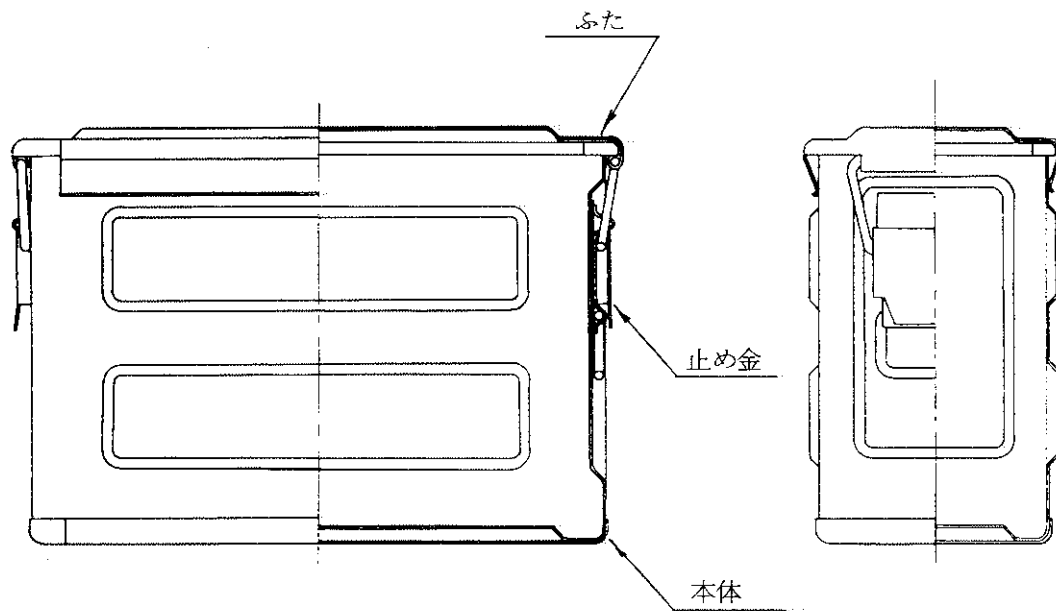
附属書 5 付図 1 金属容器形状



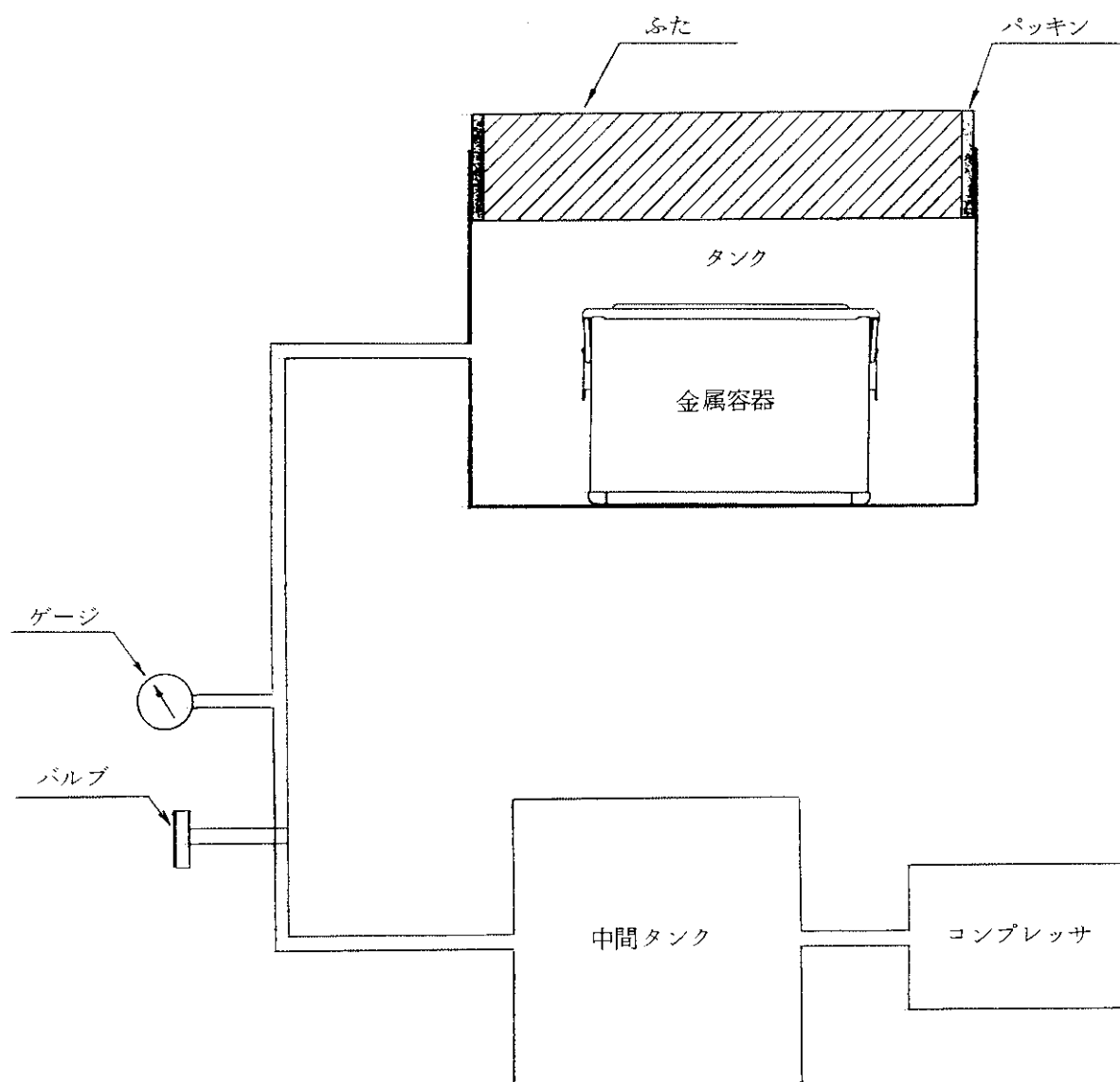
断面 A-A



附属書 5 付図 2 金属容器形状



附属書 5 付図 3 気密性試験器具の一例



小火器弾薬包装 解説

1. 作成の経緯 この規格は、口径20mm弾薬及び小火器用の国産された弾薬の包装について昭和56年度にその現状の調査研究を行い、これを参考として昭和57年度に、社団法人日本兵器工業会に原案作成を委託し、作成したものである。
2. リンクベルト リンクは、本来銃砲に給弾する目的のものであるが、包装の手順上、弾薬をリンクでベルト状に連結した後、紙箱、携行のう、金属缶、防湿袋又は金属容器に収納するのでリンクベルトをこの規格に収録したものである。
3. 用語の意味 用語の意味として、個装、内装及び外装は、現状を主体にして規定した。
また、金属缶と金属容器は、材質、厚さ、気密性試験方法及び使用目的が異なるため、用語の意味を規定した。
4. 区分 55種類の包装の種類を統合整理の結果13区分とし、構成は、個装、内装及び外装とした。
なお、参考として、各弾種に対する包装の細部区分を集約した解説付表及び包装形態の図を添付した。
5. 一般共通事項 一般共通事項は、包装資材などの将来の変革進歩に伴う包装方法及び試験方法の変更を考慮して記載した。
6. リンクベルト包装 リンクベルト包装は、リンクの構造、形状及び弾種による給弾方式の相違などによって、リンクベルトとしての性能及び試験方法も異なるため、仕様書で定めることとした。
7. 端数箱の表示 端数箱は、調達の都合により発生しやすいので表示方法について規定した。
8. 包装の表示・標識 包装の表示及び標識については、詳細は仕様書の図面によるが、表示項目及び表示位置については、標準化を考慮して、原則的なことを規定した。
9. 質量・容積・製造年月 質量及び容積の表示単位は、表示けた数並びに製造年月の年月の表示方法の統一を図った。
10. 包装の試験 包装の試験は、リンクベルト包装については、解説6.のとおりであり、その他の包装については、金属缶包装の気密性のみであるため金属缶包装の気密性のみに限定した。包装容器については、附属書で、はり合わせアルミニウムはく防湿袋の防湿試験・金属缶の気密性試験、木箱の含水率試験・強度試験（特に必要な場合のみ）、及び金属容器の気密性・耐衝撃性・非磁性の試験方法が規定されている。
11. 検査 包装の構成ごとに検査の際の欠点項目を挙げ検査の基準とした。
12. 附属書 各包装内容を附属書1～5として規定した。

解説付表 包装の細区分

弾 種 名	包装の細 部 区 分	個 装				装 携 行 の う				内 装				外 装				備 考
		リンクベルト	紙 箱	形 式	包装法	形 式	包装法	金 属 缶	形 式	包装法	防 湿 袋	形 式	包装法	木 箱	形 式	包装法		
89 式 5.56 mm 普通弾 89 式 5.56 mm えい光弾 5.56 mm 高圧試験弾	1 - 1	—	—	II - 5	G	—	—	III - 2	G	—	—	—	—	V - 2	B	—	20 発／紙箱-36(720 発)／金属缶-2缶(1440 発)／木箱	
	4 - 5	—	—	II - 6	H	—	—	—	—	IV - 4	A - 1	V - 2	D - 5	—	—	20 発／紙箱 -120 (2400 発) ／ 木箱		
	1 - 1	—	—	II - 1	A - 1	—	—	III - 1	A - 1	—	—	V - 1	A	—	—	20 発／紙箱 - 28 箱 (560 発) ／ 金属缶-2缶(1120 発)／木箱		
	1 - 2	—	—	II - 1	A - 1	—	—	III - 2	A - 2	—	—	V - 2	B	—	—	—		
	2	I - 1	A	II - 2	B	—	—	III - 2	B - 1	—	—	V - 2	B	—	—	100 発／リンク-1 連／紙箱-4 箱 (400 発) ／ 金属缶-2 缶 (800 発) ／ 木箱		
7.62 mm M 80 普通弾減装薬リンク	3	I - 1	A	II - 2	B	VIII	A	III - 2	B - 2	—	—	V - 2	B	—	—	100 発／リンク-1 連／紙箱／携行のう-4 のう (400 発) ／ 金属缶-2 缶 (800 発) ／ 木箱		
	1 - 6	—	—	II - 4	F	—	—	III - 2	F	—	—	V - 2	B	—	—	弾薬 10 発 , 補助雷管 10 個／紙箱-28 箱 (280 発) ／ 金属缶-2 缶 (560 発) ／ 木箱		
7.62 mm 狭さく弾	5	I - 1	A	II - 2	B	—	—	—	—	IV - 2	C	V - 2	E	—	—	100 発／リンク-1 連／紙箱-8 箱／防湿袋 (800 発) ／ 木箱		
67 式 7.62 mm てき弾発射薬筒	1 - 8	—	—	II - 1 - 1	A - 2	—	—	III - 3	C	—	—	V - 3	C	—	—	20 発／紙箱-7 箱 (140 発) ／ 金属缶-6 缶 (840 発) ／ 木箱		
空包 7.62 mm M 82 J	4 - 1 - 1	—	—	II - 1 - 2	A - 3	—	—	—	—	IV - 1	A - 1	V - 1	D - 1	—	—	20 発／紙箱-72 箱／防湿袋 (1440 発) ／ 木箱 - 官給		
	4 - 1 - 2	—	—	II - 1 - 2	A - 3	—	—	—	—	IV - 4	A - 1	V - 2	D - 4	—	—	—		
7.62 mm 擬製弾	4 - 4	—	—	II - 1	A - 1	—	—	—	—	IV - 3	B	V - 1	D - 2	—	—	20 発／紙箱 - 66 箱／防湿袋 (1320 発) ／ 木箱		
66 式 7.62 mm (30) M 2 普通弾 7.62 mm (30) M 25 えい光弾紙箱入	1 - 3	—	—	II - 1 - 5	C	—	—	III - 1	D	—	—	V - 1	A	—	—	20 発／紙箱 - 26 箱 (520 発) ／ 金属缶 - 2 缶 (1040 発) ／ 木箱		
66 式 7.62 mm (30) 狭さく弾	4 - 2	—	—	II - 1 - 3	A - 4	—	—	—	—	IV - 2	A - 2	V - 2	D - 3	—	—	20 発／紙箱 - 72 箱／防湿袋 (1440 発) ／ 木箱		
66 式 7.62 mm (30) 空包	4 - 3	—	—	II - 1 - 4	A - 5	—	—	—	—	IV - 1	A - 1	V - 1	D - 1	—	—	20 発／紙箱 - 72 箱／防湿袋 (1440 発) ／ 木箱 - 官給		

解説付表 包装の細部区分(続き)

弾 種 名	包装の細部区分	個 装				装 束				内 装				外 装				備 考
		リンクベルト		紙 箱		携行のう		金 属 缶		防 湿 袋		木 箱		金 属 容 器				
		形 式	包装法	形 式	包装法	形 式	包装法	形 式	包装法	形 式	包装法	形 式	包装法	形 式	包装法			
9mm普通弾 9mm高圧試験弾	1-5	—	—	II-3-2	E-2	—	—	III-4	E-2	—	—	V-4	F	—	—	50発/紙箱-16箱(800発)/金属缶-2缶(1600発)/木箱		
66式11.4mmM1911普通弾	1-4	—	—	—	E-1	—	—	III-4	E-1	—	—	V-4	F	—	—	50発/紙箱-12箱(600発)/金属缶-2缶(1200発)/木箱		
66式12.7mmM2普通弾 12.7mmM2徹甲弾リンク付	6-1	I-2	B	—	—	—	—	III-1	A-3	—	—	V-1	A	—	—	110発/リンク-1連/金属缶-2缶(220発)/木箱		
12.7mmM17えい光弾紙箱人 12.7mm高圧試験弾	1-6	—	—	II-7-1	F	—	—	III-1	A-4	—	—	V-1	A	—	—	10発/紙箱-12箱(120発)/金属缶-2缶(240発)/木箱		
64式12.7mmM48Aえい光 標示弾	1-7	—	—	II-7-2	G	—	—	III-1	A-5	—	—	V-1	A	—	—	10発/紙箱-14箱(140発)/金属缶-2缶(280発)/木箱		
66式12.7mm空包	6-2	I-2	C	—	—	—	—	III-1	A-8	—	—	V-1	A	—	—	75発/リンク-2連(150発)/金属缶-2缶(300発)/木箱-信給		
12.7mm擬製弾	11	—	—	II-7-1	F	—	—	—	—	—	—	V-1	J	—	—	10発/紙箱-24箱(240発)/木箱		
20mm普通弾 20mm実弾 20mm曳光弾 20mm曳光自爆りゅう弾 20mm空包	7-2	I-3	D	—	—	—	—	—	—	IV-5-1	D	V-5	G	—	—	100発/リンク-1連/防湿袋(100発)/木箱		
20mm普通弾 20mm曳光弾 20mm高圧弾 20mm擬製弾	8	—	—	—	—	—	—	—	—	IV-5-2	E	V-6	H	—	—	100発/リンク/防湿袋(100発)/木箱		
20mm機関砲用演習弾薬包 (バルカン) 20mm機関砲用えい光演習 弾薬包(バルカン) 20mm機関砲用りゅう弾薬 包(バルカン) 20mm機関砲用救済弾薬包 (バルカン) 20mmえい光自爆りゅう弾 薬包 20mm対空機関砲用空包	9-2-1	I-3	D	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	IV-2	C	100発/リンク-1連/金属容器		

解説付表 包装の細部区分（続き）

弾 種 名	包装の細部区分	個 装			内 装			外 装			備 考	
		リンク形式	ペルト形式	紙 箱形式	金 属 缶形式	防 湿 袋形式	木 箱形式	金 属 容 器		段 ボ ール形式		
								包装法	包装法			
20mm機関砲用演習弾薬包 (バルカン) 20mm機関砲用えい光演習 弾薬包(バルカン) 86式20mm 機関砲用徹甲 弾薬包 20mmえい光自爆りゅう弾 薬包 20mm対空機関砲用空包	10	—	—	—	—	—	—	—	—	—	100発/バルク/金属容器	
	6	I-3	D	—	—	—	—	V-7	I	—	—	25発/リンク-1連/金属缶-3缶(75 発)/木箱
	12	—	—	—	—	—	—	V-1	A	—	—	50発/バルク/金属缶-2缶(100発)/ 木箱
	13	I-3	—	III	—	—	—	—	—	—	—	10個/紙箱-50箱(500個)/段ボール箱
	9-1	I-3	D	—	—	—	—	—	—	—	—	100発/リンク-1連/金属容器
20mm擬装弾(リンクなし)	10-1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	100発/バルク/金属容器

解説付表（ 続 き ）

備考 解説付表の見方及び記号付与の説明

- 1 包装の区分は、本体表1の区分に合わせ、同一区分の中でも構成品の形式、内容品の数量及び包装法に相違のある場合は、枝番号を付した。

例：1－1，1－2，1－3 など

- 2 形式は、リンク，紙箱，金属缶，防湿袋，木箱，金属容器及びダンボールの順にローマ数字でⅠ，Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ，Ⅴ，Ⅵ及びⅦを付与し，携行のうについては，Ⅷを付与した。

なお，内容品の数量の同数のものには，次にアラビア数字を付与した。

例：Ⅰ－1，Ⅱ－1 など。

更に，上記のうち形状寸法の相違するものは，その次にアラビア数字を付与して区分した。

例：Ⅱ－1－1，Ⅱ－1－2 など。

- 3 包装法は，リンク，紙箱など各包装単位ごとに包装法の異なる順に従い，表中の縦方向に上部からローマ字を付与し区分した。

例：A，B，C など。

なお，内容品の弾種及び数量の同一，又は包装法が同一のものには，次にアラビア数字を付与して区分した。

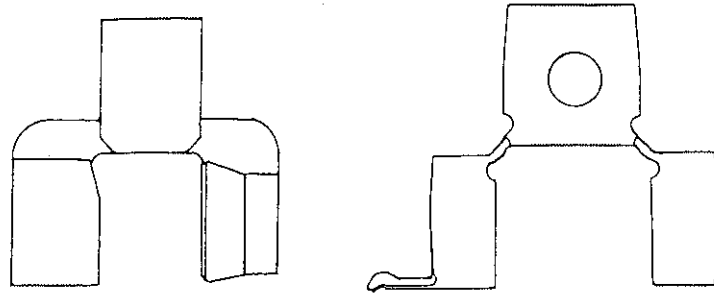
例：A－1

更に，上記のうち包装法の多少相違するものには，他のアラビア数字を付与し区分した。

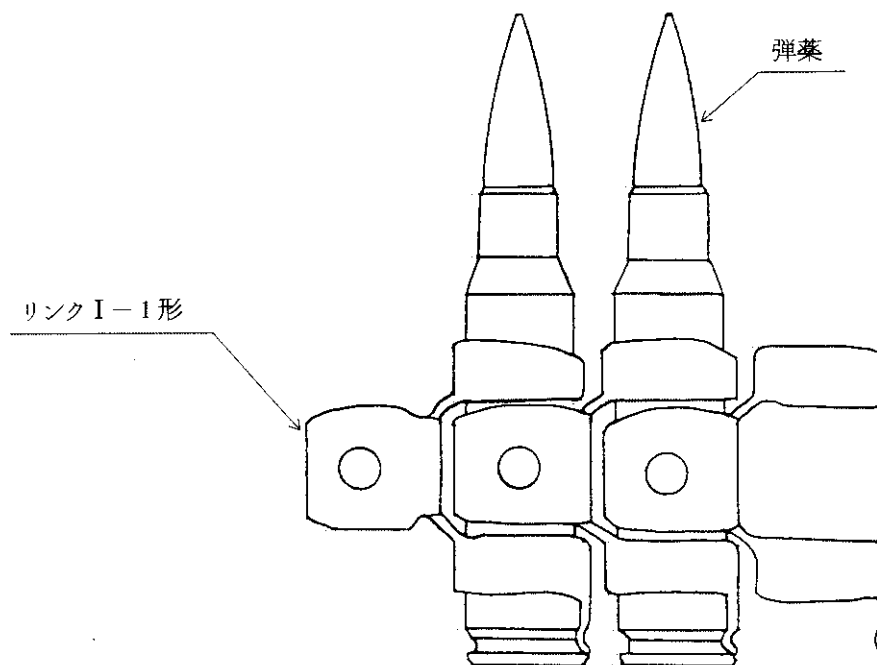
例：A－2，A－3 など。

- 4 解説付表と次ページ以降の図（形式及び包装法の記号を記述。）とが対照できる。
- 5 解説付図に示す紙箱，金属缶，ターポリン紙，金属容器，木箱等の形状及び寸法は，参考形状及び参考値とする。

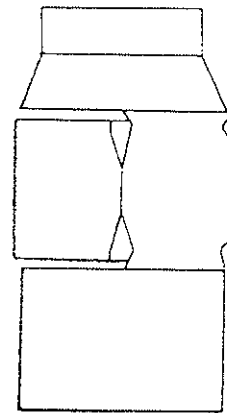
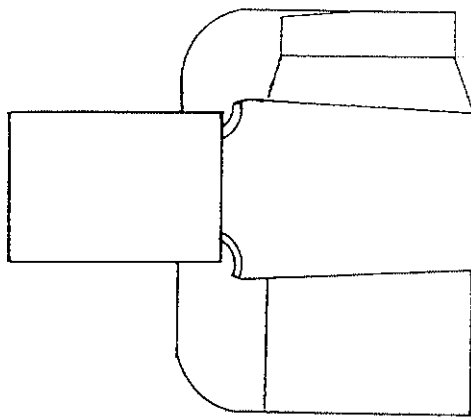
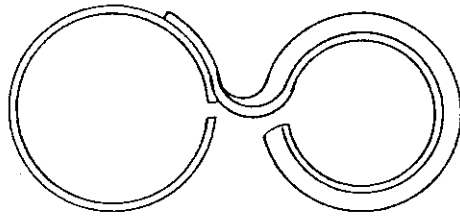
解説付図 1-1 リンク I-1 形



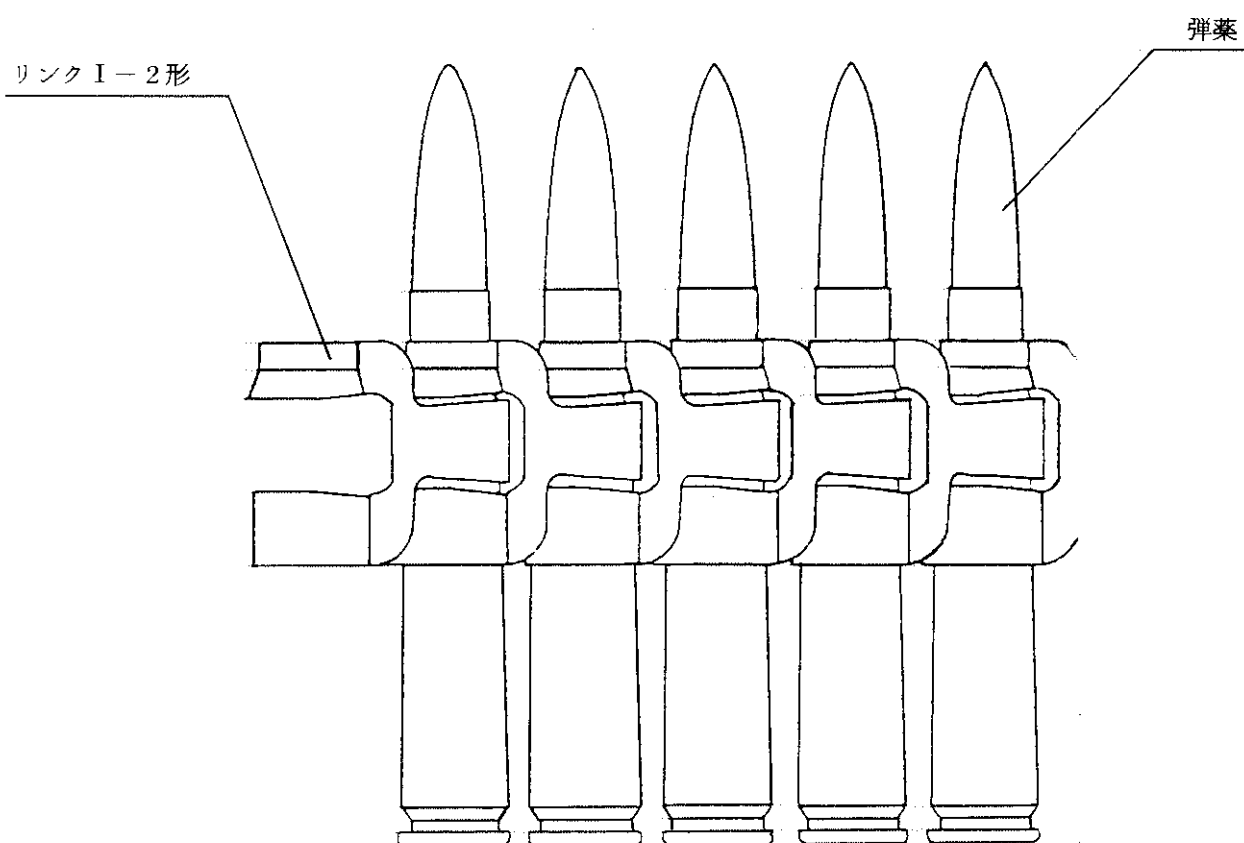
解説付図 1-2 個装（リンクベルト）包装法 A（100発リンク）



解説付図 2-1 リンク I-2 形



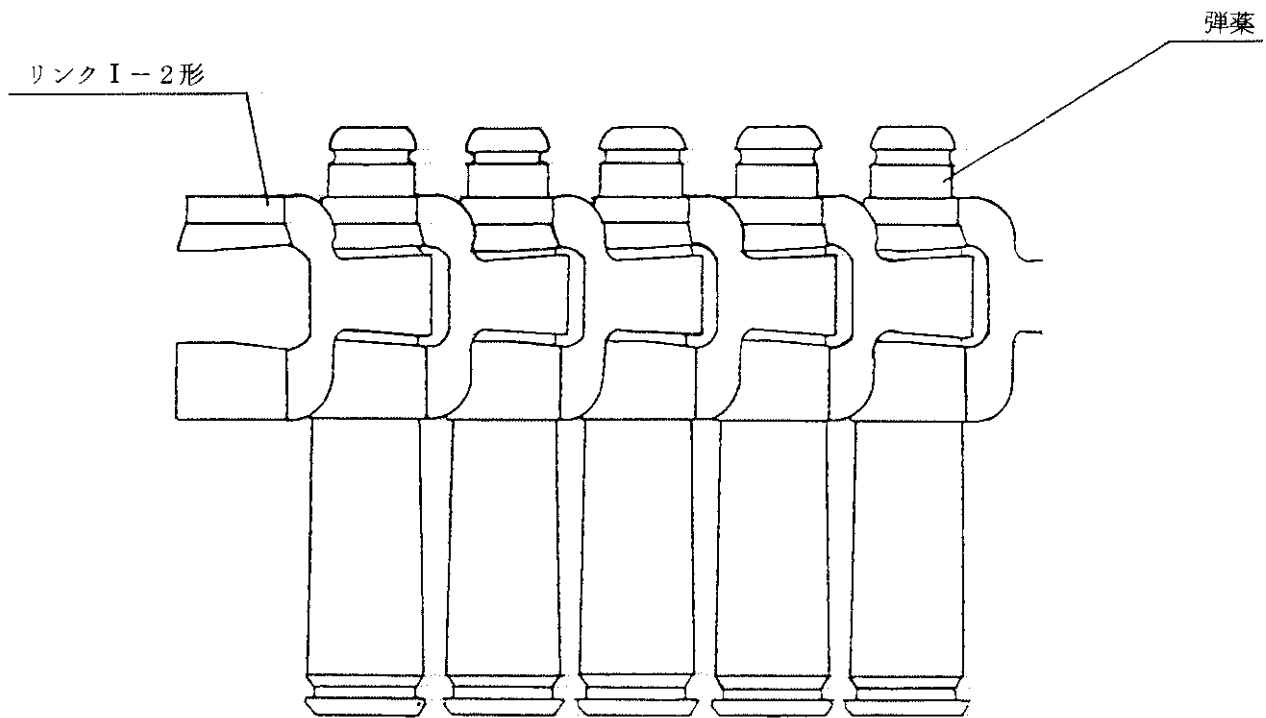
解説付図 2-2 個装（リンクベルト）包装法 B



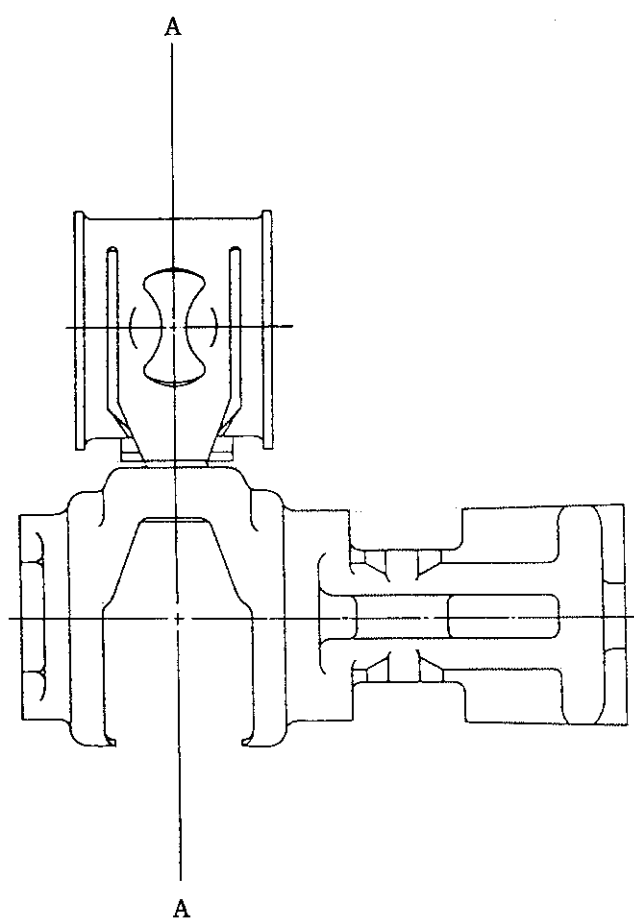
10

Y 7901 解説

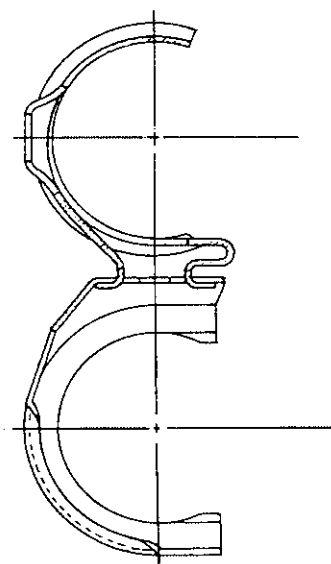
解説付図 2-3 個装（リンクベルト）包装法 C



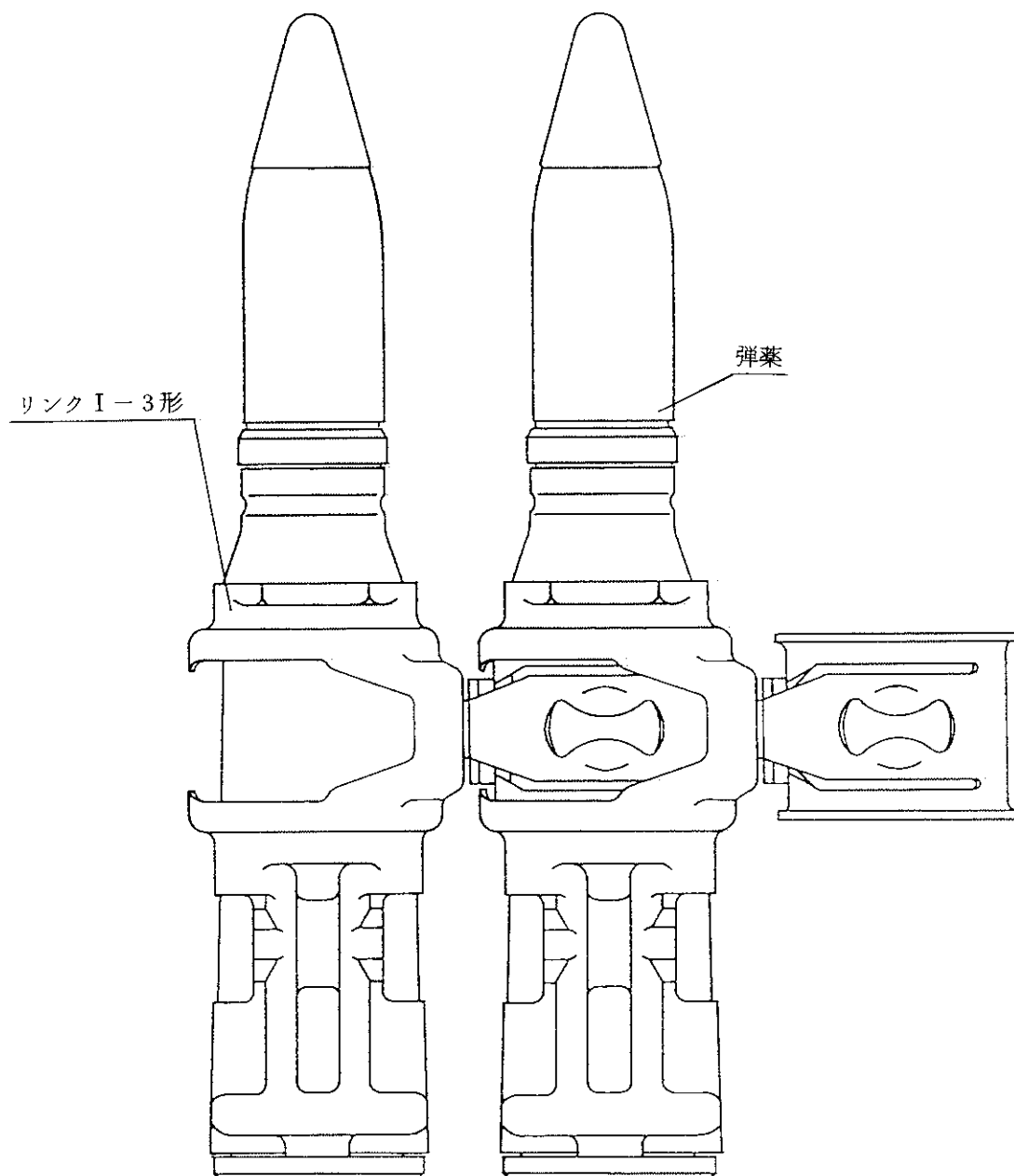
解説付図 3-1 リンク I-3 形



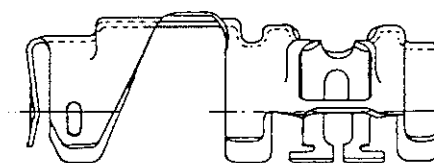
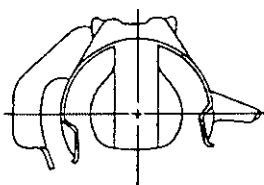
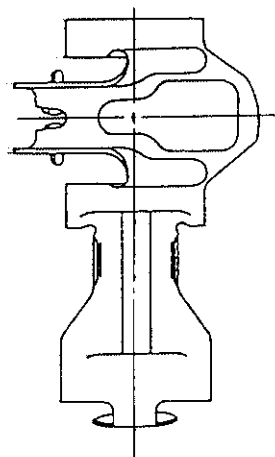
断面 A A



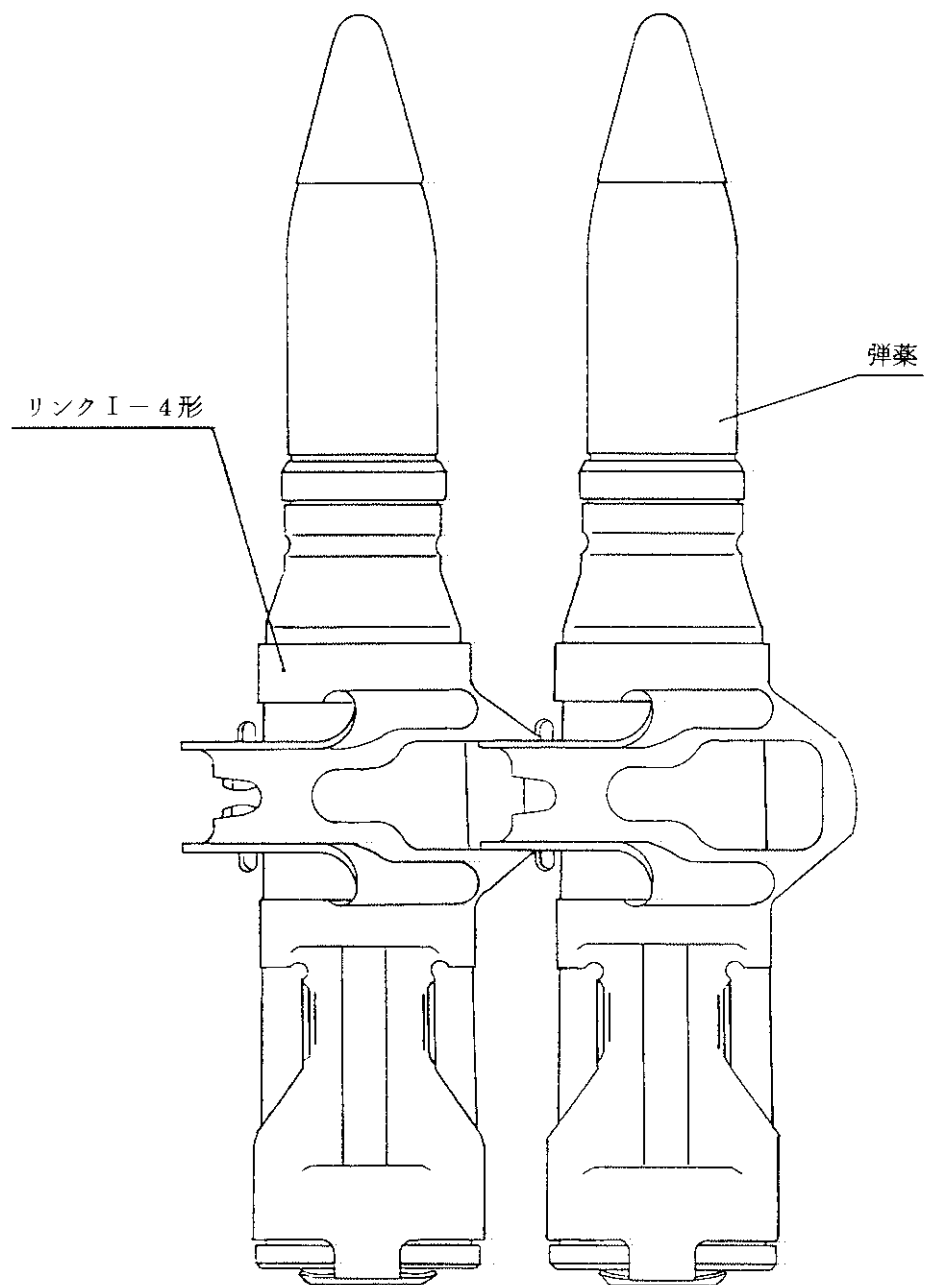
解説付図 3-2 個装（リンクベルト）包装法 D



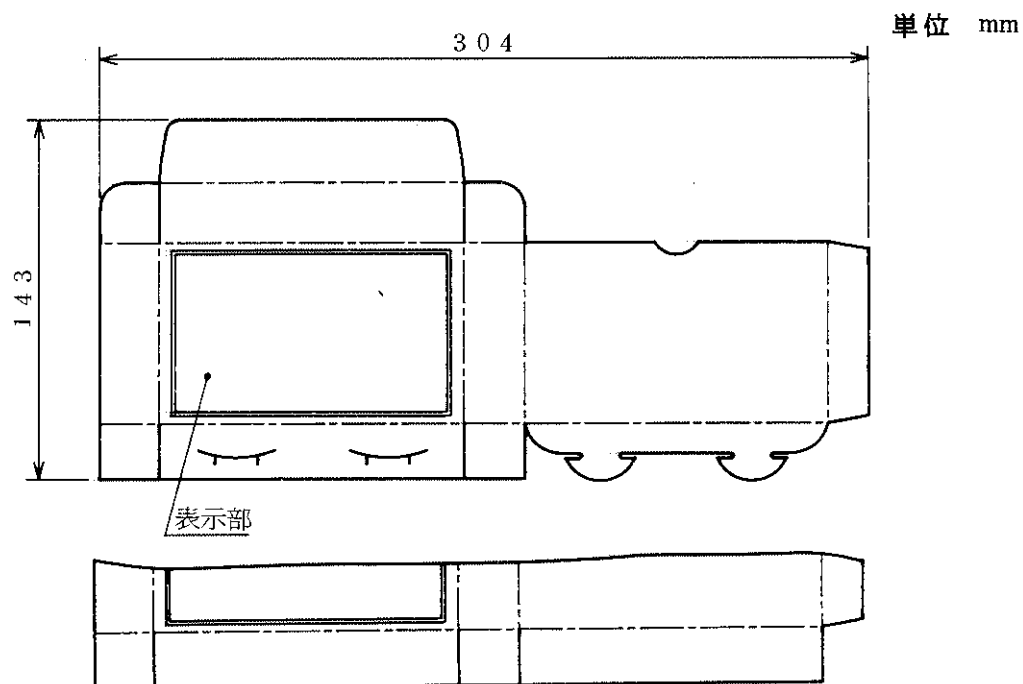
解説付図 4-1 リンク I-4 形



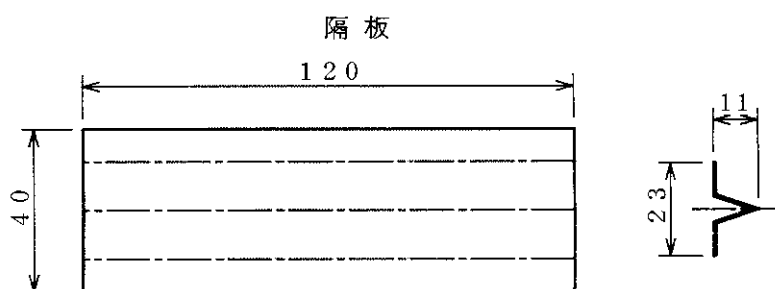
解説付図 4-2 個装（リンクベルト）包装法 E



解説付図 5-1 紙箱展開図 II-1 形

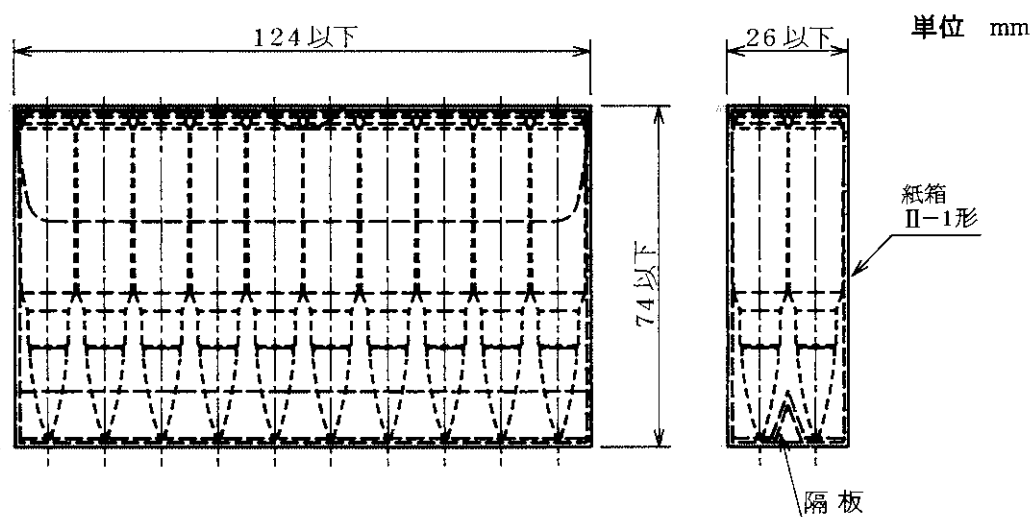


底部組立の代替方法（接着）



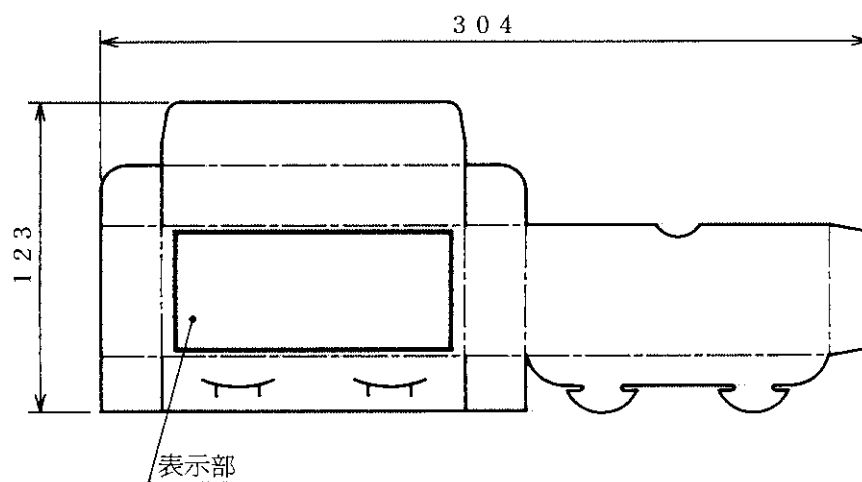
備考 一点鎖線（---）は、折り目を示す。

解説付図 5-2 個装（紙箱）包装法 A-1（20 発入）



解説付図 6-1 紙箱展開図 II-1-1 形

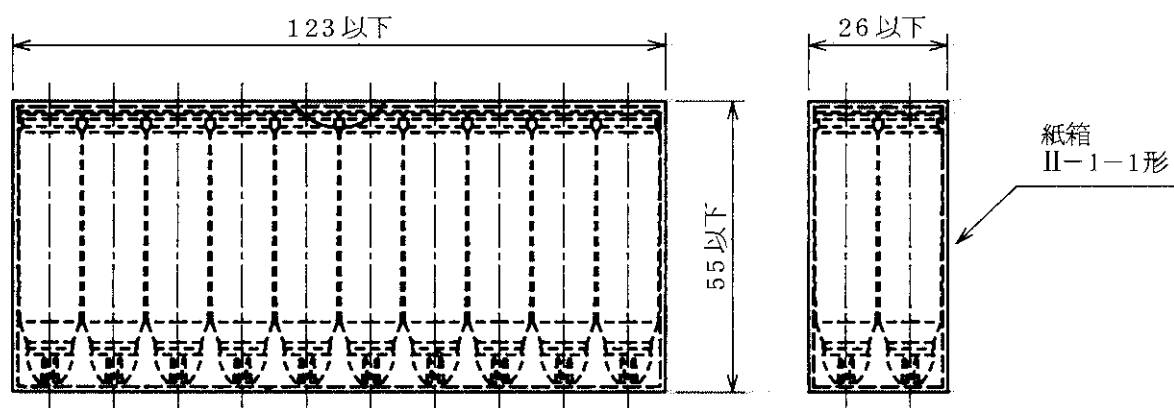
単位 mm



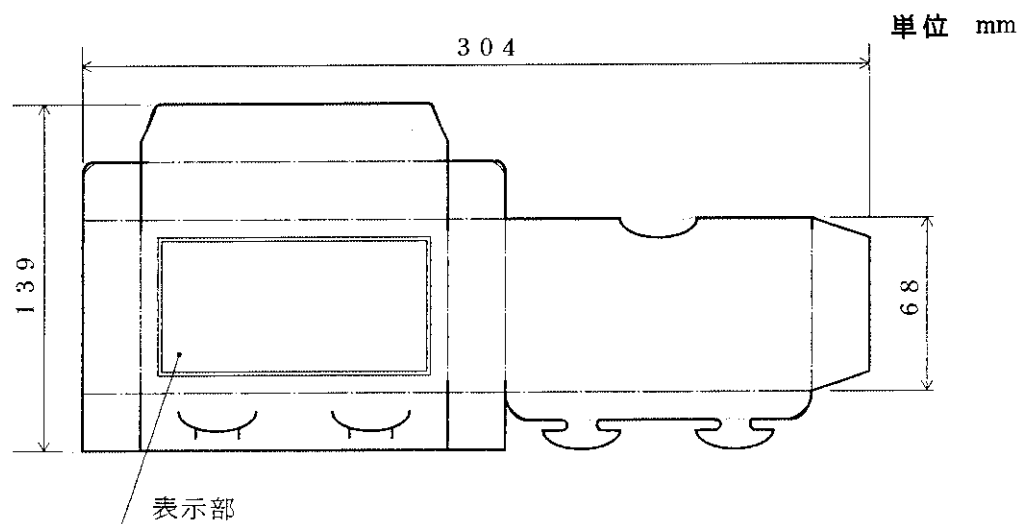
- 備考 1. 一点鎖線 (— · —) は、折り目を示す。
 2. 底部組立の代替方法 (接着)

解説付図 6-2 個装 (紙箱) 包装法 A-2 (20 発入)

単位 mm



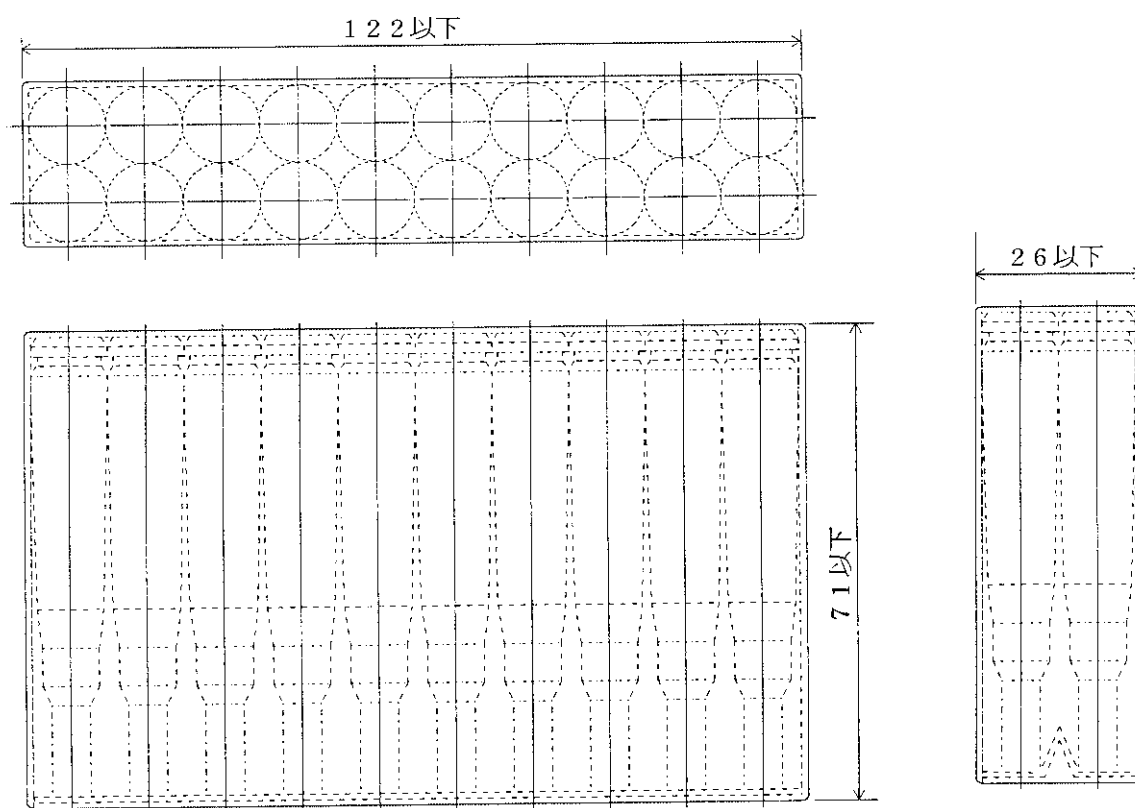
解説付図 7-1 紙箱展開図 II-1-2 形



備考 一点鎖線 (——-——) は、折り目を示す。

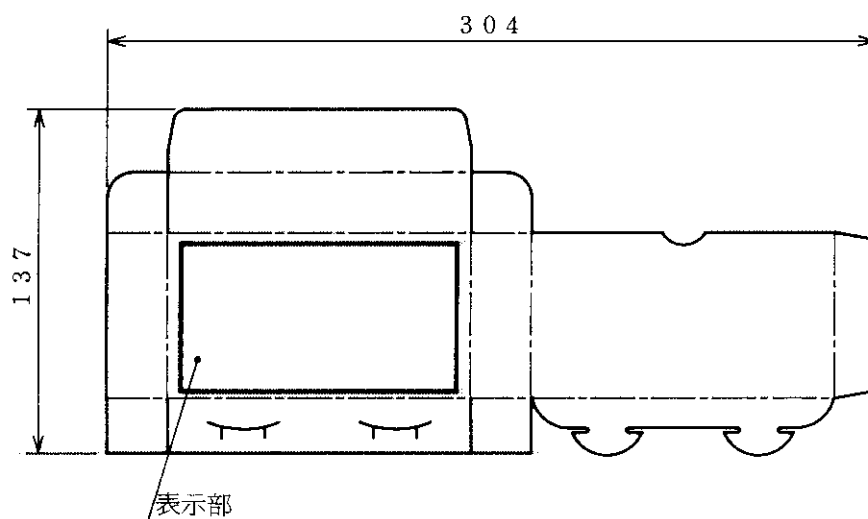
解説付図 7-2 個装(紙箱)包装法 A-3 (20 発入)

単位 mm



解説付図 8 - 1 紙箱展開図 II - 1 - 3 形

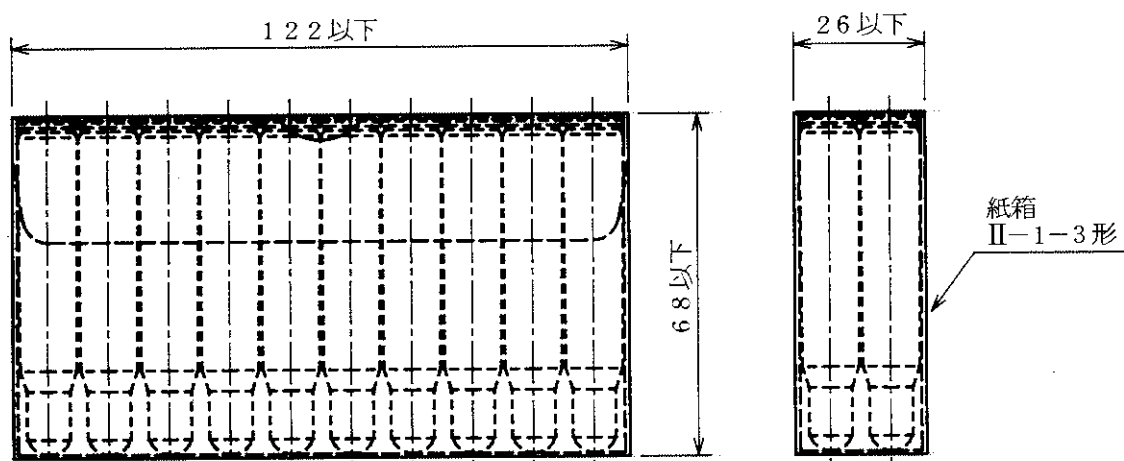
単位 mm



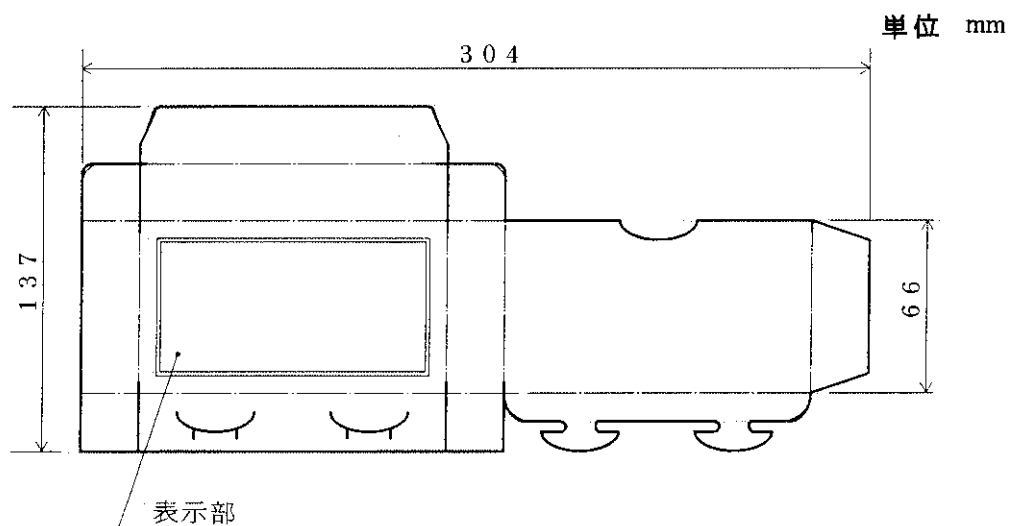
- 備考 1. 一点鎖線 (— · —) は、折り目を示す。
 2. 底部組立の代替方法 (接着)

解説付図 8 - 2 個装 (紙箱) 包装法 A - 4 (20 発入)

単位 mm



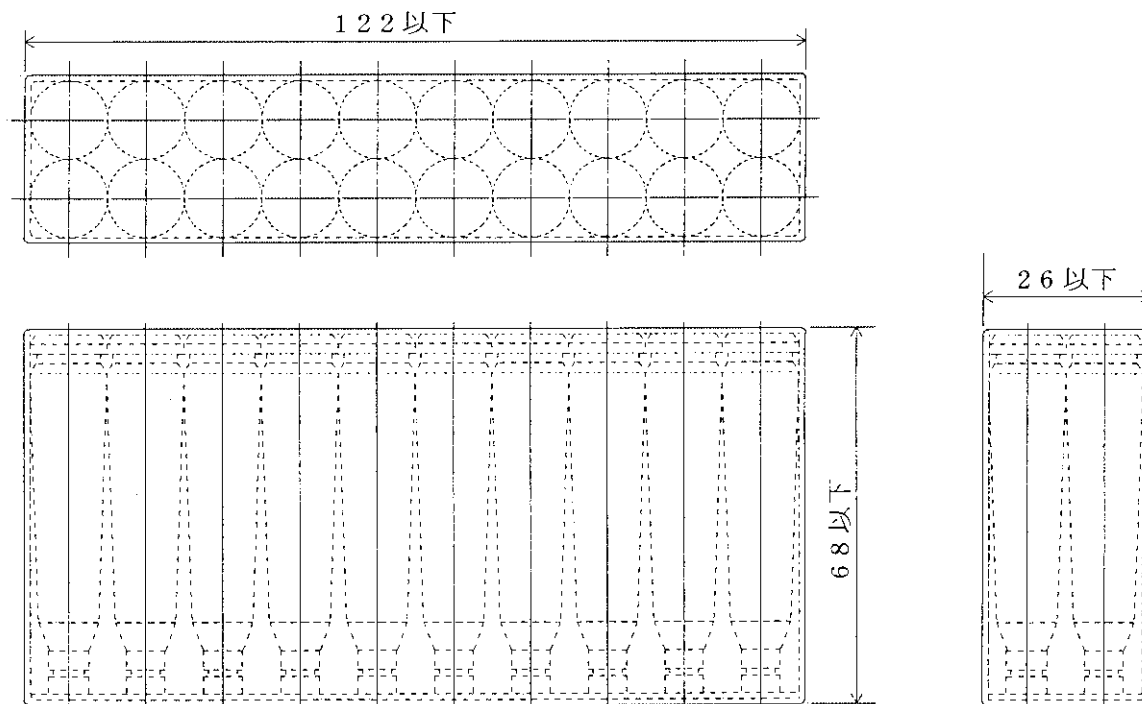
解説付図 9-1 紙箱展開図 II-1-4 形



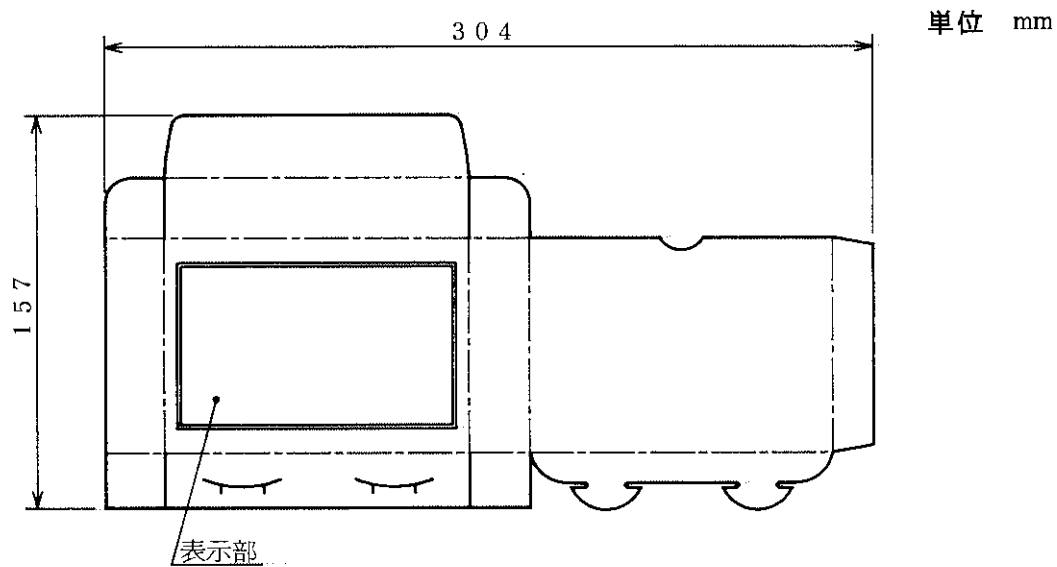
- 備考
1. 一点鎖線 (— · —) は、折り目を示す。
 2. 底部組立の代替方法 (接着)

解説付図 9-2 個装 (紙箱) 包装法 A-5 (20 発入)

単位 mm

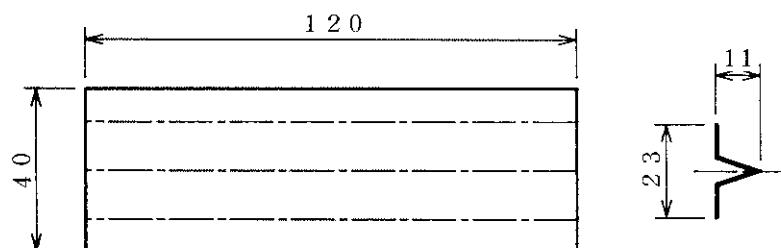


解説付図 10-1 紙箱展開図 II-1-5 形



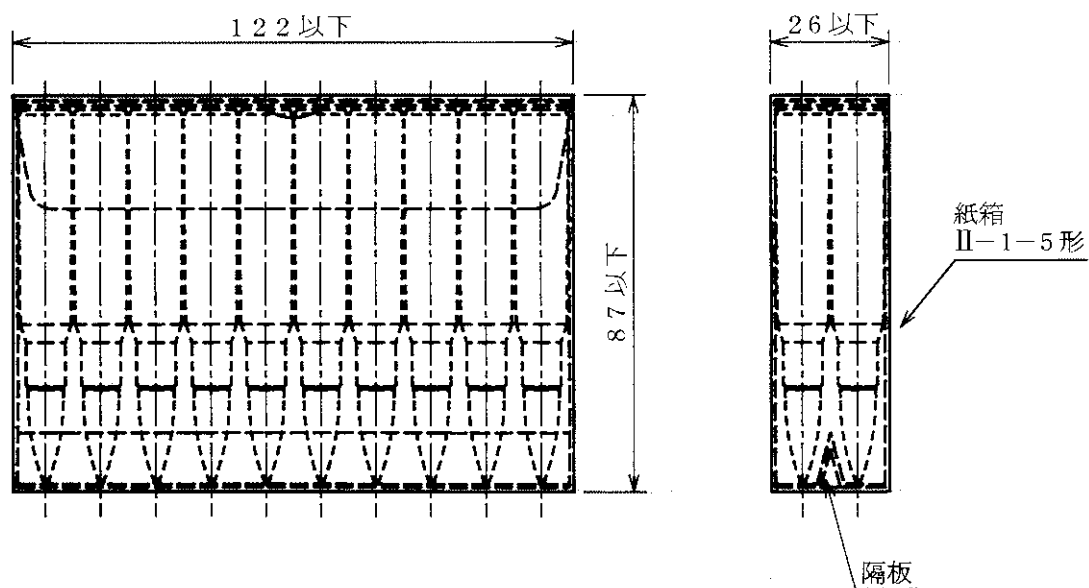
備考 底部組立ての代替方法（接着）

隔板

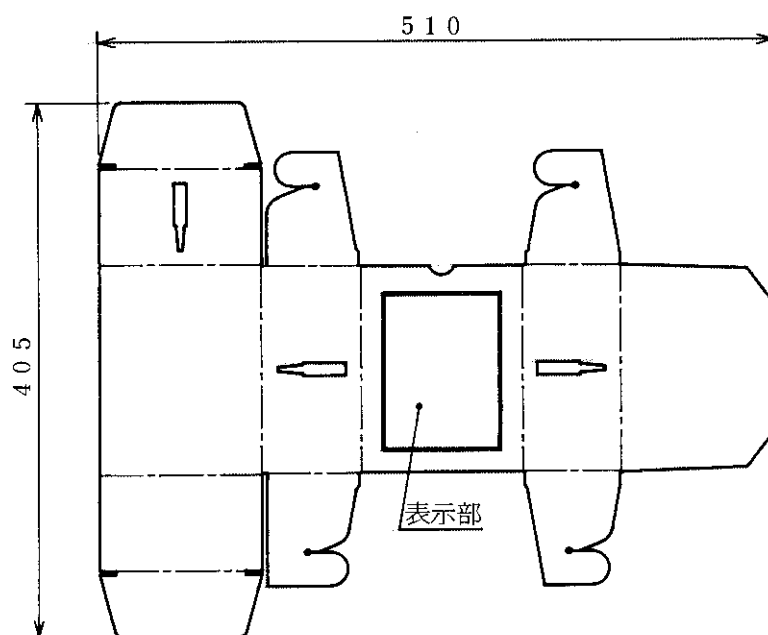


解説付図 10-2 個装（紙箱）包装法 C（20 発入）

単位 mm



解説付図 11 - 1 紙箱展開図 II - 2 形

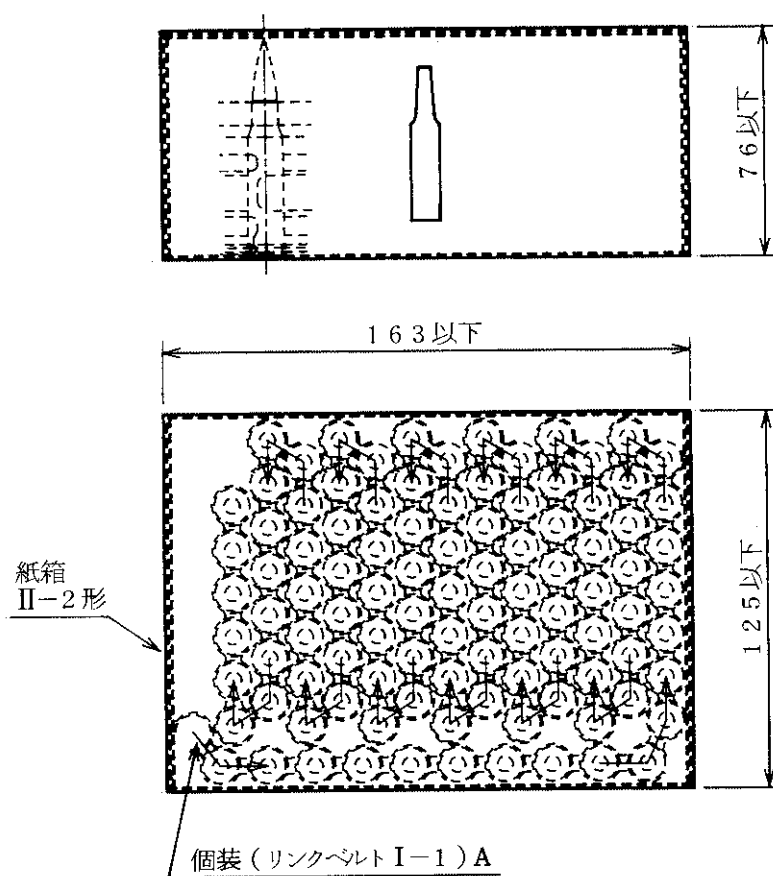


単位 mm

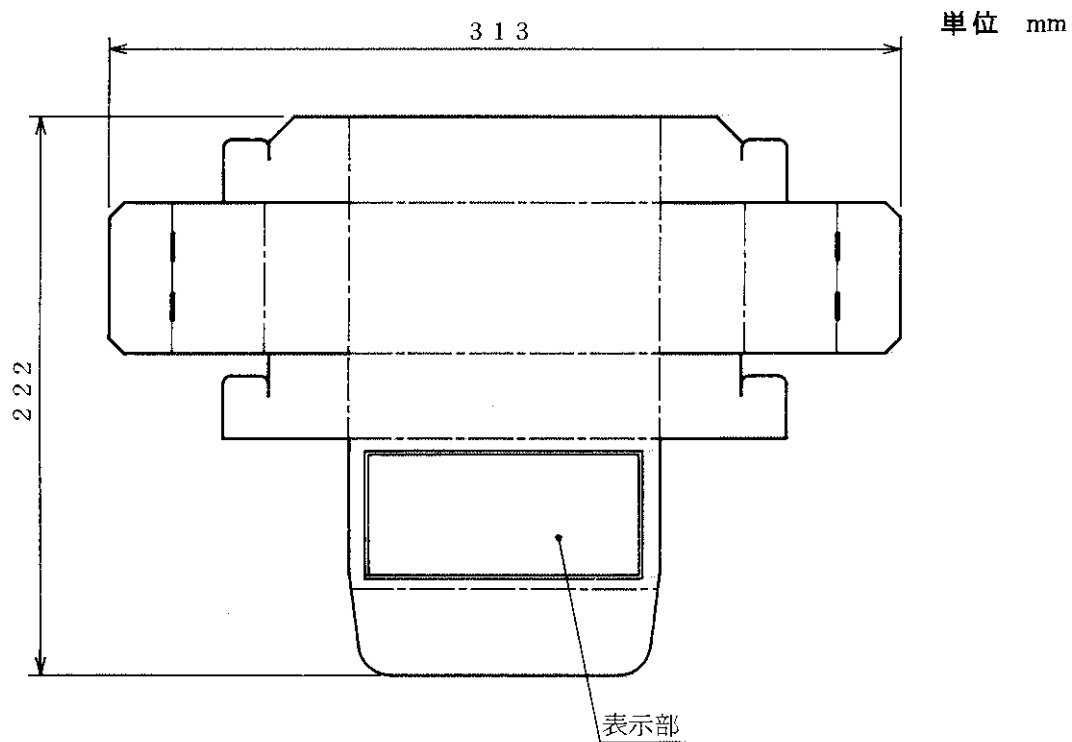
備考 一点鎖線(---)は、折り目を示す。

解説付図 11 - 2 個装(紙箱)包装法 B (100発リンク1連入り)

単位 mm



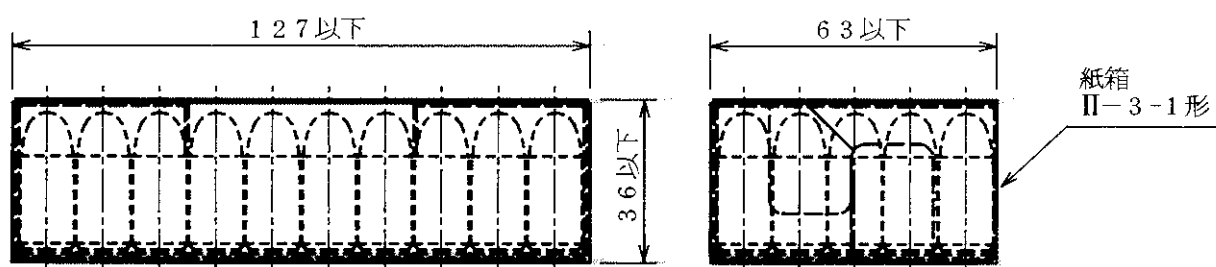
解説付図 12-1 紙箱展開図 II-3-1 形



備考 一点鎖線(---)は、折り目を示す。

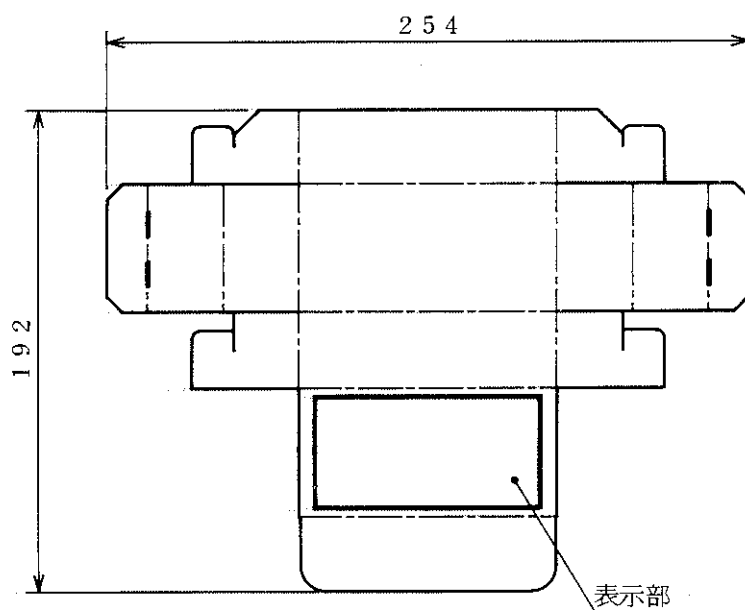
解説付図 12-2 個装(紙箱)包装法 E-1 (50 発入)

単位 mm



解説付図 13 - 1 紙箱展開図 II - 3 - 2 形

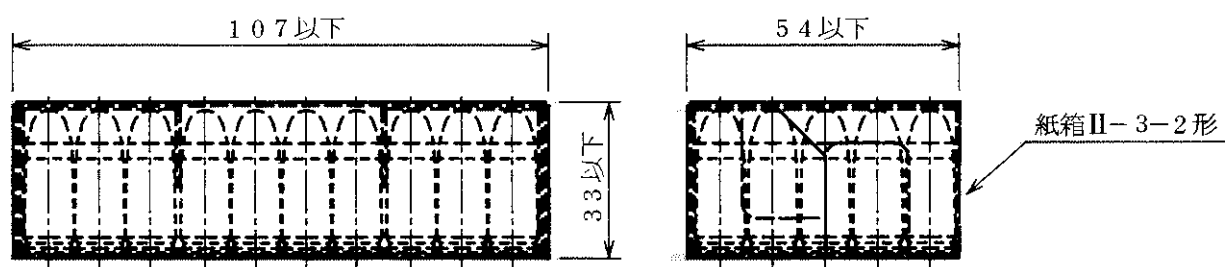
単位 mm



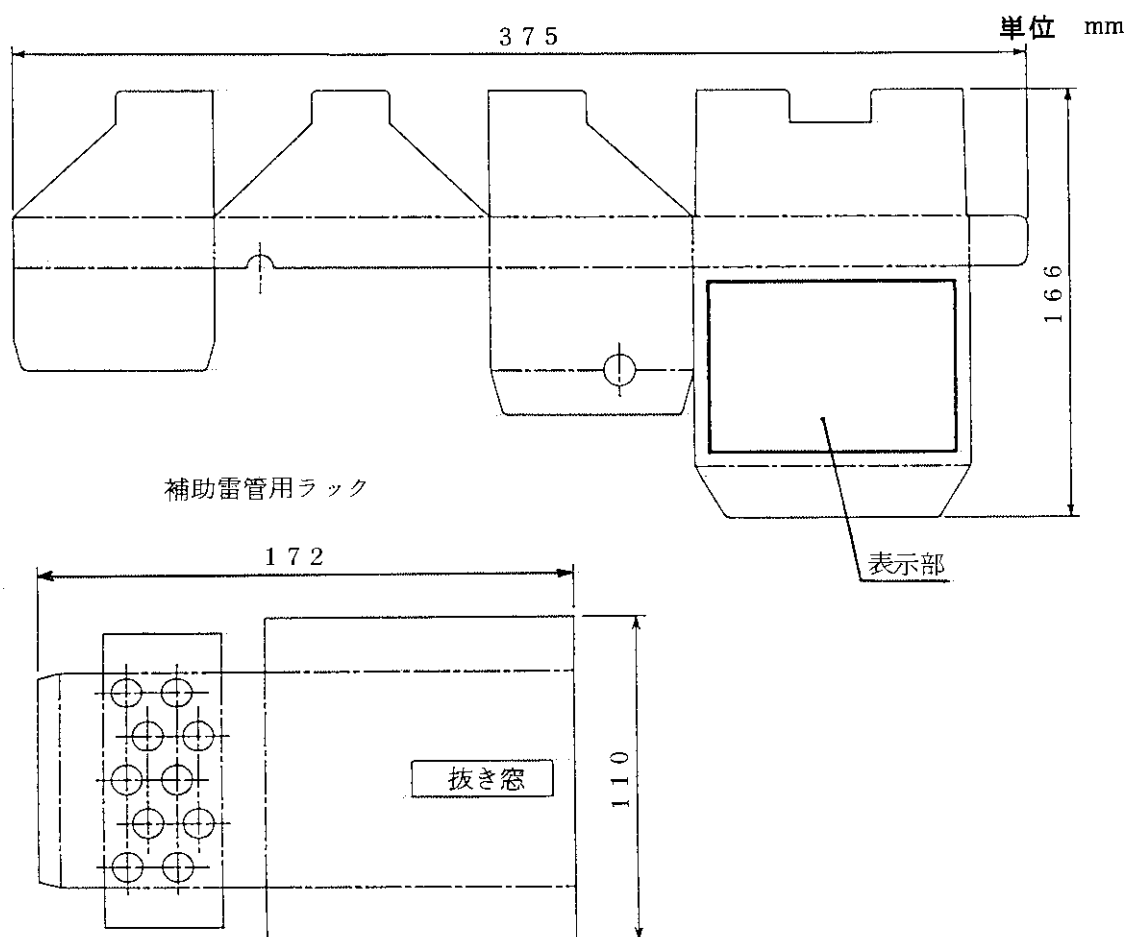
備考 一点鎖線(---)は、折り目を示す。

解説付図 13 - 2 個装(紙箱)包装法 E - 2 (50 発入)

単位 mm



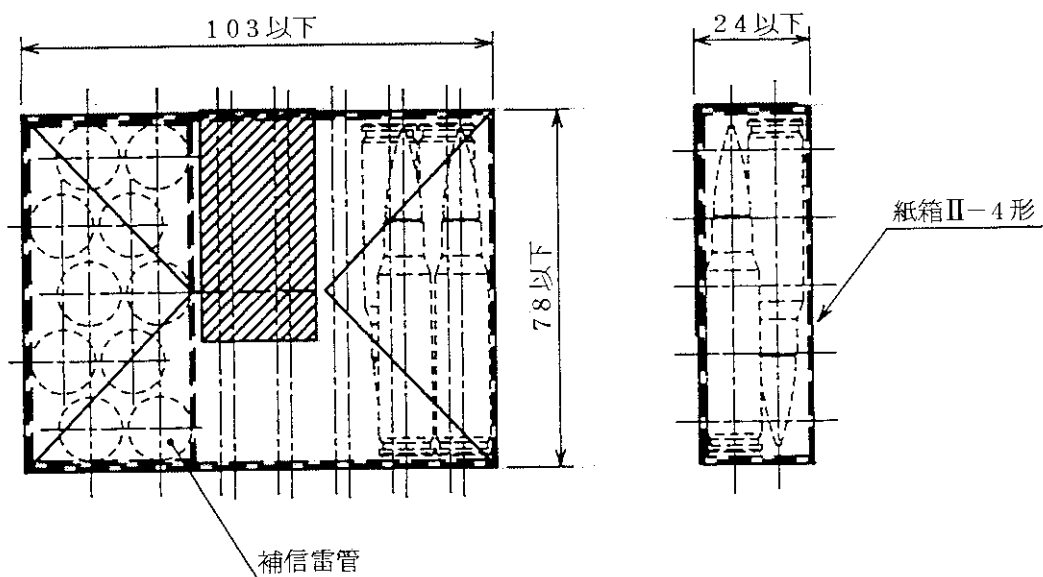
解説付図 14-1 紙箱展開図 II-4 形



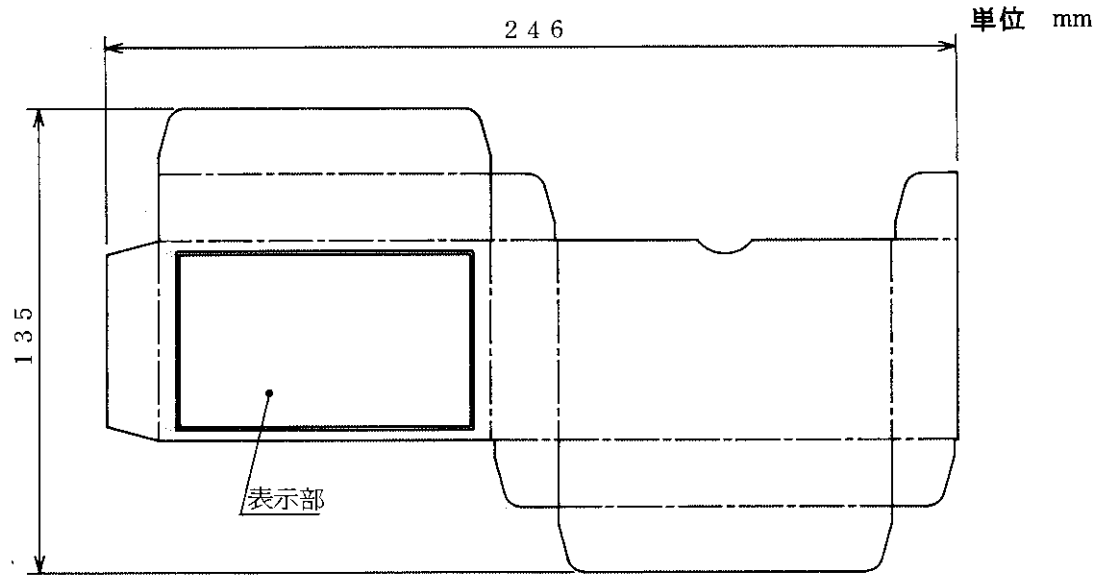
備考 一点鎖線(---)は、折り目を示す。

解説付図 14-2 個装(紙箱)包装法 F(10 発入)

単位 mm

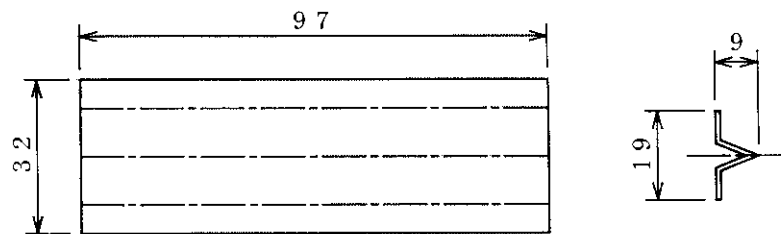


解説付図 15 - 1 紙箱展開図 II - 5 形



備考 底部組立ての代替方法（接着）

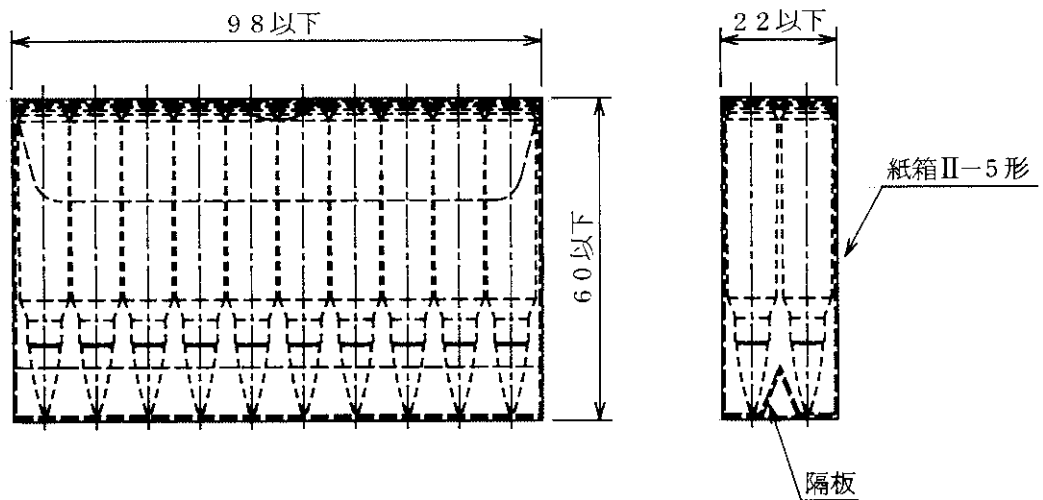
隔板



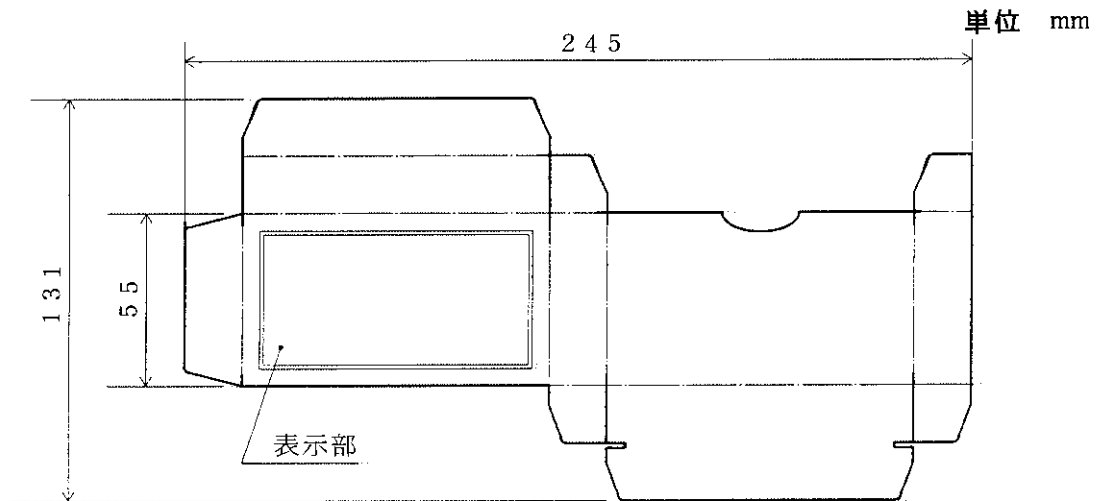
備考 一点鎖線（---）は、折り目を示す。

解説付図 15 - 2 個装（紙箱）包装法 G（20 発入）

単位 mm



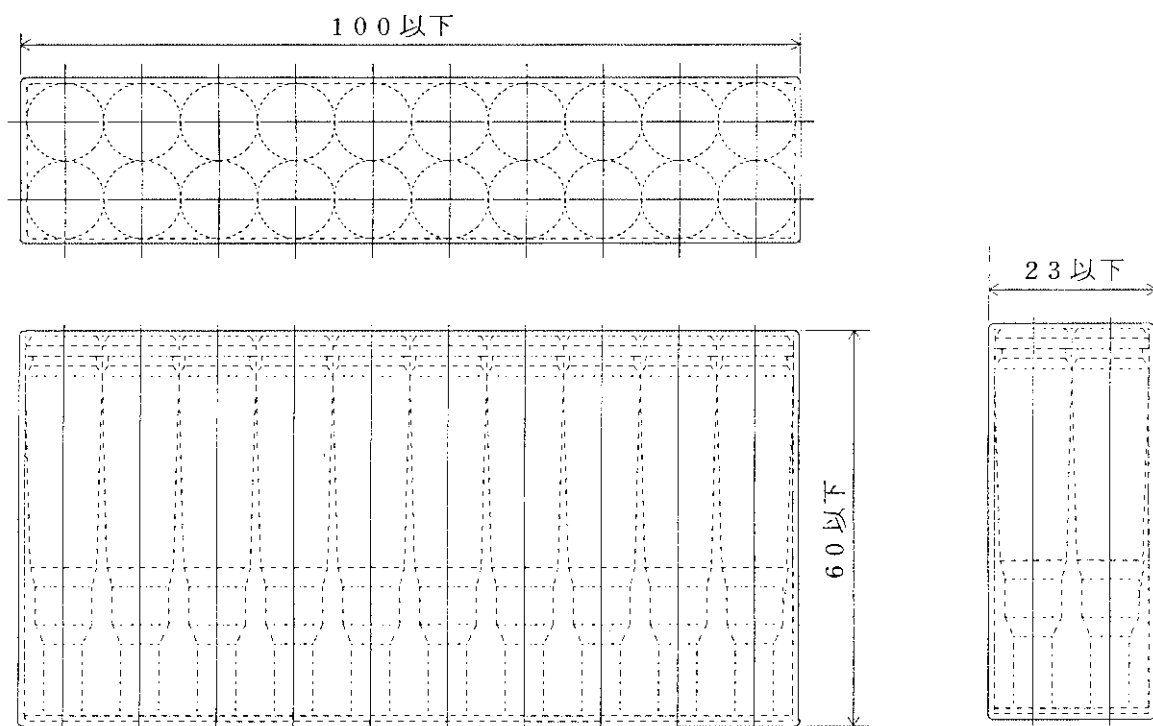
解説付図 16 - 1 紙箱展開図 II - 6 形



- 備考 1 一点鎖線 (— · — · —) は、折り目を示す。
 2 底部組立の代替方法 (接着)

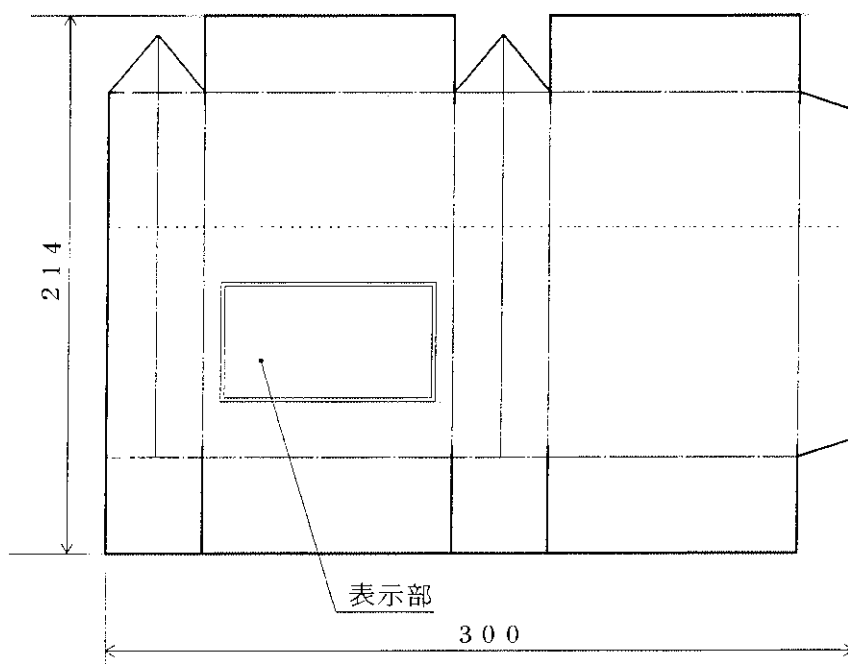
解説付図 16 - 2 個装 (紙箱) 包装法 H (20 発入)

単位 mm



解説付図 17-1 紙箱展開図 II-7-1 形

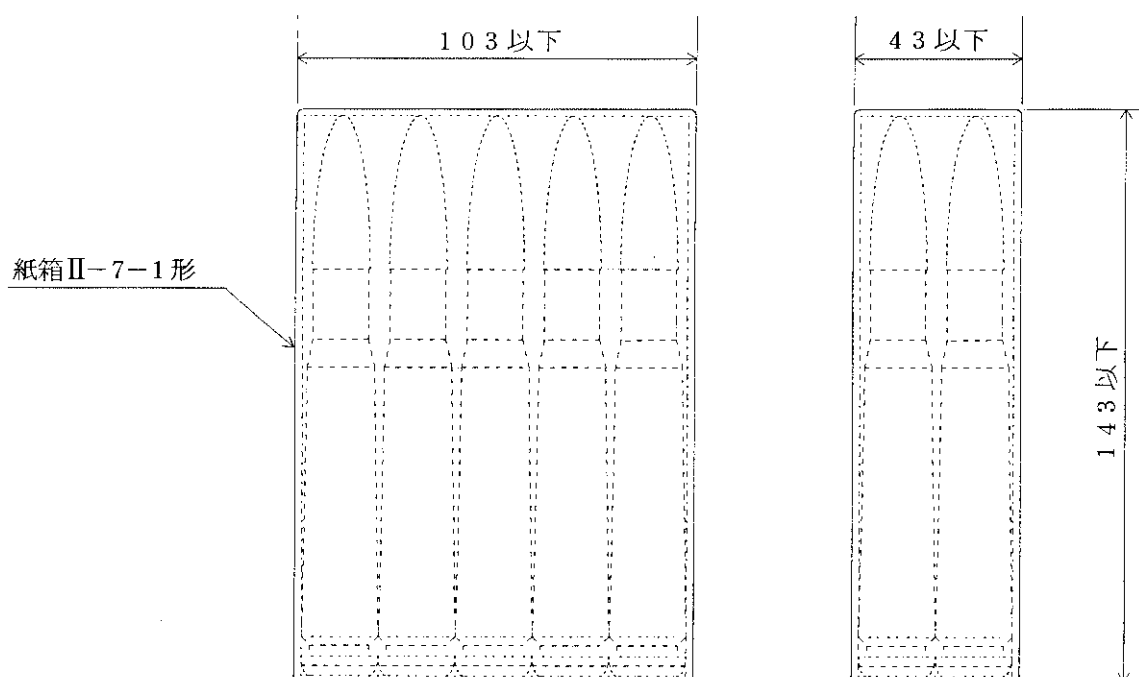
単位 mm



備考 一点鎖線(---)は、折り目を示す。

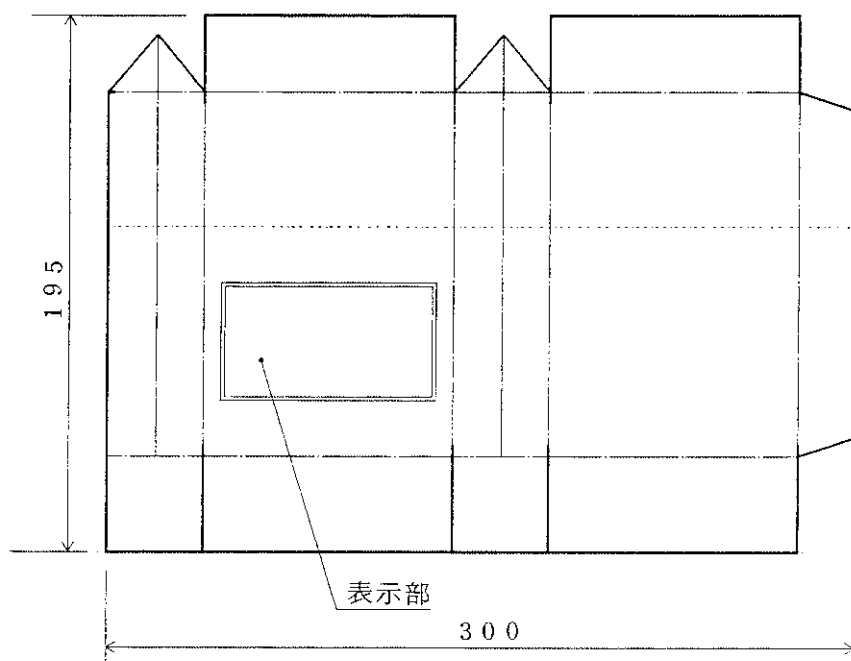
解説付図 17-2 個装(紙箱)包装法 F (10 発入)

単位 mm



解説付図 18-1 紙箱展開図 II-7-2 形

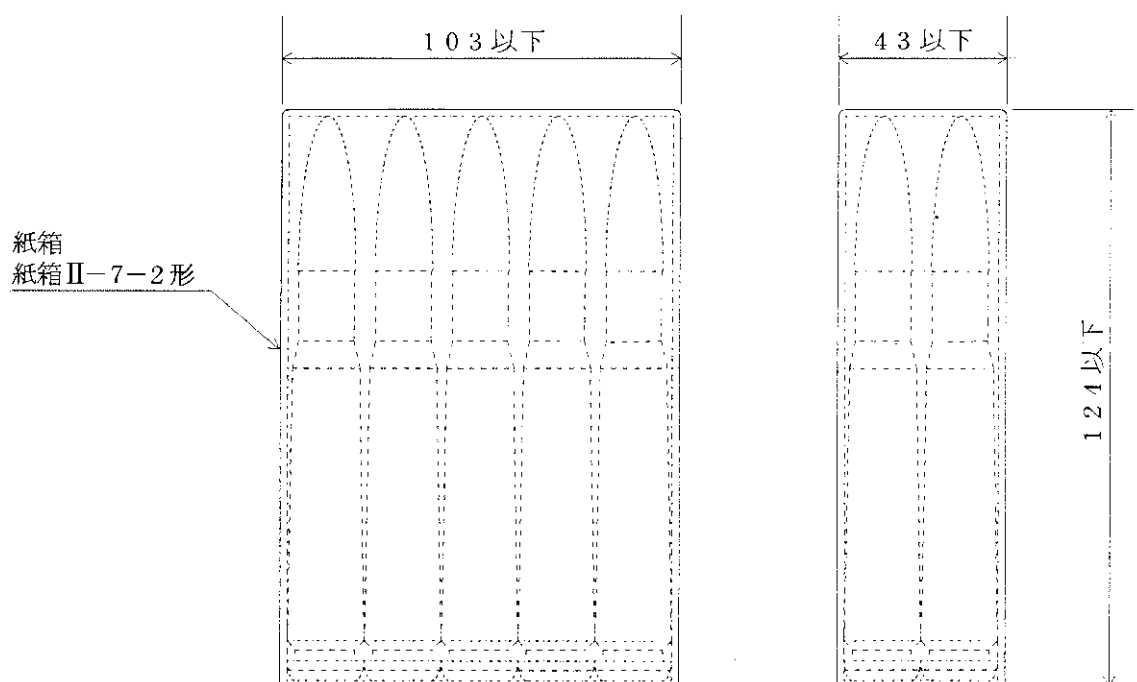
単位 mm



備考 一点鎖線 (---) は、折り目を示す。

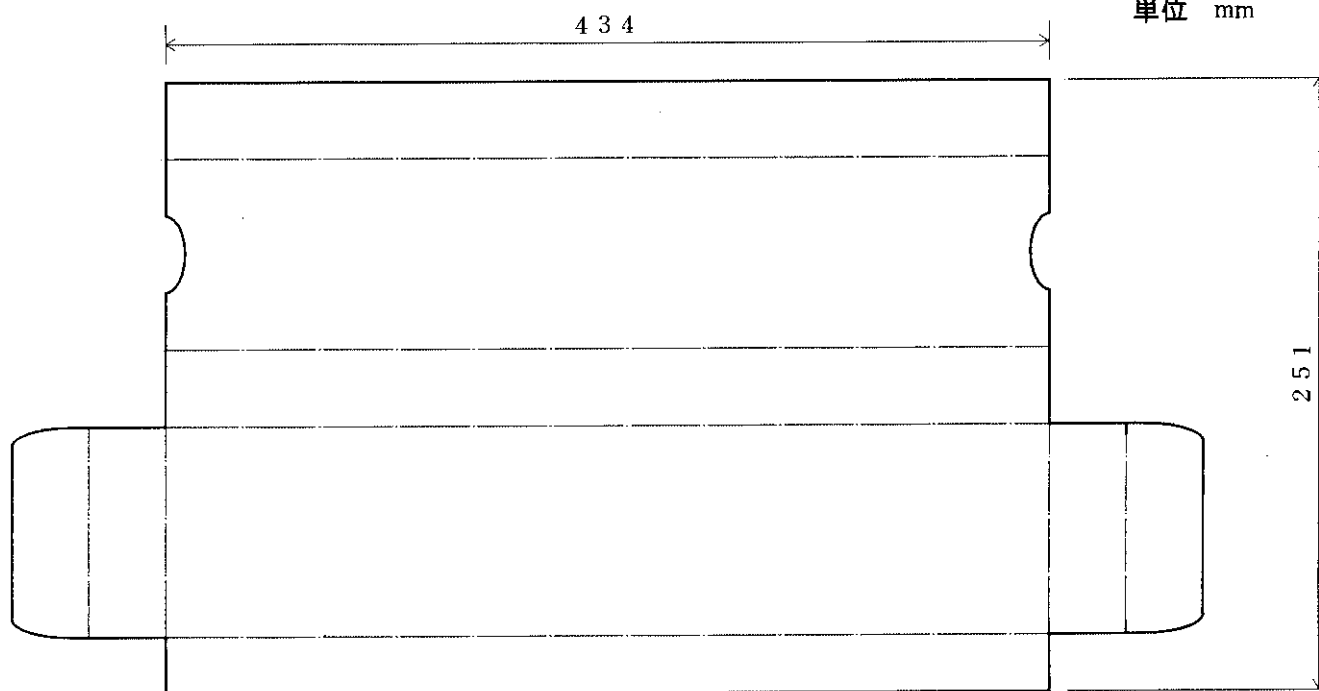
解説付図 18-2 個装(紙箱)包装法 G (10 発入)

単位 mm



解説付図 19-1 紙箱展開図 III 形

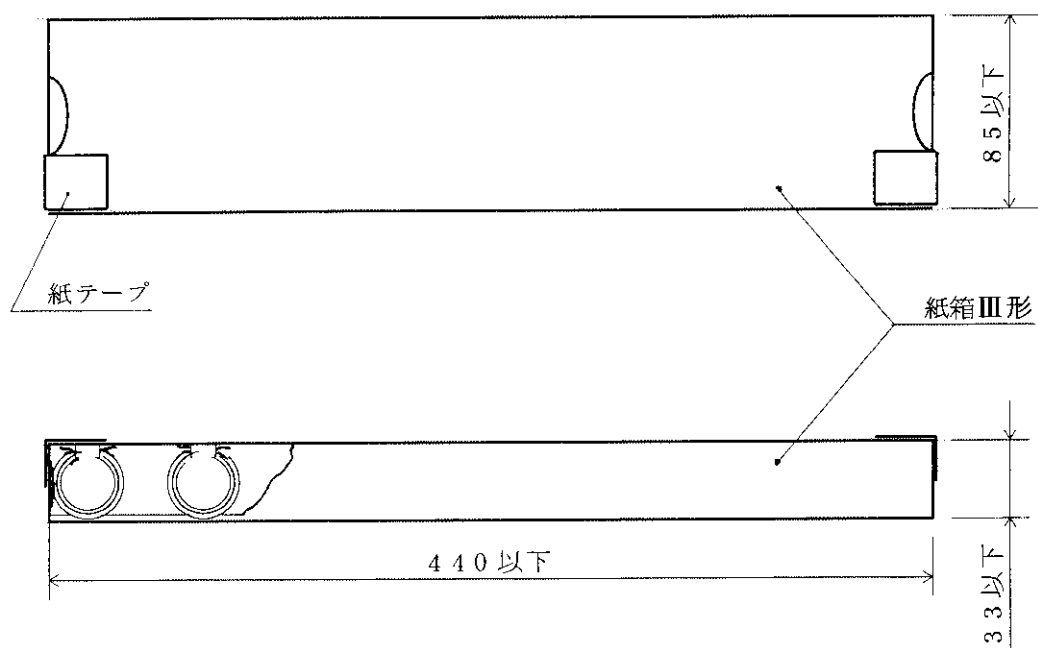
単位 mm



備考 一点鎖線(---)は、折り目を示す。

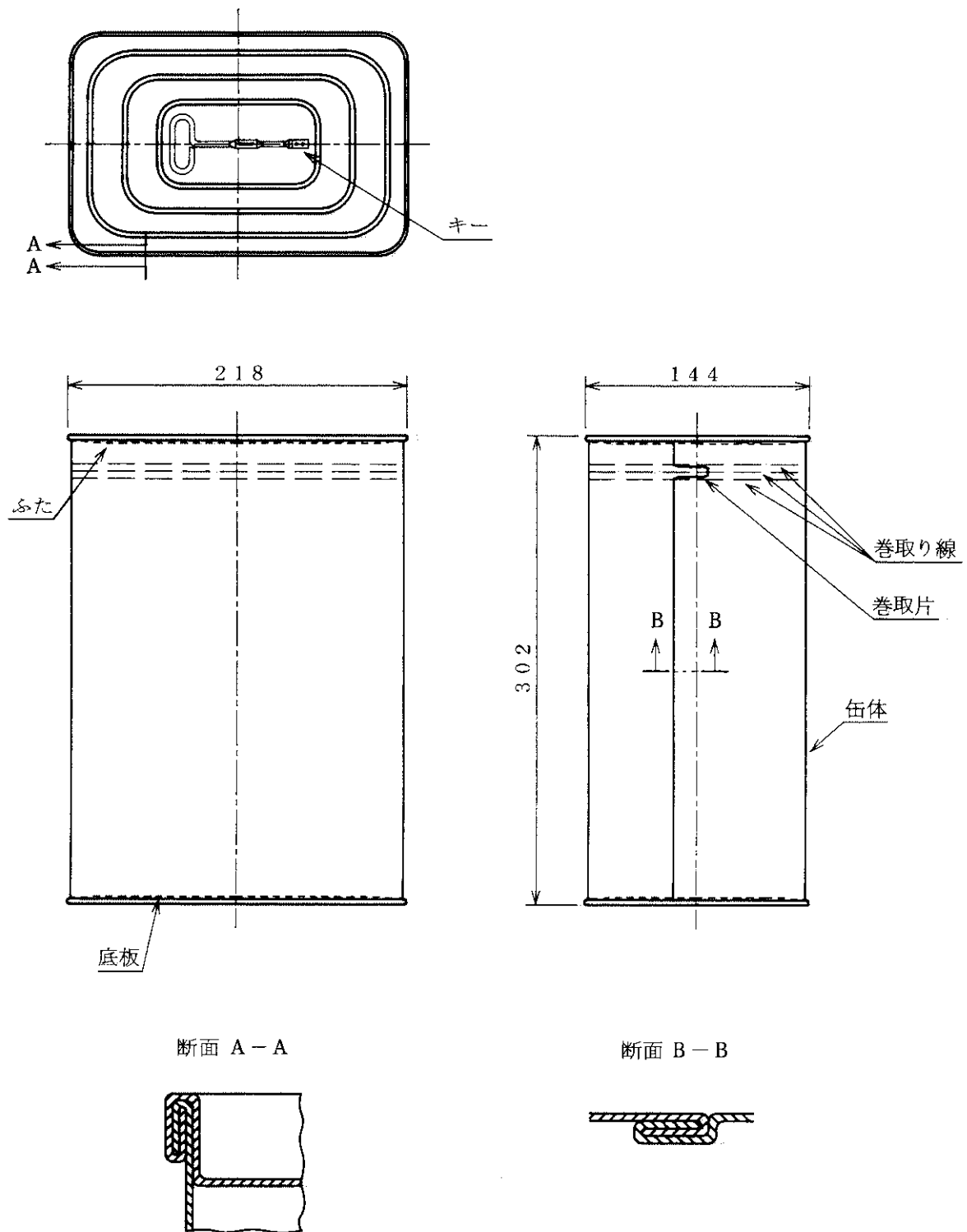
解説付図 19-2 個装(紙箱)包装法H(リンク10個入)

単位 mm

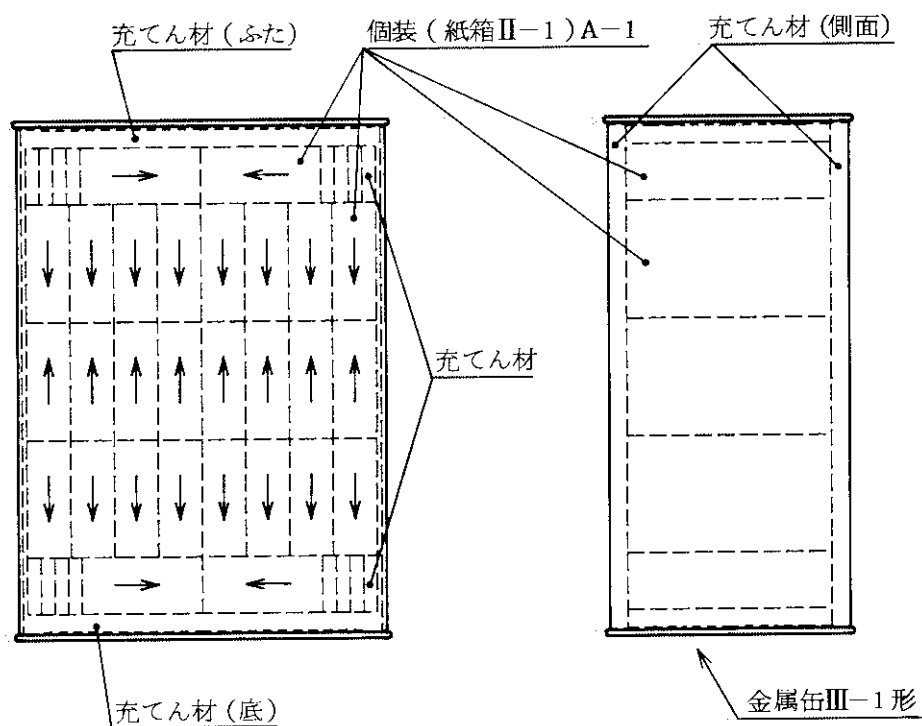


解説付図 20 - 1 金属缶Ⅲ - 1 形

単位 mm

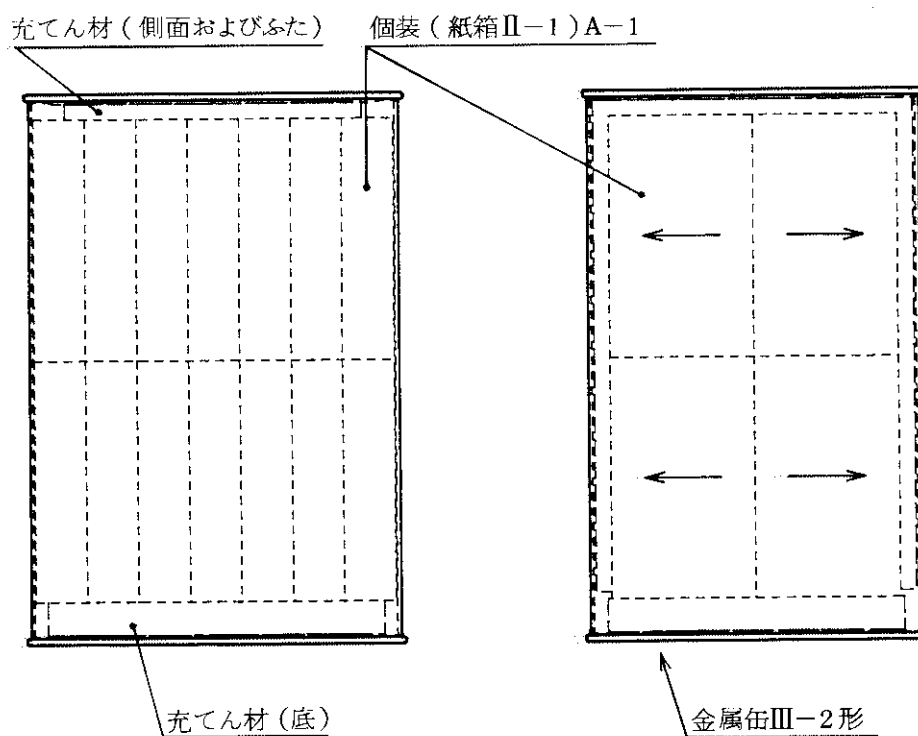


解説付図 20 - 2 内装（金属缶）包装法 A - 1（28 紙箱 560 発入）



備考 ←は，弾頭方向を示す。

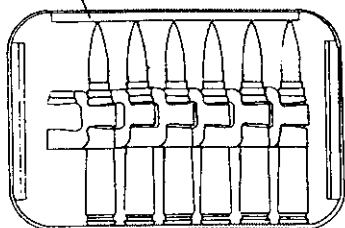
解説付図 20 - 3 内装（金属缶）包装法 A - 2（28 紙箱 560 発入）



備考 ←は，弾頭方向を示す。

解説付図 20 - 4 内装（金属缶）包装法 A - 3（110 発入）

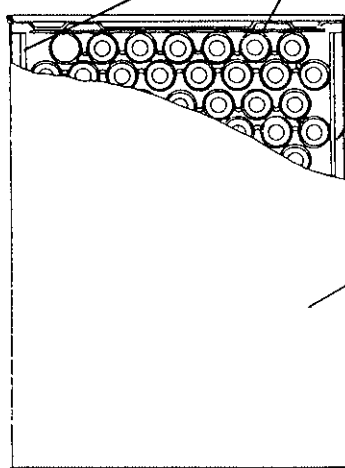
充てん材（側面）



充てん材（端部内側）

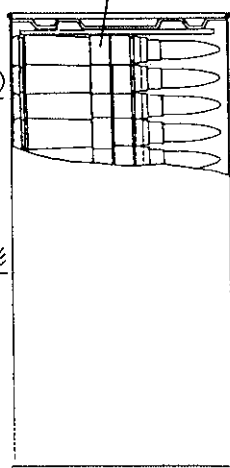
充てん材（ふた底）

個装（リングベルト）包装法 B



充てん材（端部）

金属缶Ⅲ-1 形

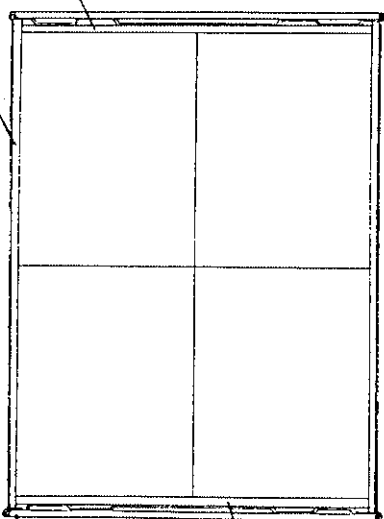


解説付図 20 - 5 内装（金属缶）包装法 A - 4（12 紙箱 120 発入）

充てん材（ふた）

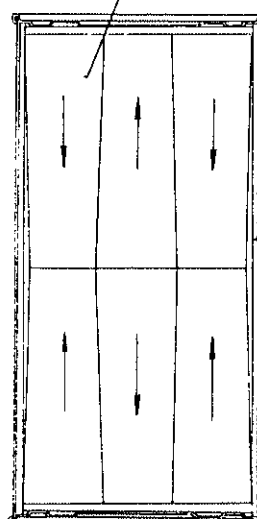
個装（紙箱Ⅱ-7-1）包装法 F

充てん材（端部）



金属缶Ⅲ-1 形

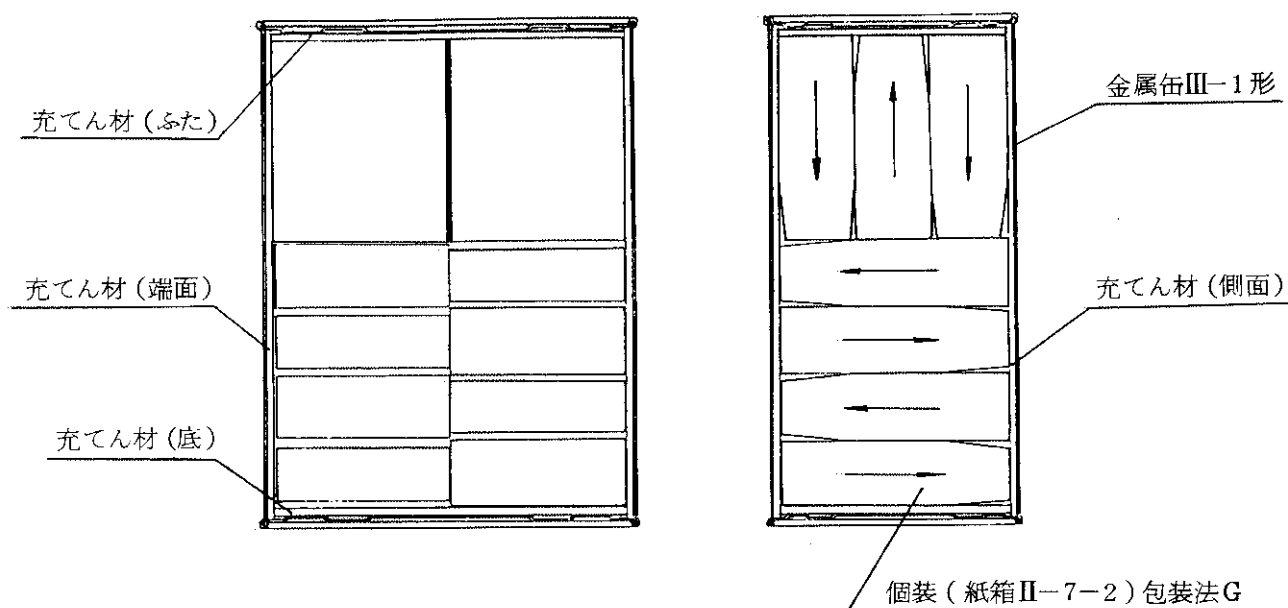
充てん材（底）



充てん材（側面）

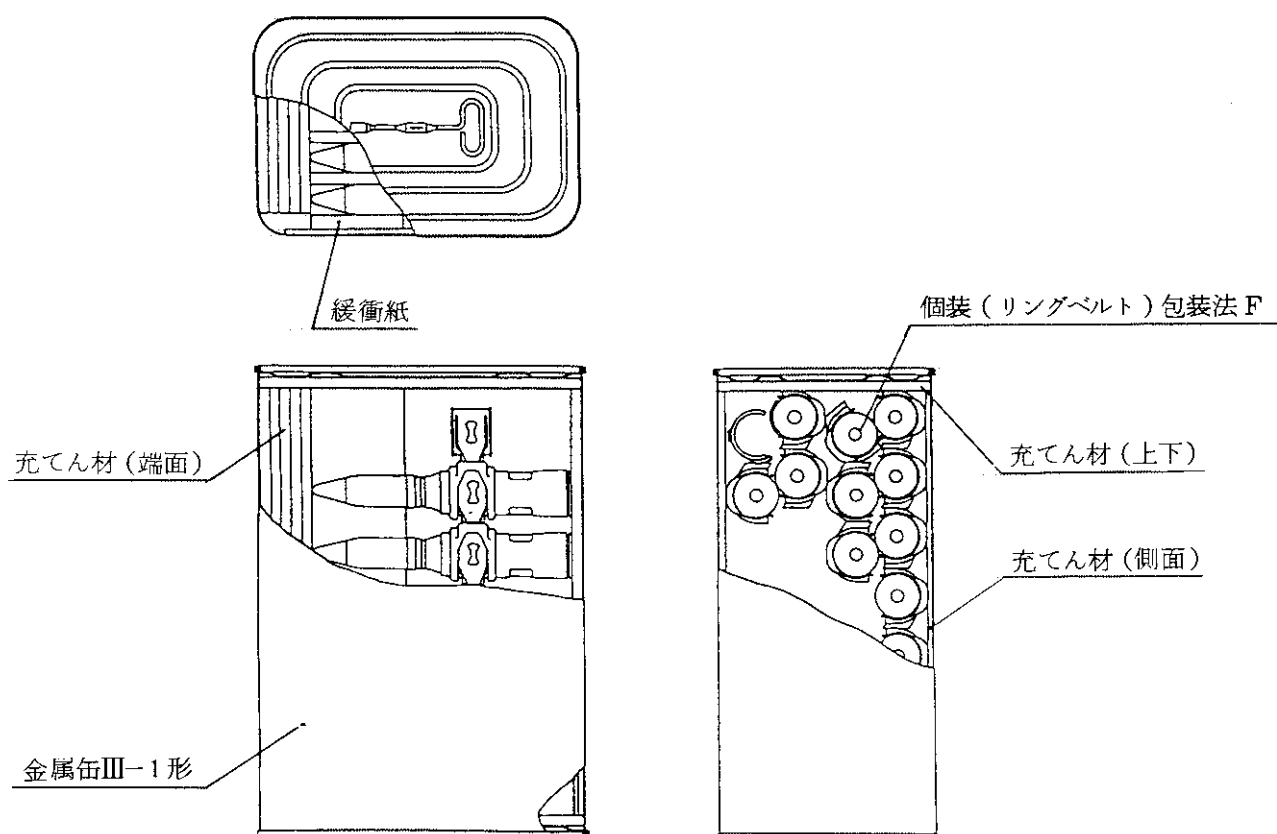
備考 ←は、弾頭方向を示す。

解説付図 20 - 6 内装（金属缶）包装法 A - 5（14 紙箱 140 発入）

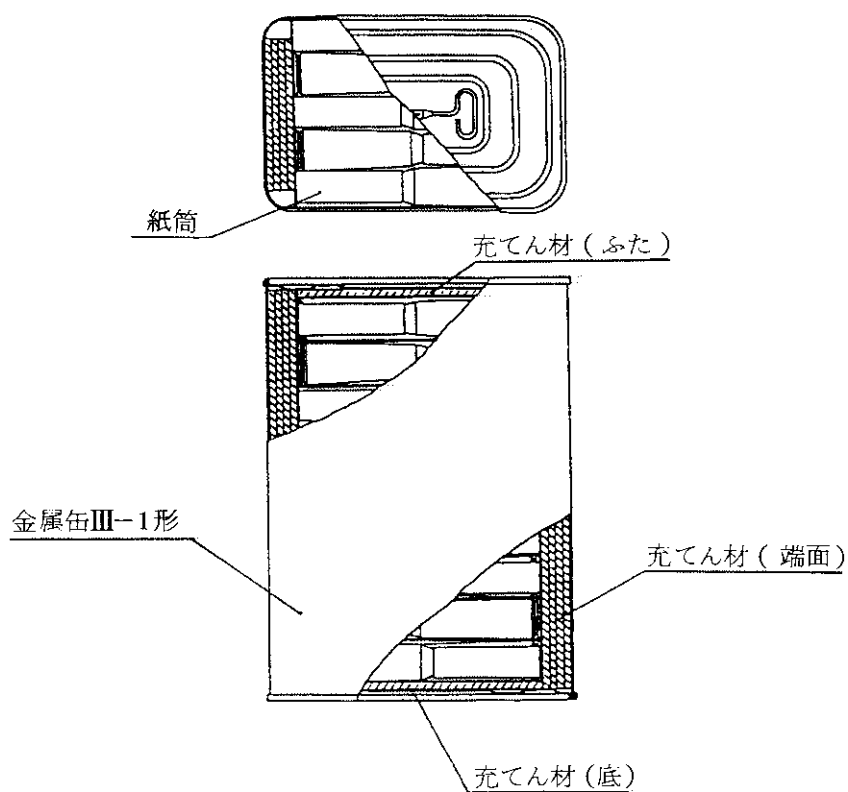


備考 ←は、弾頭方向を示す。

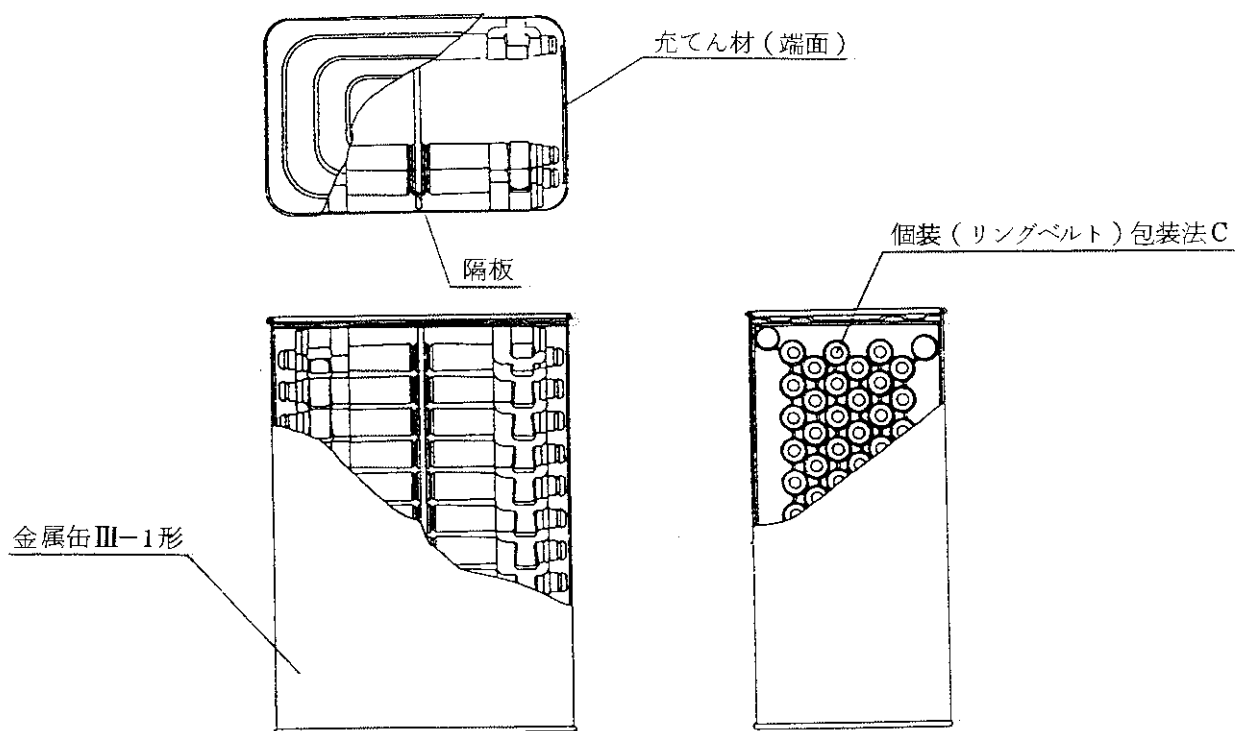
解説付図 20 - 7 内装（金属缶）内装法 A - 6（25 発入）



解説付図 20 - 8 内装（金属缶）包装法 A - 7（50 発入）

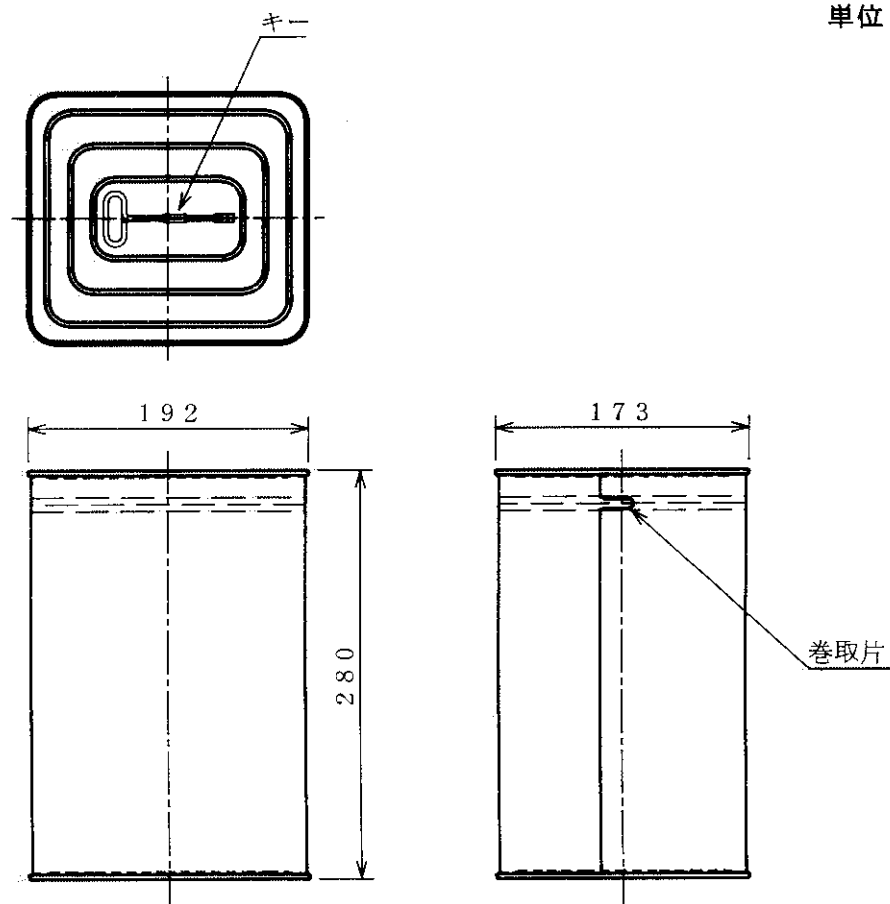


解説付図 20 - 9 内装（金属缶）包装法 A - 8（150 発入）

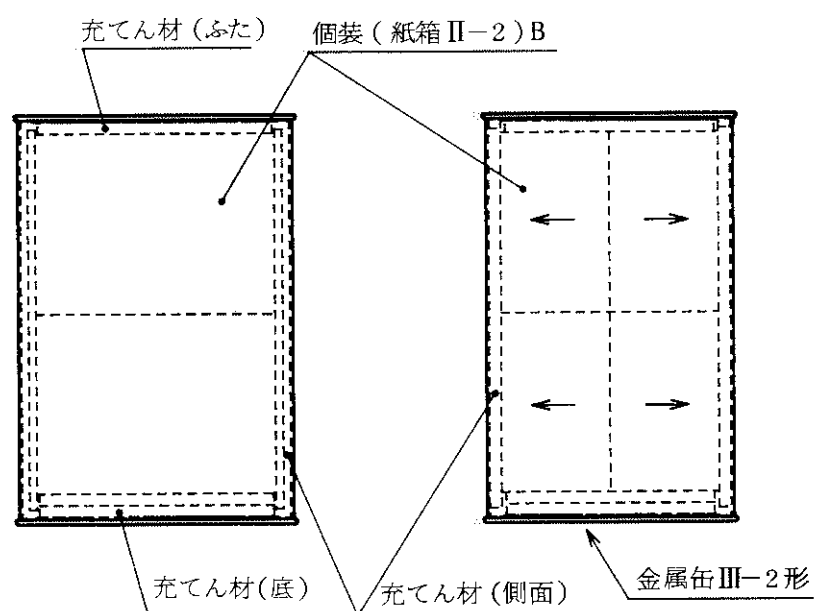


解説付図 21 - 1 金属缶 III - 2 形

単位 mm



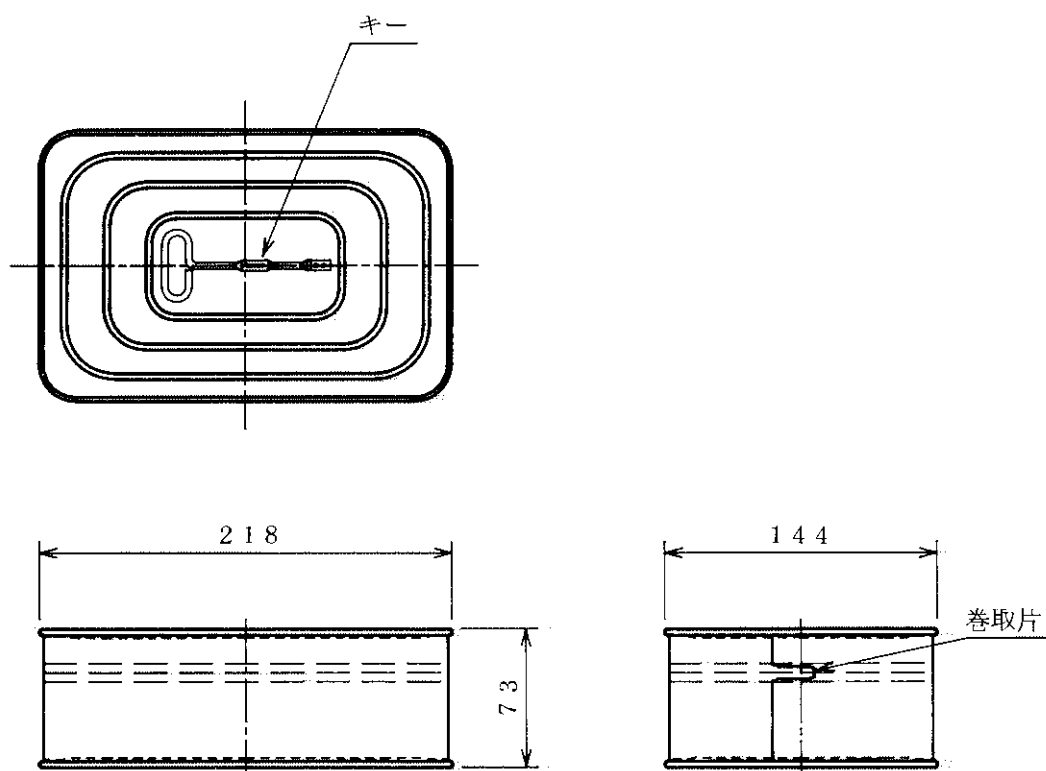
解説付図 21 - 2 内装 (金属缶) 包装法 B - 1 (4 紙箱 400 発入)



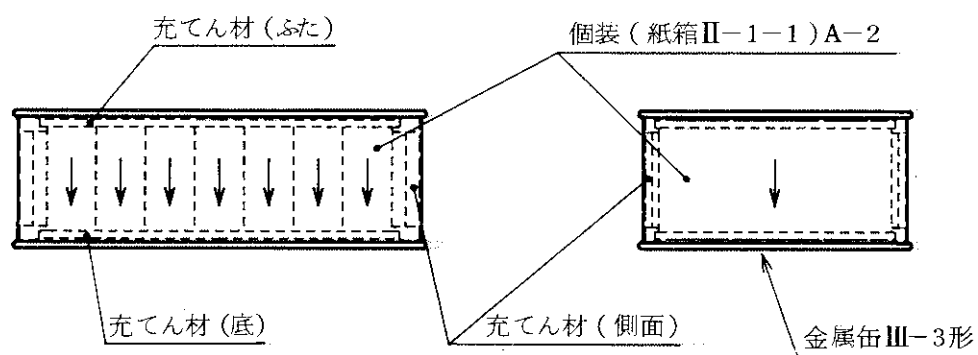
備考 ← は、弾頭方向を示す。

解説付図 22-1 金属缶 III-3 形

単位 mm

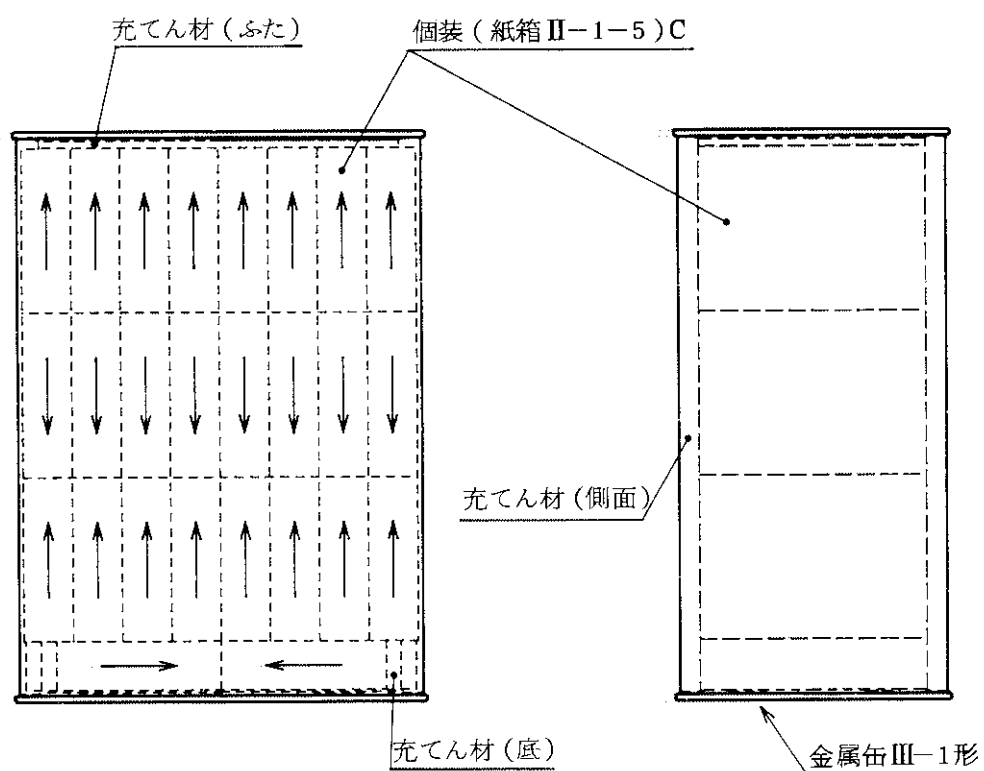


解説付図 22-2 内装(金属缶)包装法C(7紙箱140発入)



備考 ← は、弾頭方向を示す。

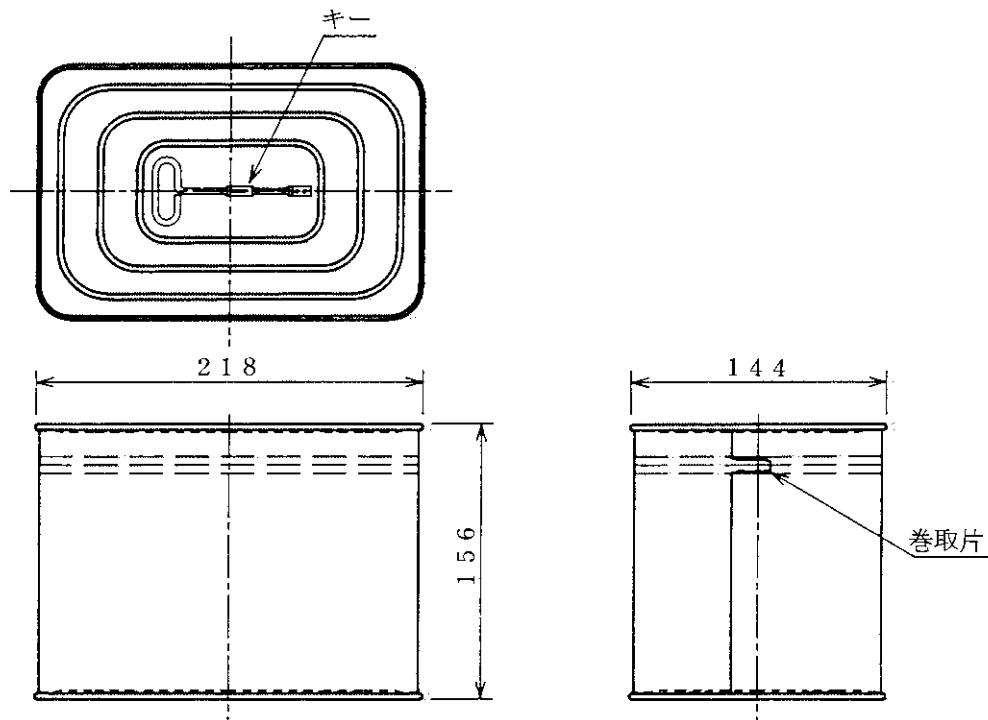
解説付図 22-3 内装(金属缶)包装法D(26紙箱520発入)



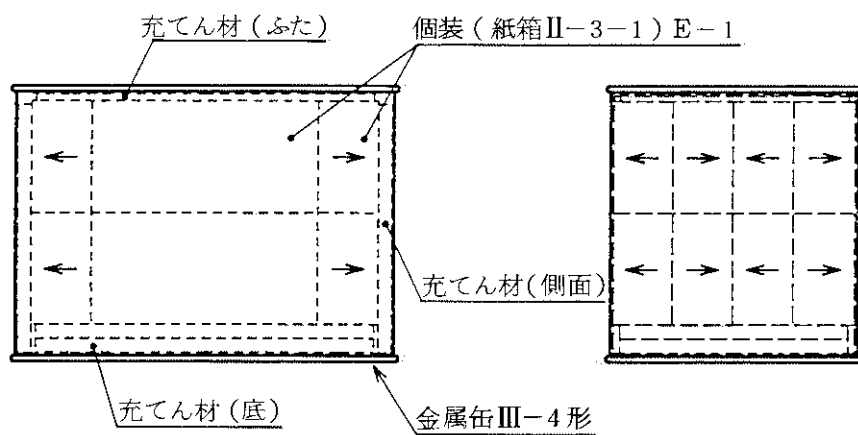
備考 ←は、弾頭方向を示す。

解説付図 23 - 1 金属缶 III - 4 形

単位 mm

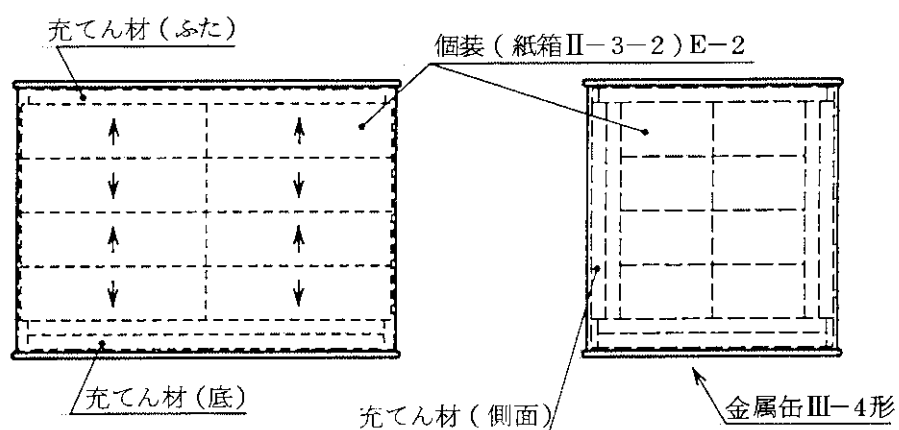


解説付図 23 - 2 内装 (金属缶) 包装法 E - 1 (12 紙箱 600 発入)



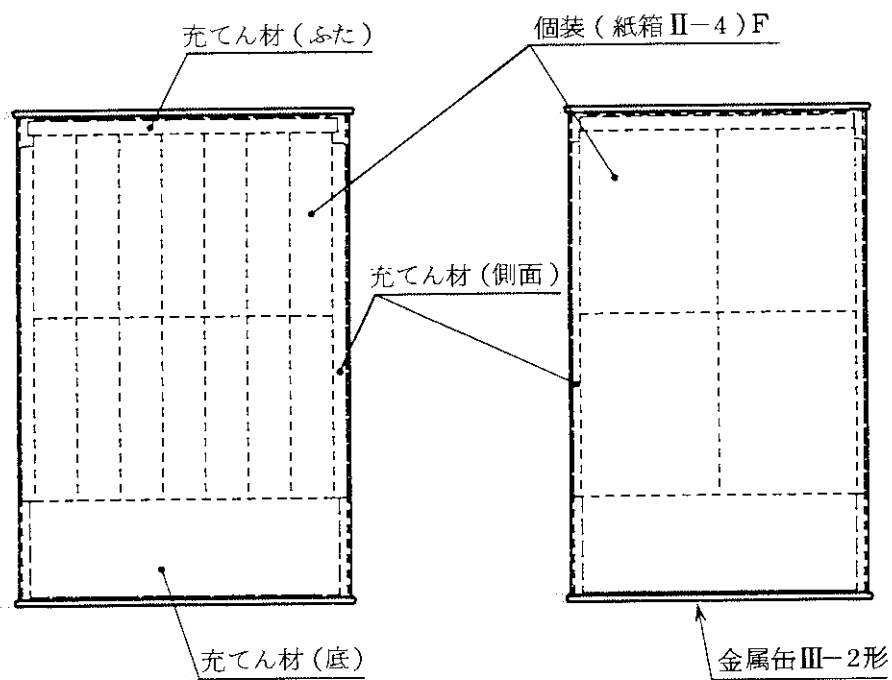
備考 ← は、弾頭方向を示す。

解説付図 23 - 3 内装（金属缶）包装法 E - 2（16 紙箱 800 発入）

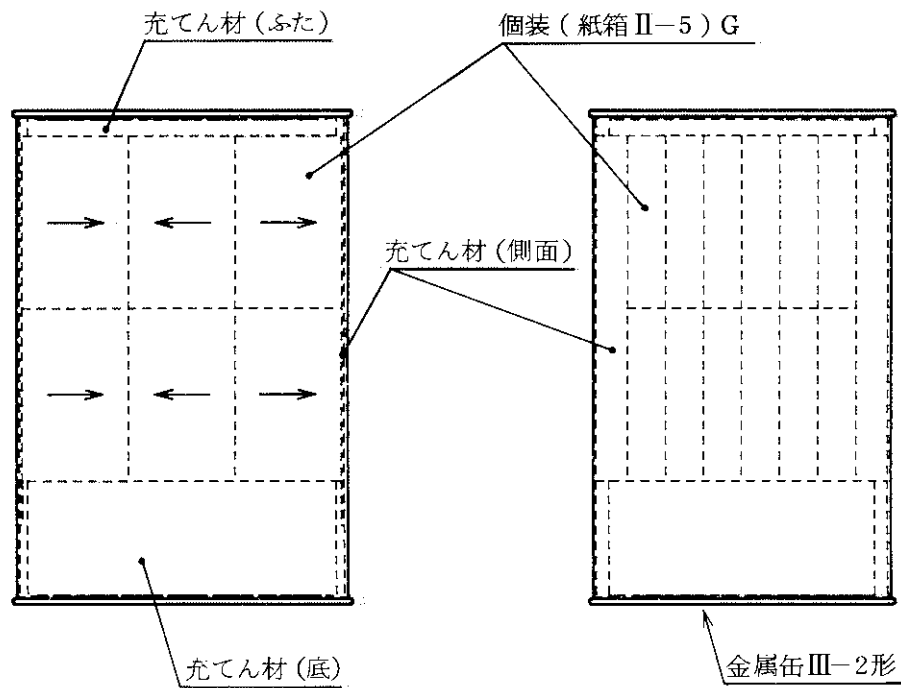


備考 ←は、弾頭方向を示す。

解説付図 23 - 4 内装（金属缶）包装法 F（28 紙箱 280 発入）



解説付図 23 - 5 内装（金属缶）包装法 G（36 紙箱 720 発入）

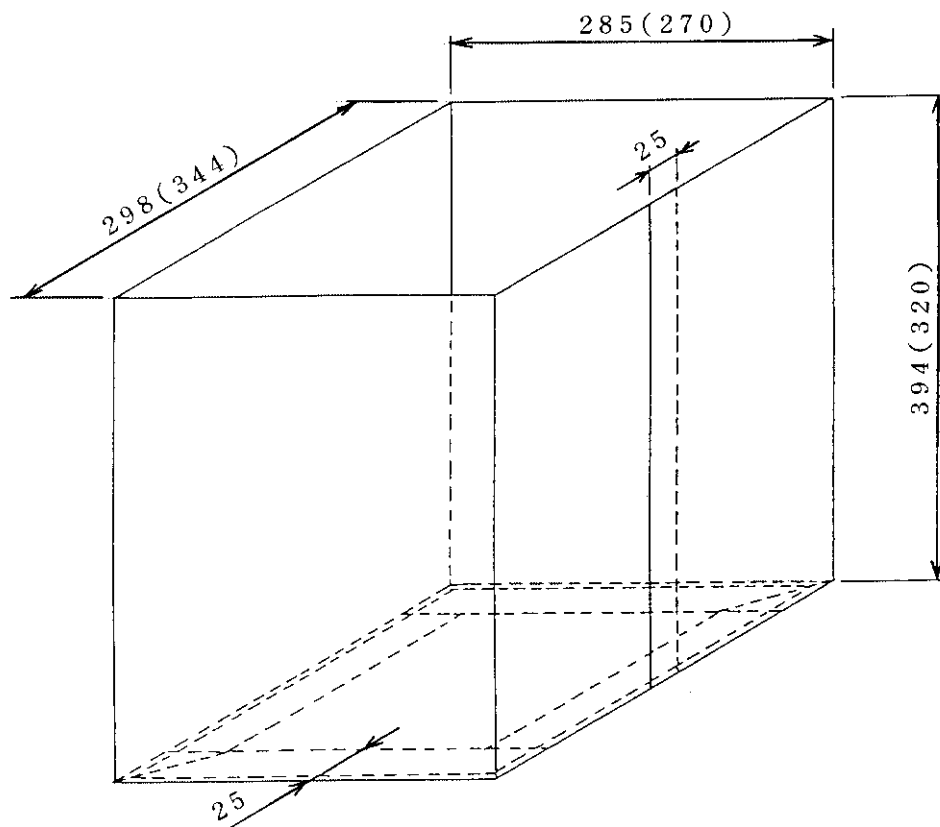


備考 ←は、弾頭方向を示す。

解説付図 24-1 防湿袋(ターポリン紙)IV-1, IV-4形

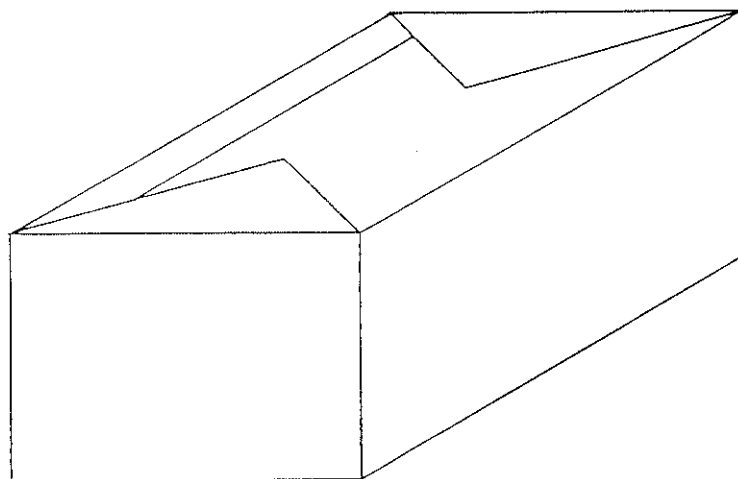
〔寸法()内は, IV-4形〕

単位 mm



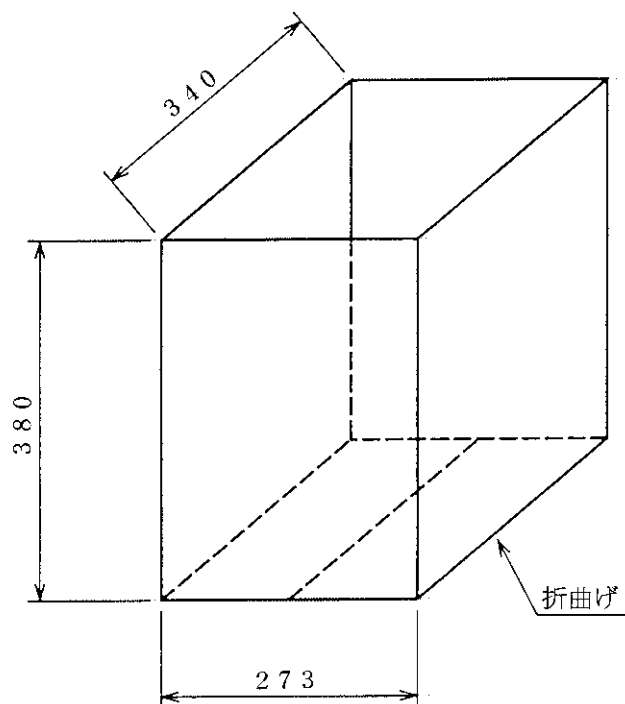
解説付図 24-2 内装(ターポリン紙)包装法 A-1

(包装の種類 4-1-1, 4-1-2, 4-3, 4-5)

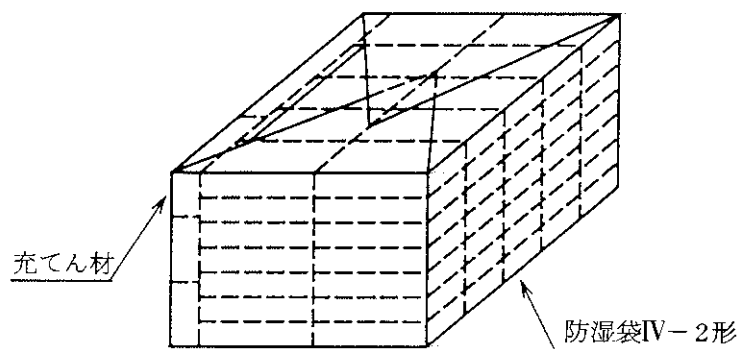


解説付図 25 - 1 防湿袋（ターポリン紙）IV - 2 形

単位 mm

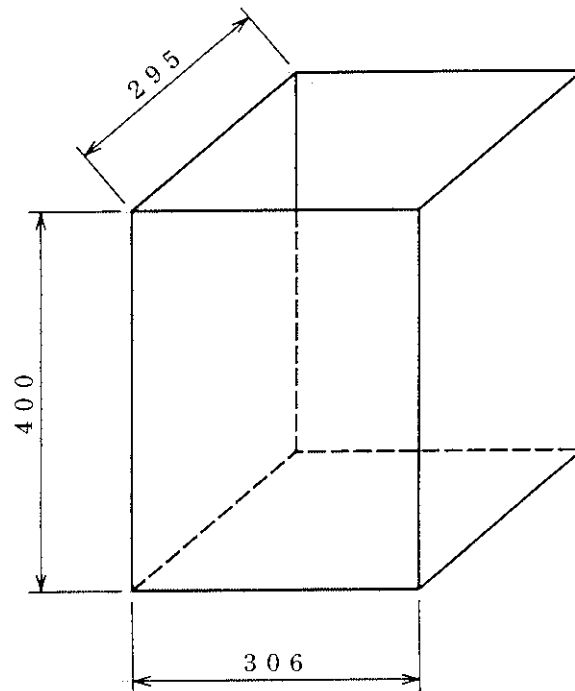


解説付図 25 - 2 内装（防湿袋）包装法 A - 2（72 紙箱 1440 発入）

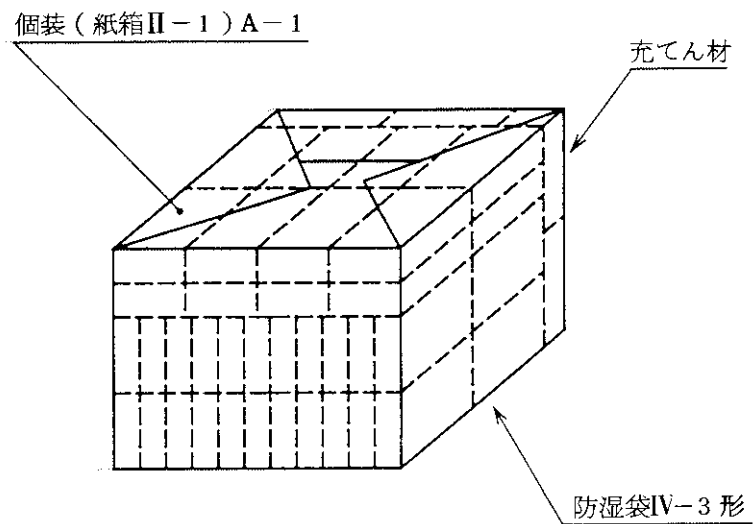


解説付図 26 - 1 防湿袋（ターポリン紙）IV - 3 形

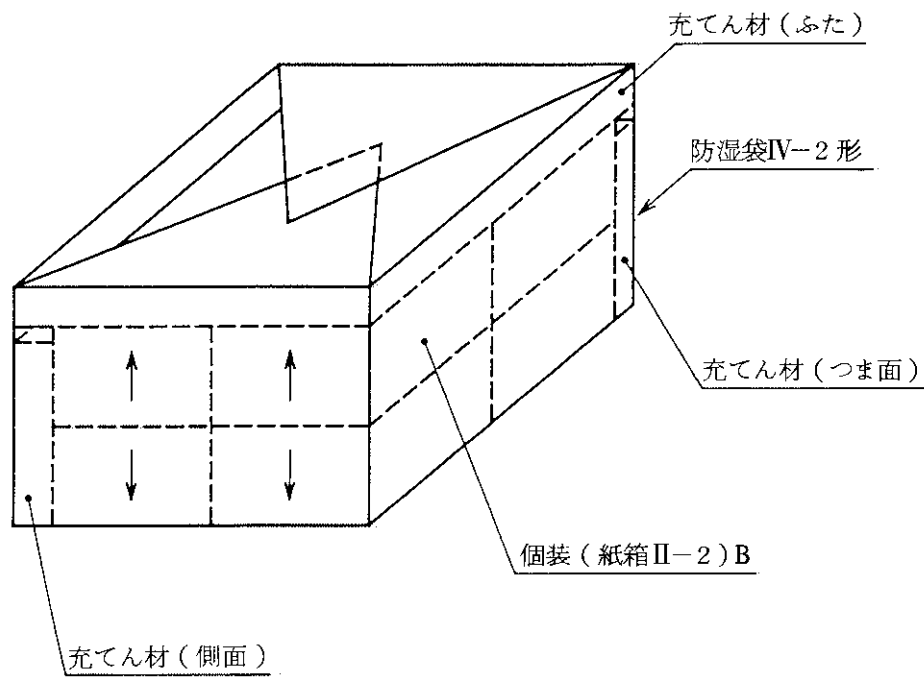
単位 mm



解説付図 26 - 2 内装（防潮袋）包装法 B（66 紙箱 1320 発入）



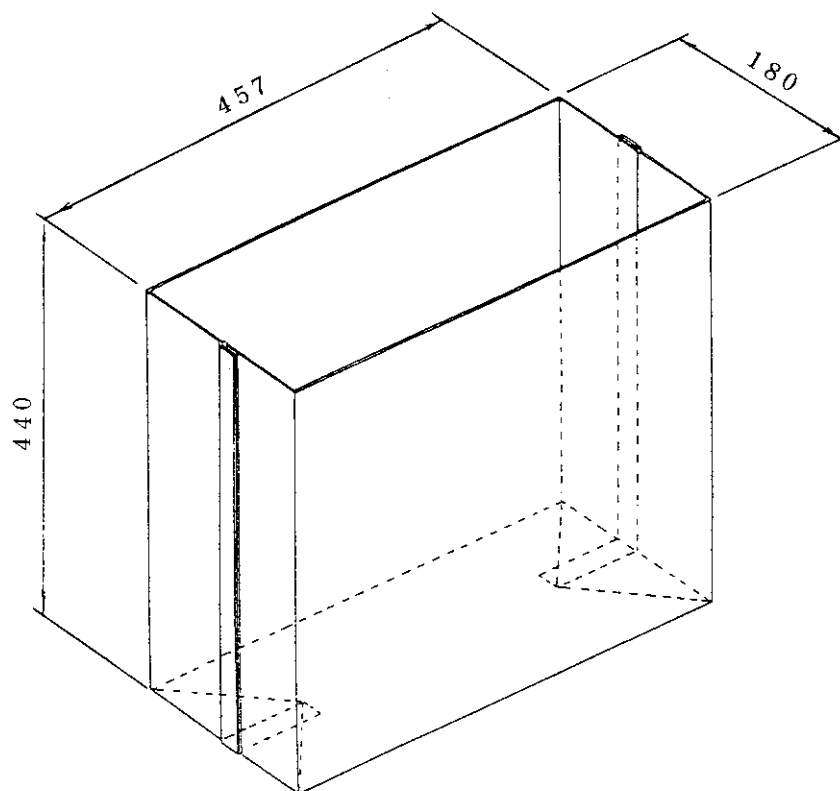
解説付図 26-3 内装（防湿袋）包装法 C（8 紙箱 800 発リンク付入）



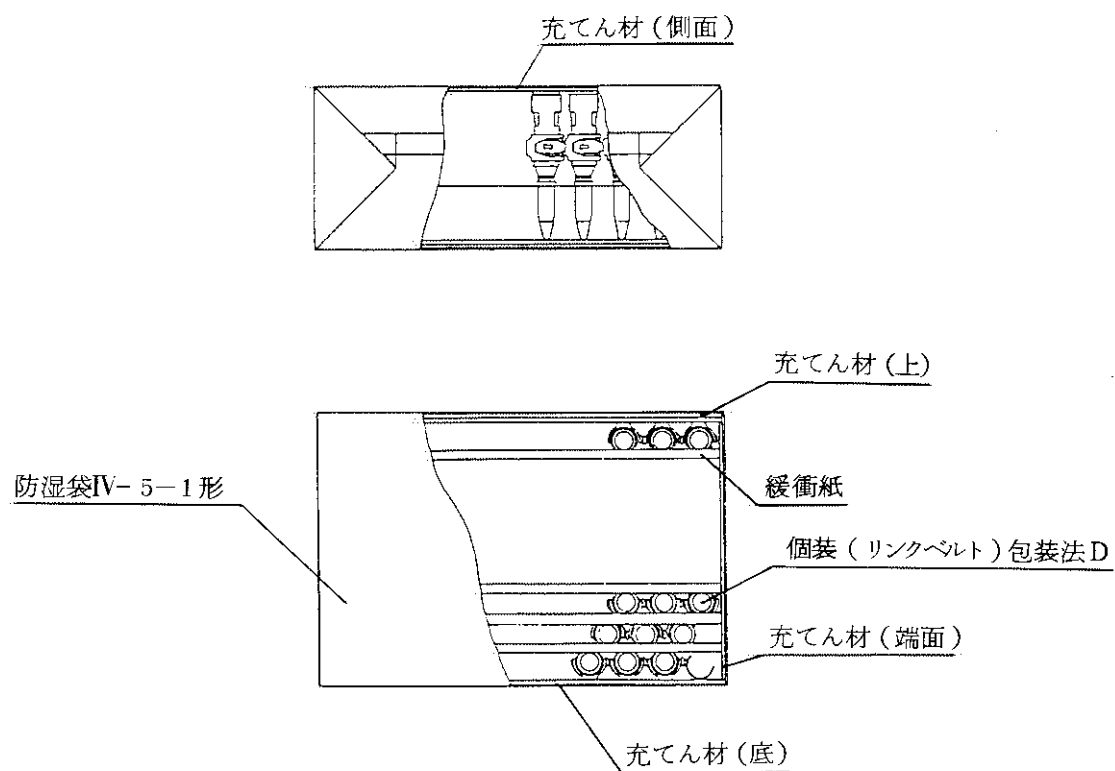
備考 ← は、弾頭方向を示す。

解説付図 27-1 防湿袋（貼り合わせアルミ箔）IV-5-1

単位 mm

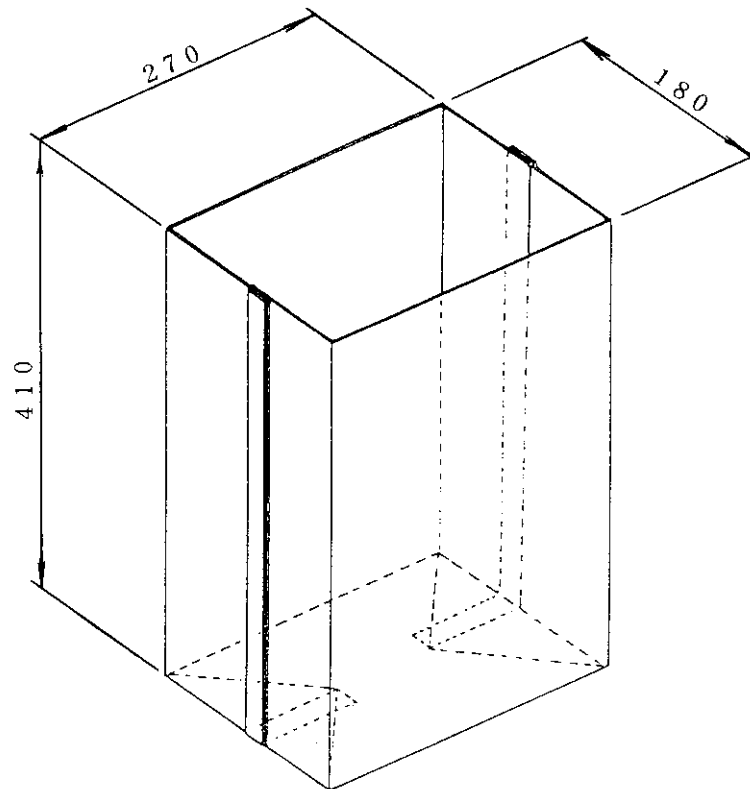


解説付図 27-2 内装（防湿袋）包装法 D（100 発入）

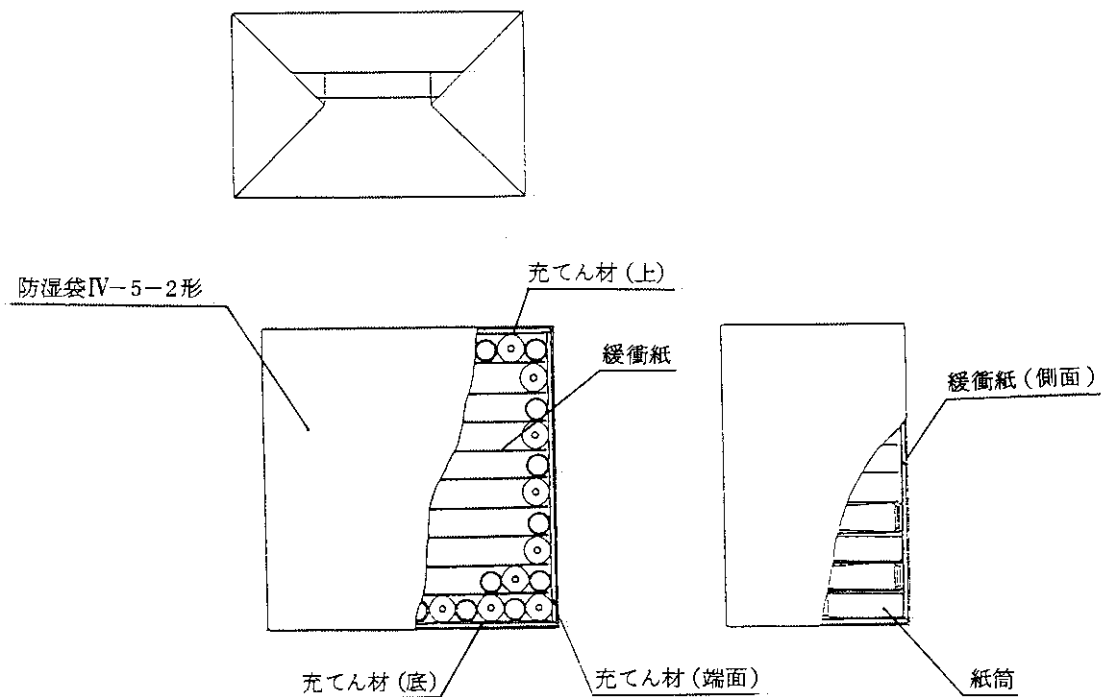


解説付図 28-1 防湿袋（貼り合わせアルミ箔）IV-5-2

単位 mm

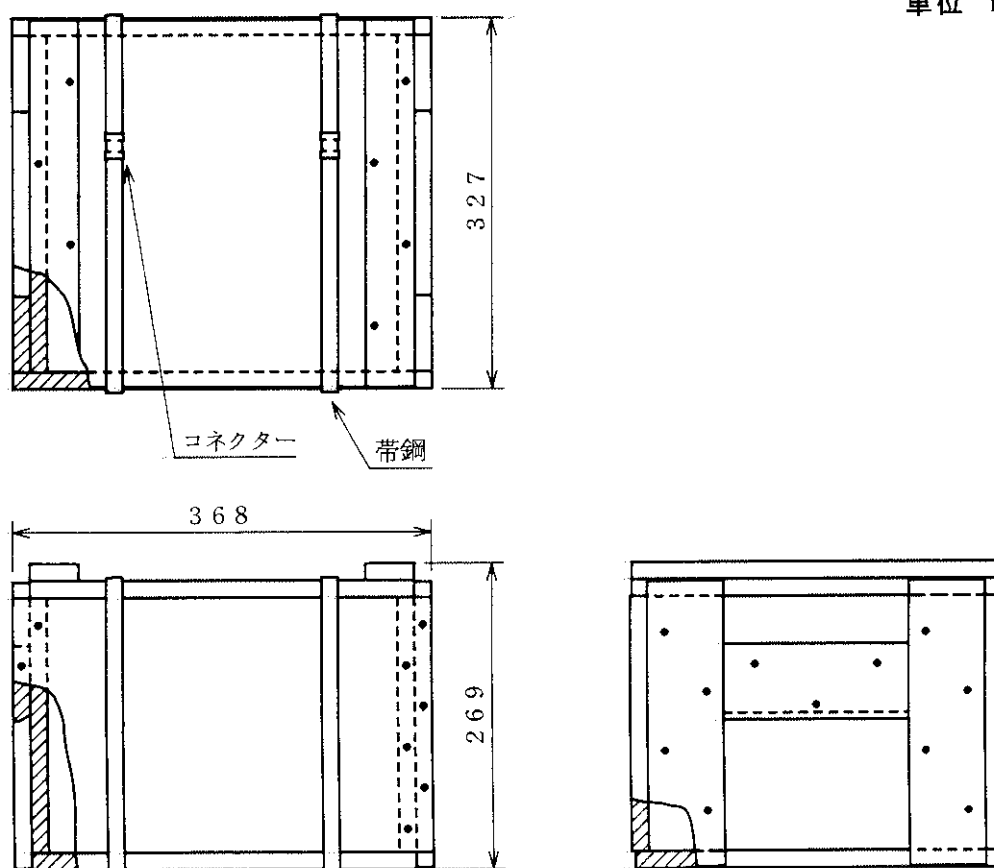


解説付図 28-2 内装（防湿袋）包装法 E（100 発入）



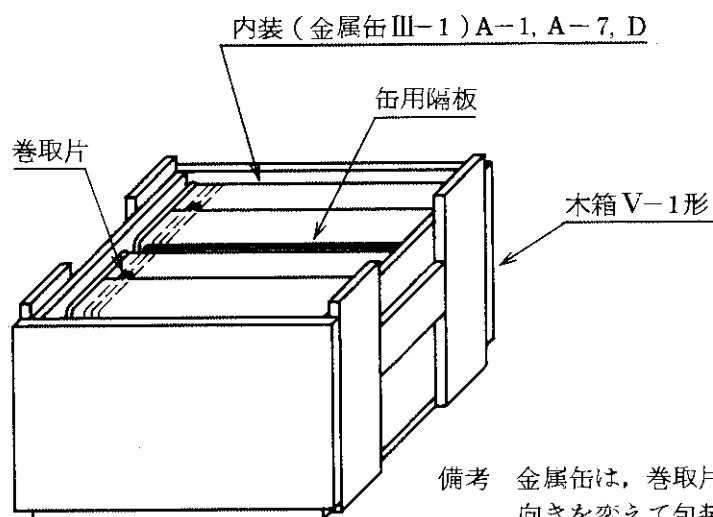
解説付図 29-1 木箱 V-1 形

単位 mm



解説付図 29-2 外装（木箱）包装法 A（金属缶 2 缶入）

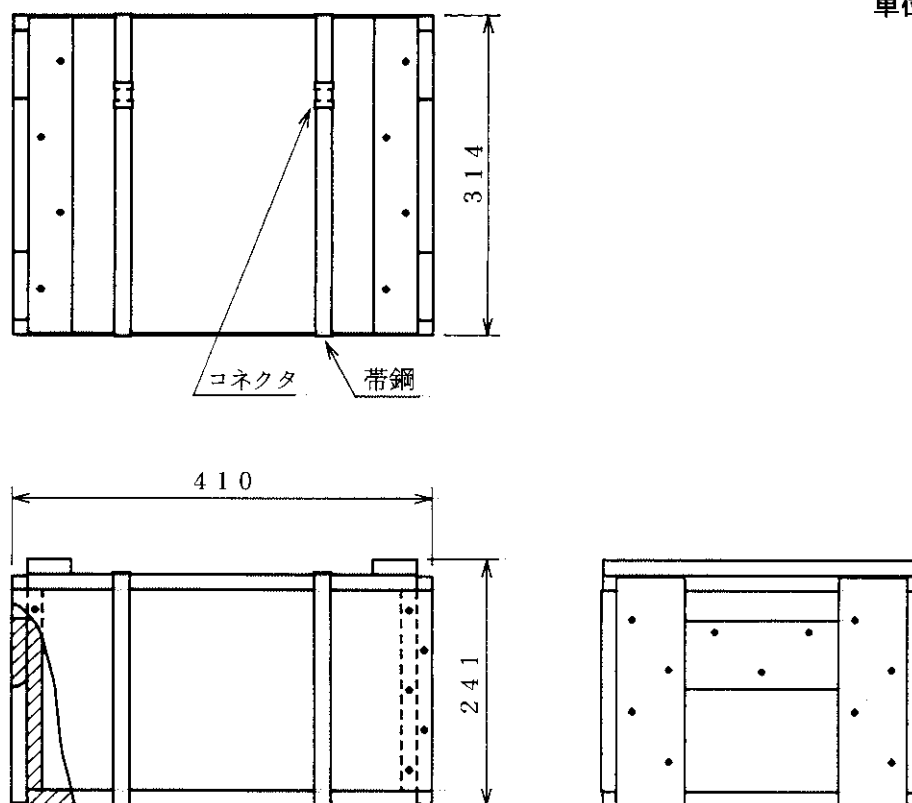
（包装の区分 1-1, 1-3, 1-6, 1-7, 6-1, 6-2, 12）



備考 金属缶は、巻取片を上にして互い違いに向きを変えて包装してもよい。

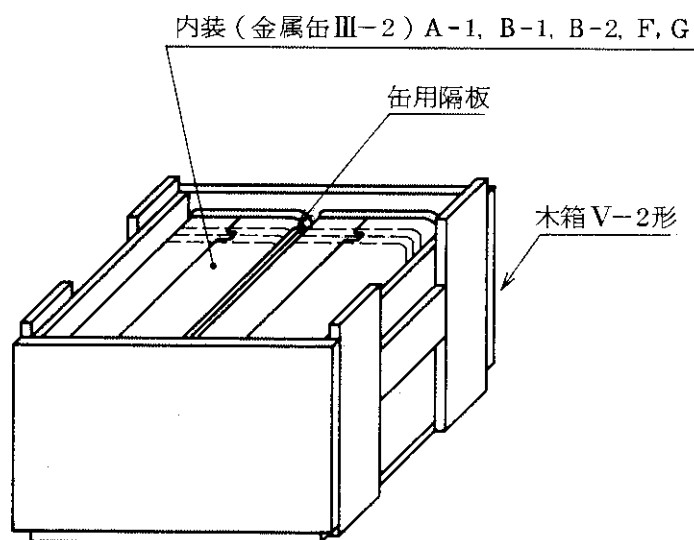
解説付図 30 - 1 木箱 V - 2 形

単位 mm



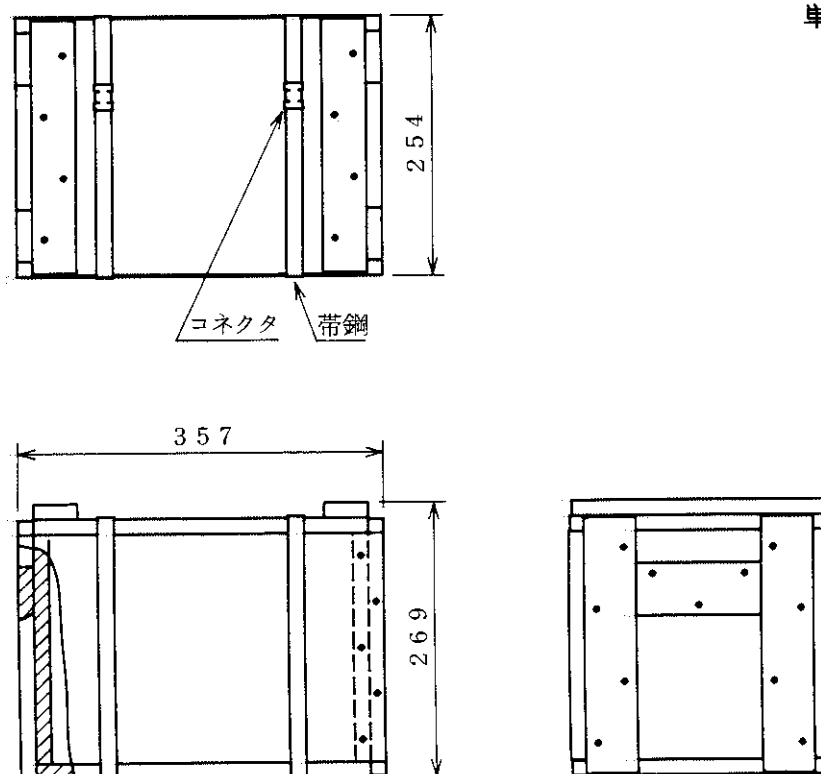
解説付図 30 - 2 外装（木箱）包装法 B（金属缶 2 缶入）

（包装の区分 1-1, 1-2, 1-6, 2, 3）

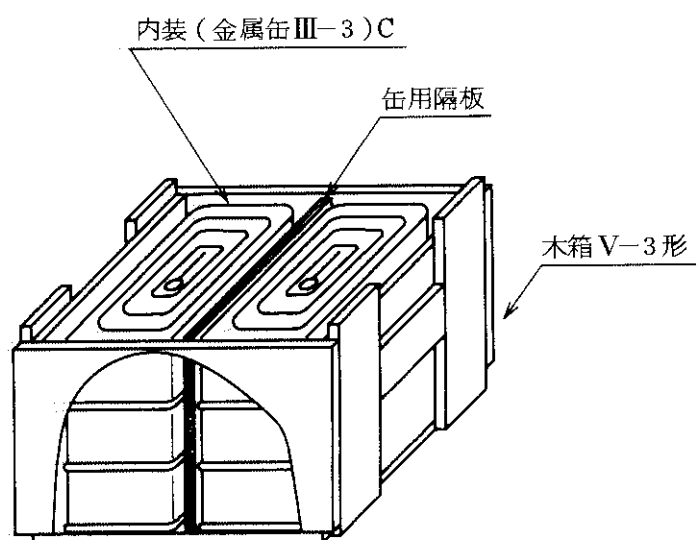


解説付図 31 - 1 木箱 V - 3 形

単位 mm

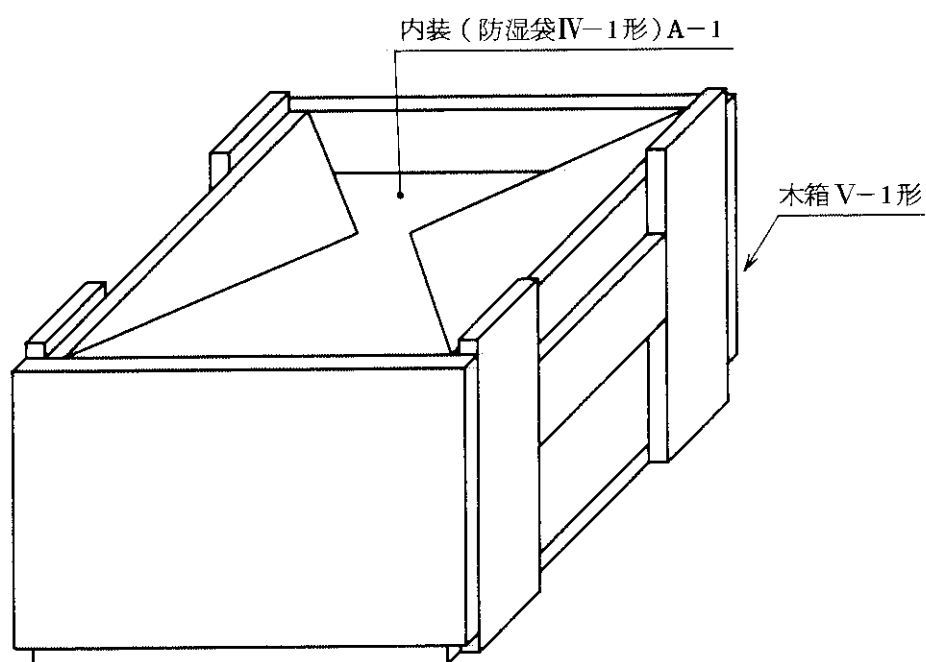


解説付図 31 - 2 外装 (木箱) 包装法 C (6 金属缶 840 発入)
(包装の区分 1 - 8)



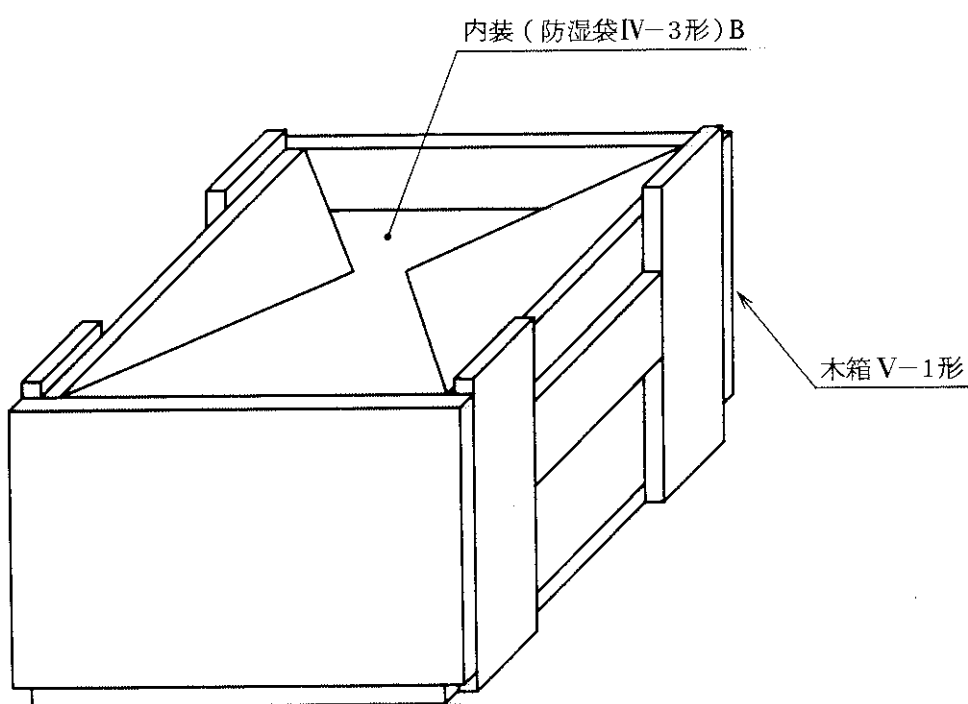
解説付図 31 - 3 外装（木箱）包装法 D - 1（1 防湿袋 1440 発入）

（包装の区分 4-1-1, 4-3）



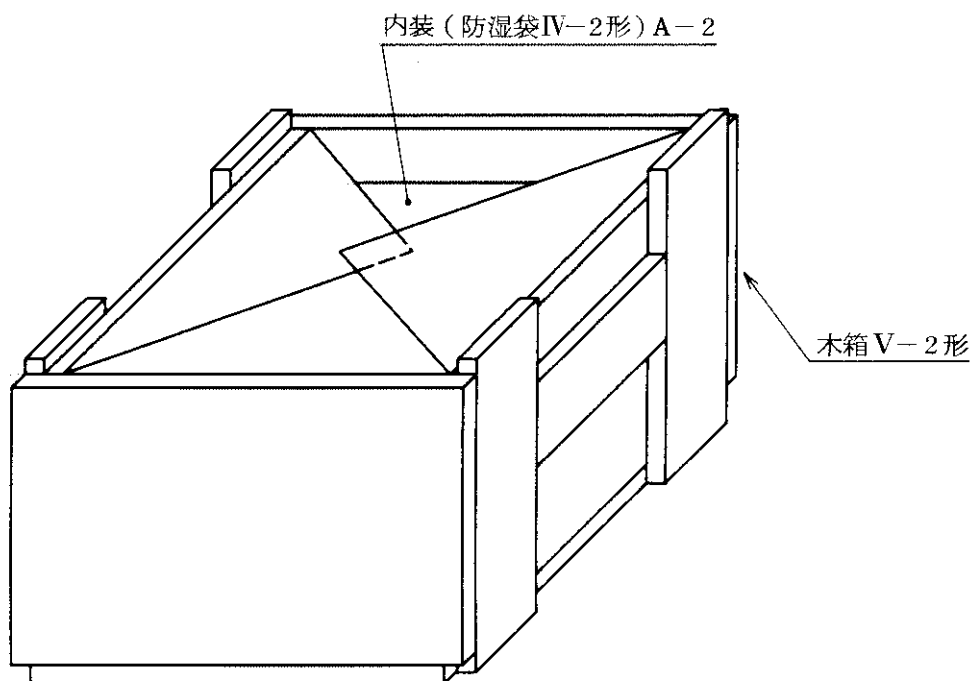
解説付図 31 - 4 外装（木箱）包装法 D - 2（1320 発入）

（包装の区分 4-4）



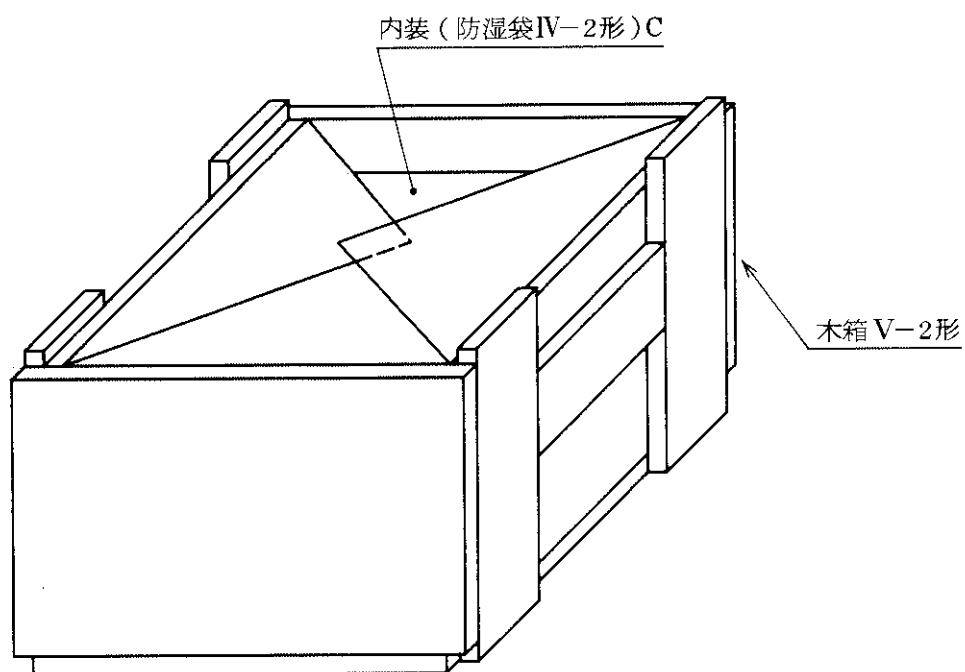
解説付図 31 - 5 外装（木箱）包装法 D - 3（1 防湿袋 1440 発入）

（包装の区分 4 - 2）



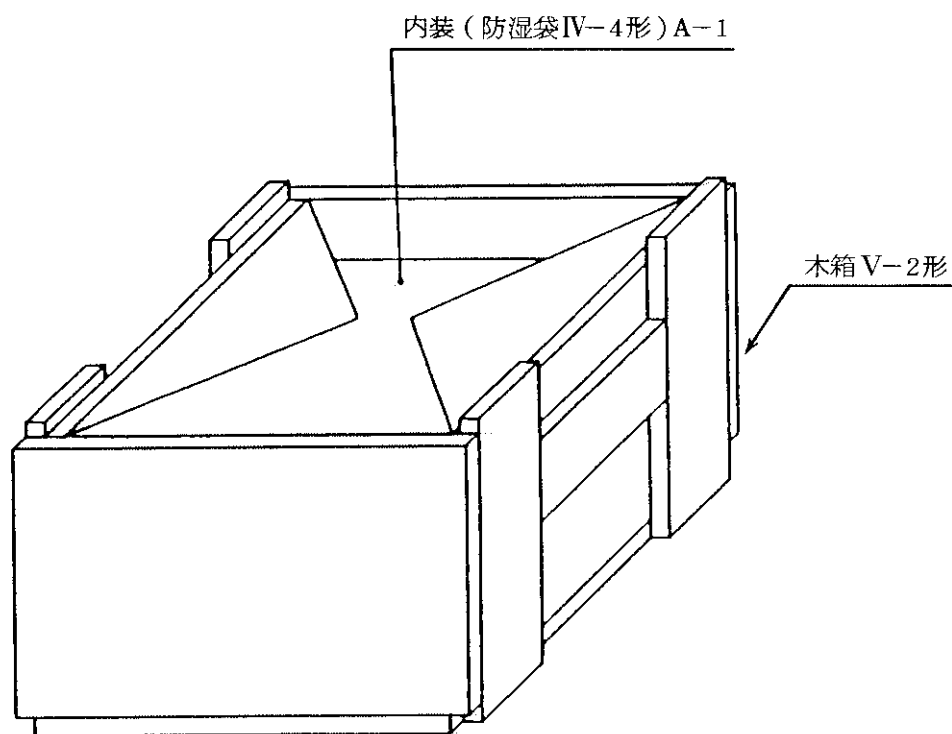
解説付図 31 - 6 外装（木箱）包装法 E（800 発リンク入）

（包装の区分 5）



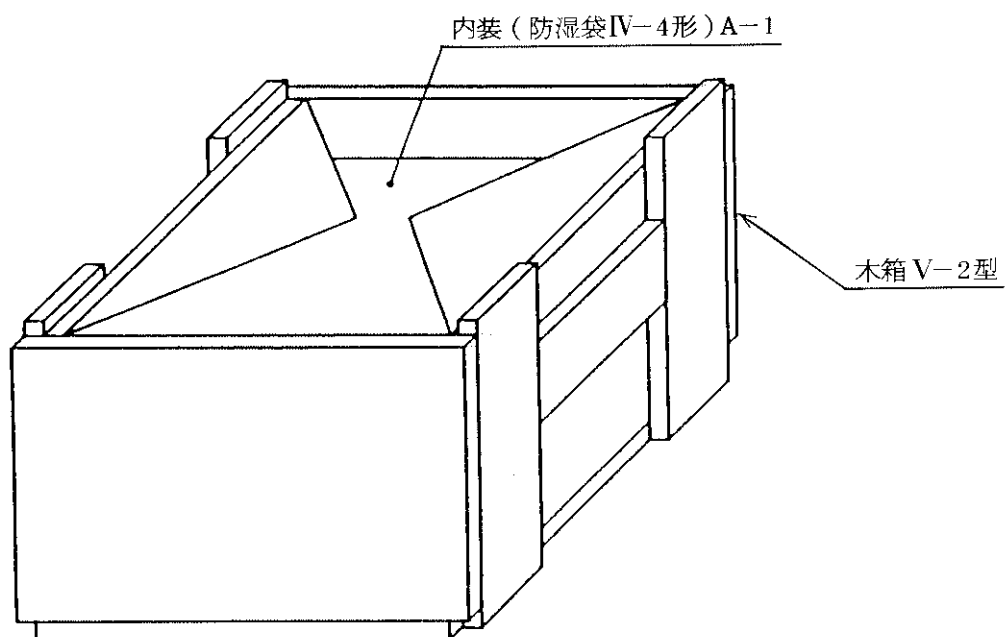
解説付図 31 - 7 外装（木箱）包装法 D - 4（1 防湿袋 1440 発入り）

（包装の区分 4 - 1 - 2）



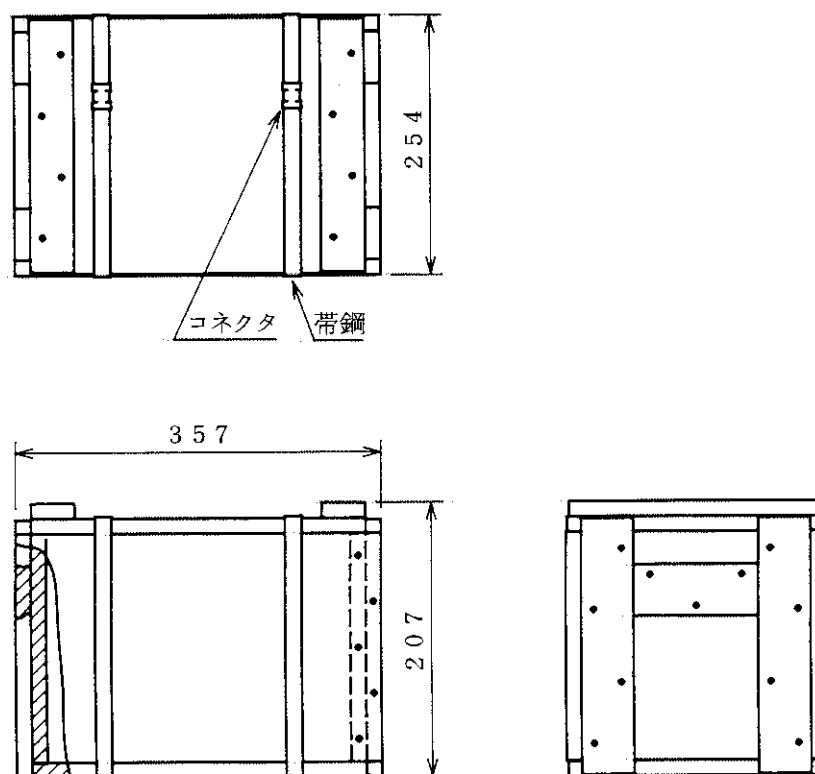
解説付図 31 - 8 外装（木箱）包装法 D - 5（1 防湿袋 2400 発入り）

（包装の区分 4 - 5）



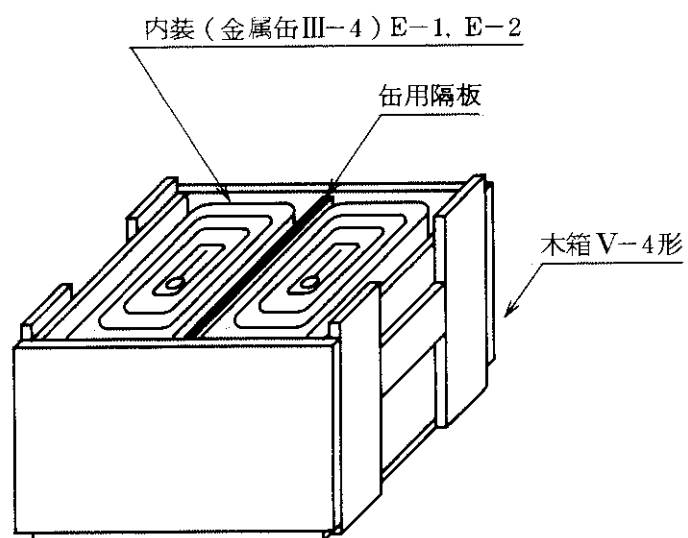
解説付図 32-1 木箱 V-4 形

単位 mm



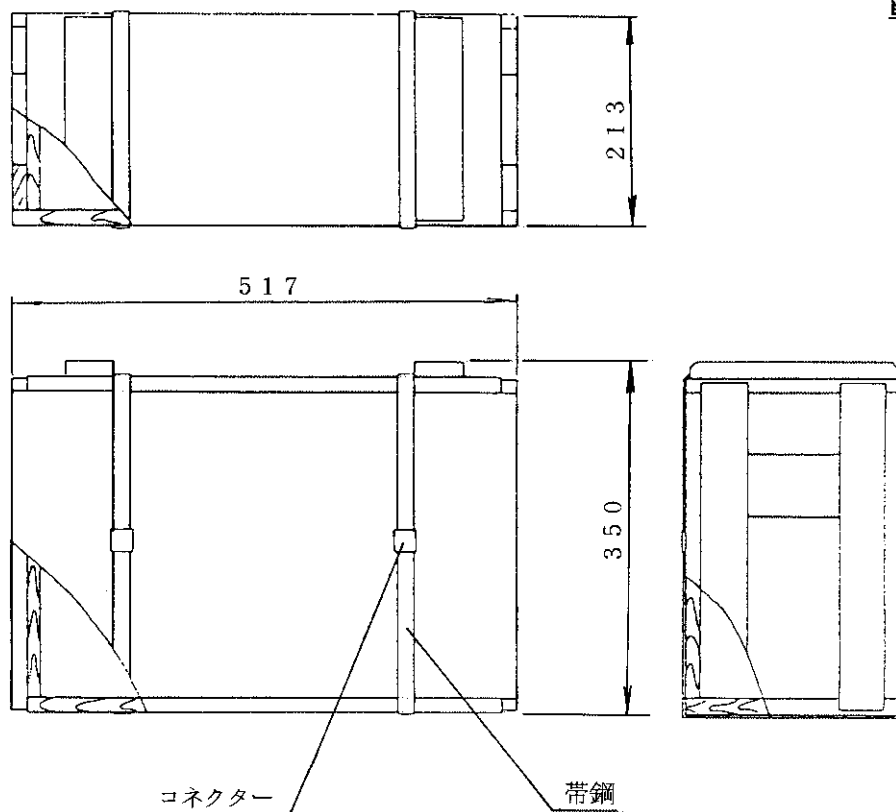
解説付図 32-2 外装（木箱）包装法 F（2 金属缶入）

（包装の区分 1-4, 1-5）



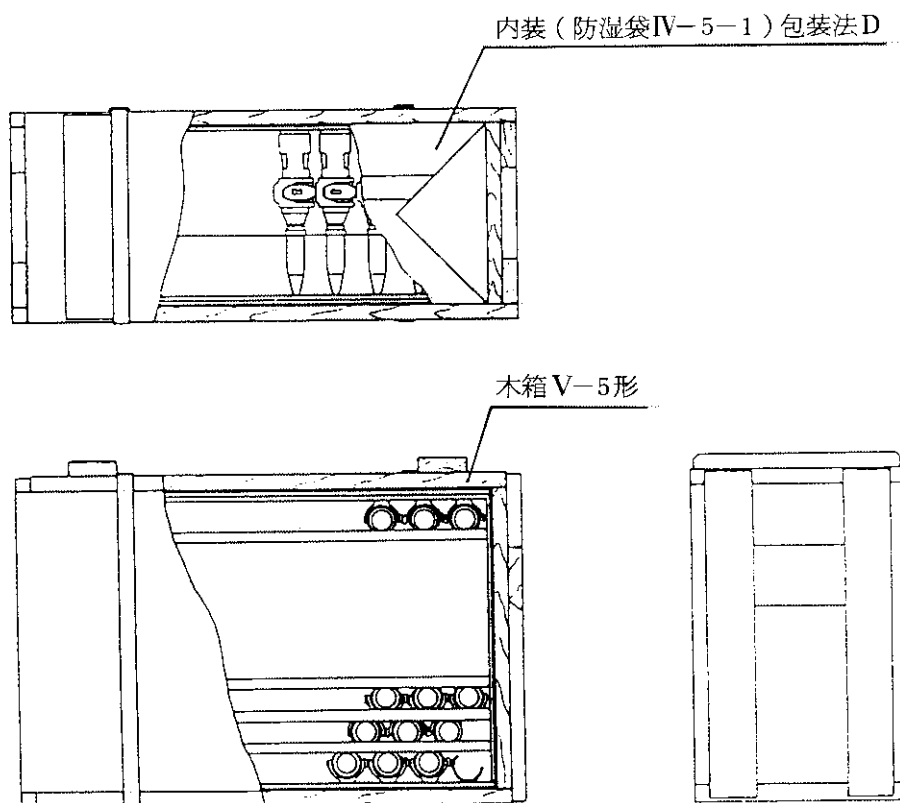
解説付図 33 - 1 木箱 V - 5 形

単位 mm



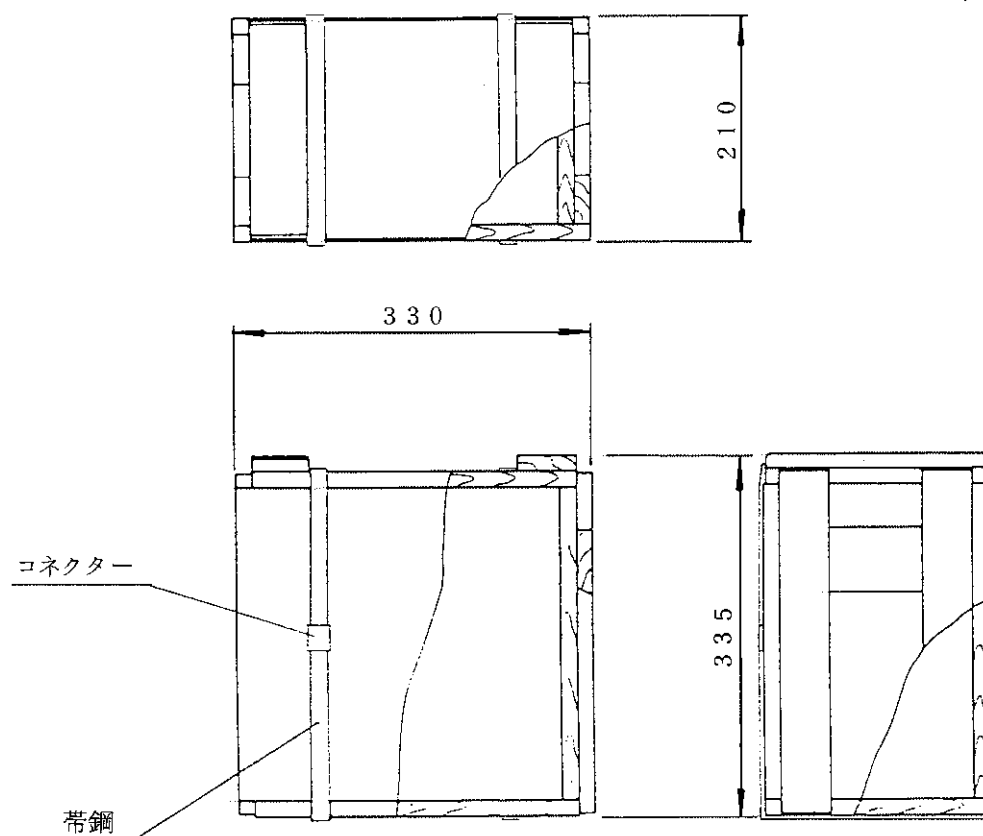
解説付図 33 - 2 外装（木箱）包装法 G（100 発入）

（包装の区分 7 - 2）

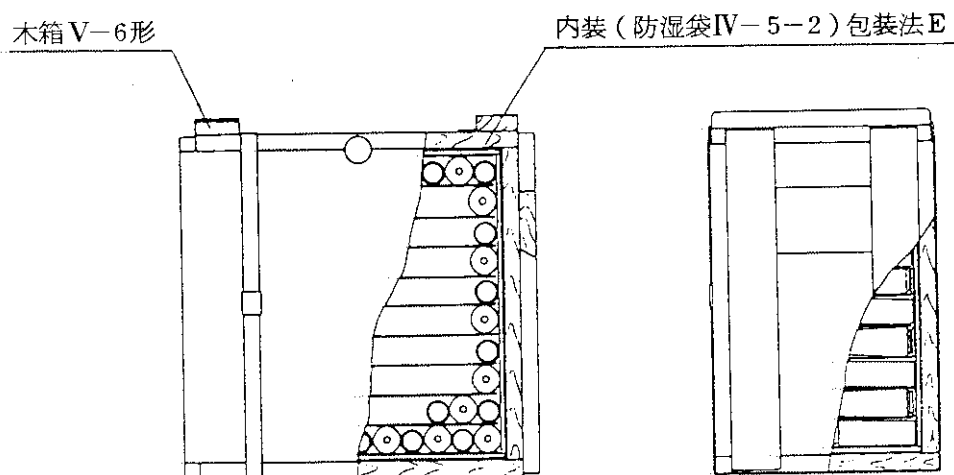


解説付図 34-1 木箱V-6形

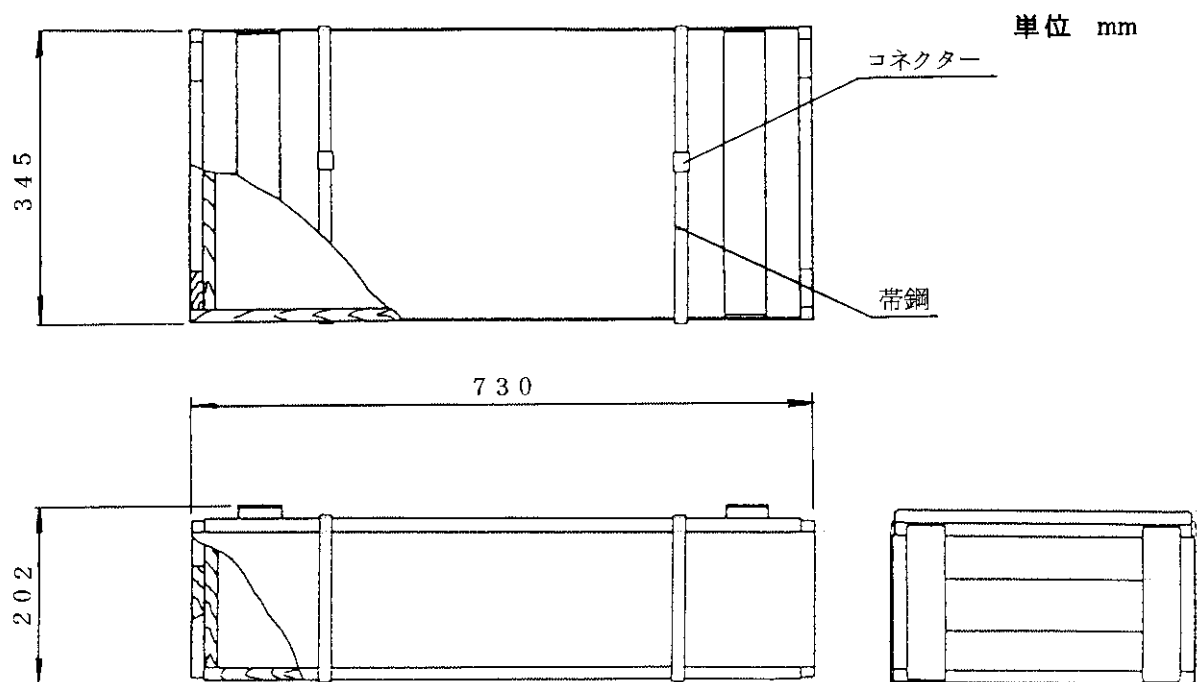
単位 mm



解説付図 34-2 外装(木箱)包装法H(100発入)
(包装の区分 8)

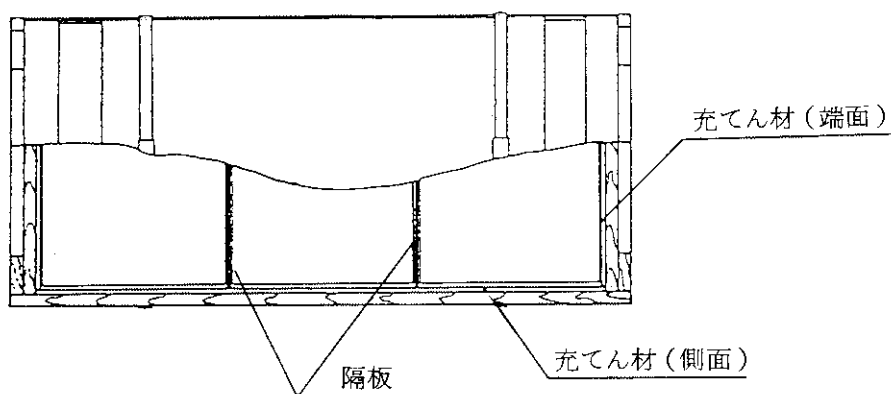


解説付図 35-1 木箱 V-7 形

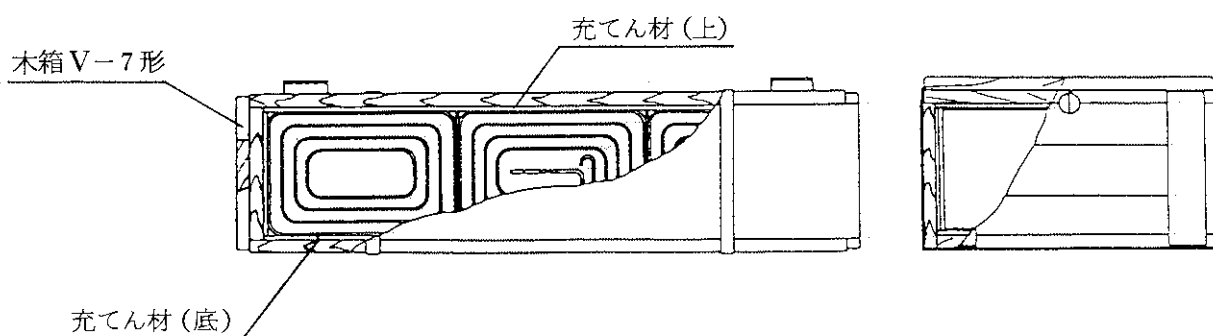


解説付図 35-2 外装(木箱)包装法 I (75 発入)

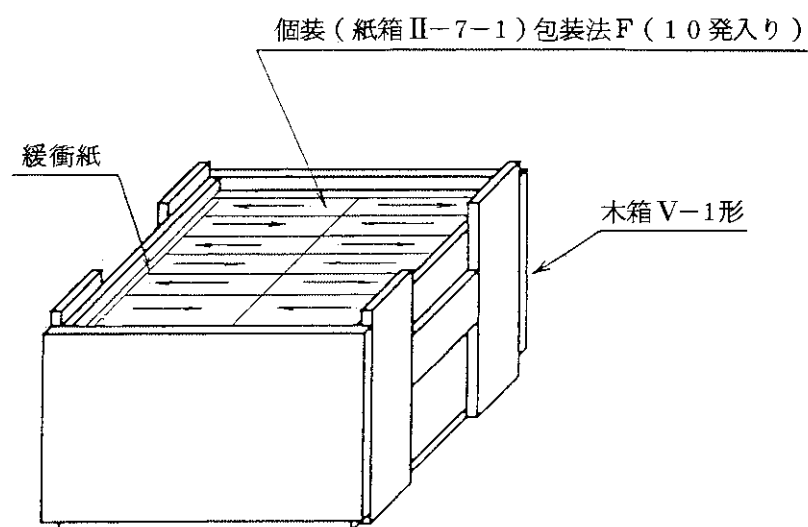
(包装の区分 6)



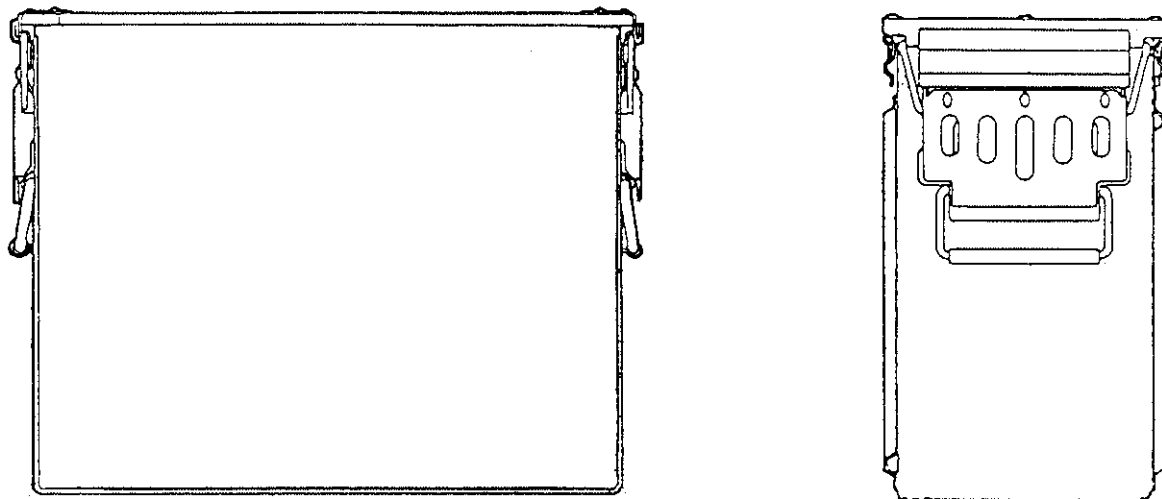
解説付図 35-3 内装(金属缶Ⅲ-1)包装法 A-6



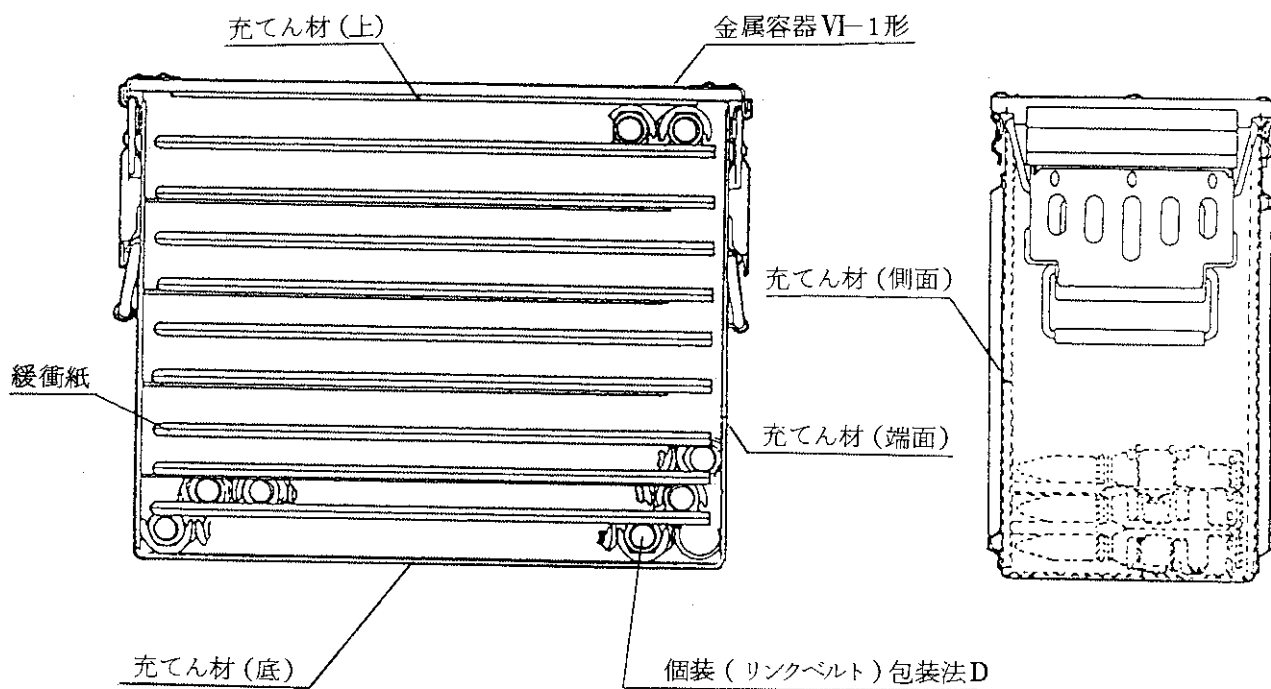
解説付図 35 - 4 外装（木箱）包装法 J（24 紙箱 240 発入）
（包装の区分 11）



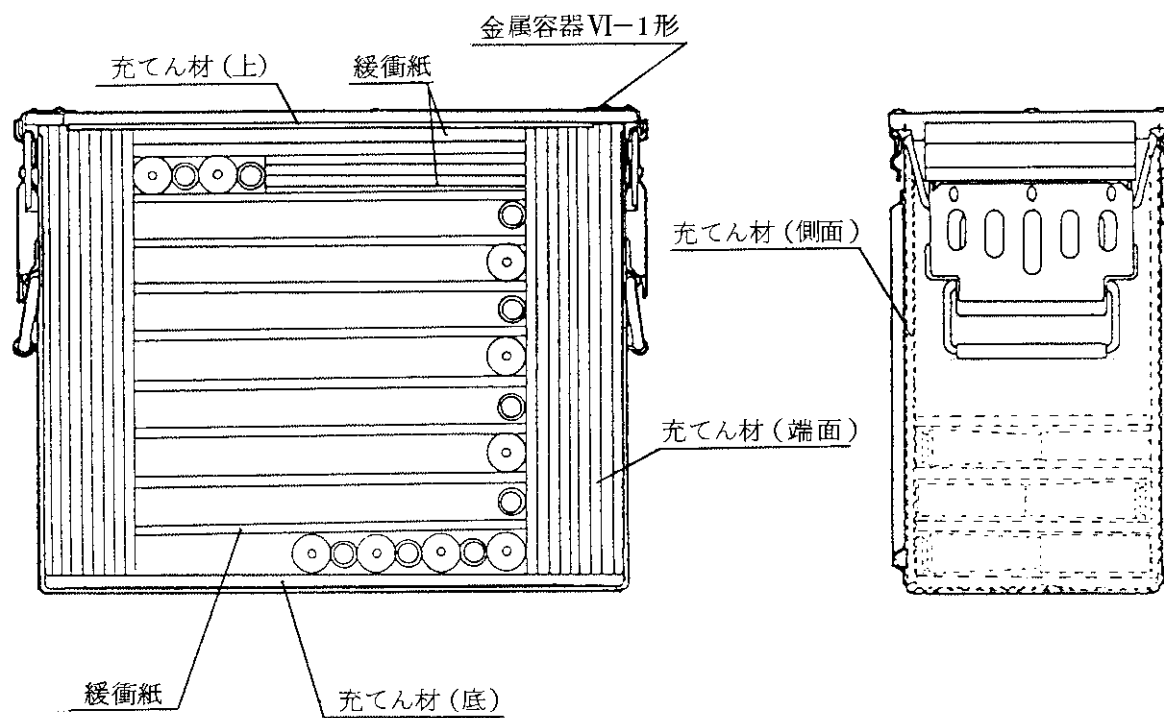
解説付図 36 - 1 金属容器 VI - 1 形



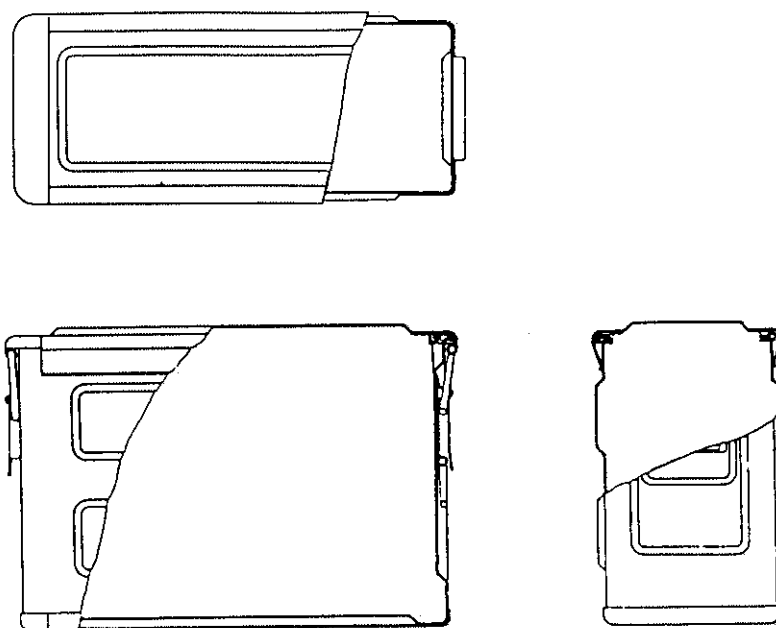
解説付図 36 - 2 外装（金属容器）包装法 A（100 発入）
（包装の区分 9 - 1）



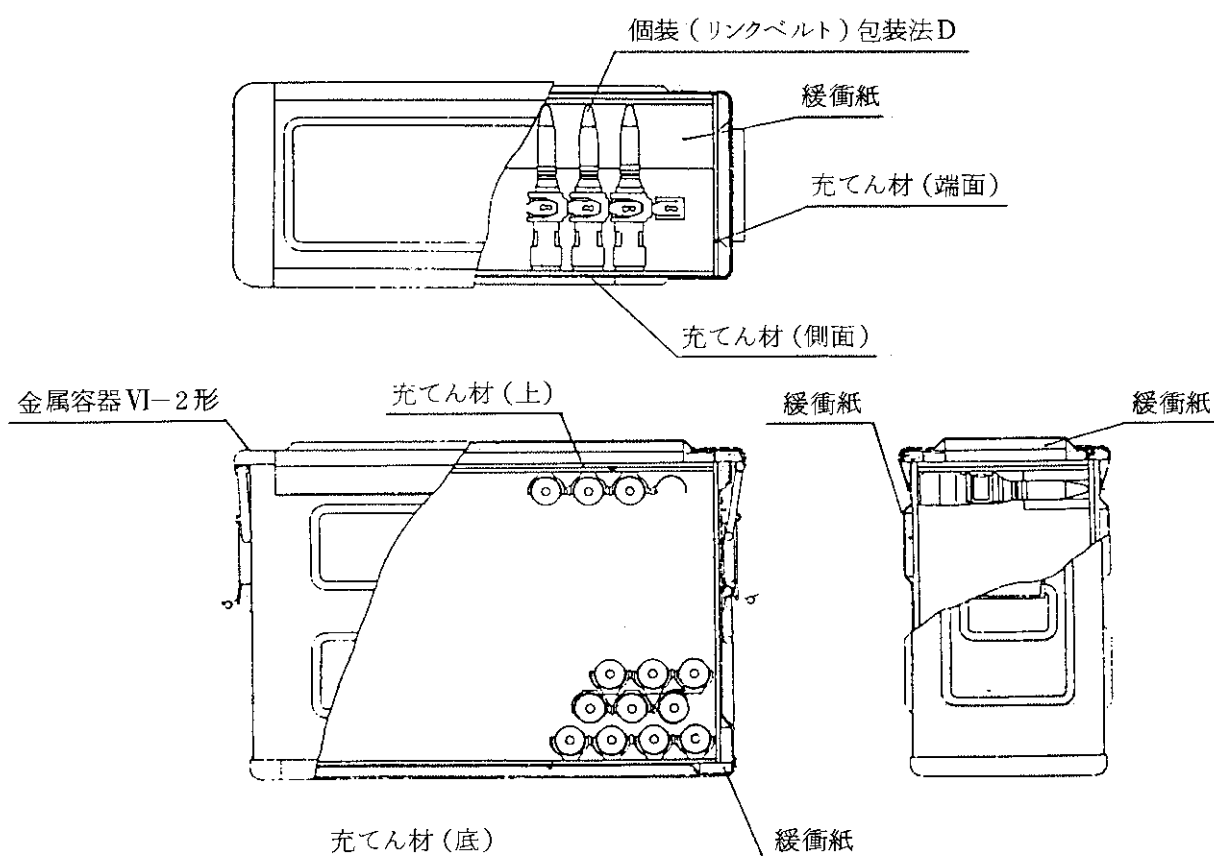
解説付図 36 - 3 外装（金属容器）包装法 B（100 発入）
（包装の区分 10 - 1）



解説付図 37 - 1 金属容器 VI - 2 形

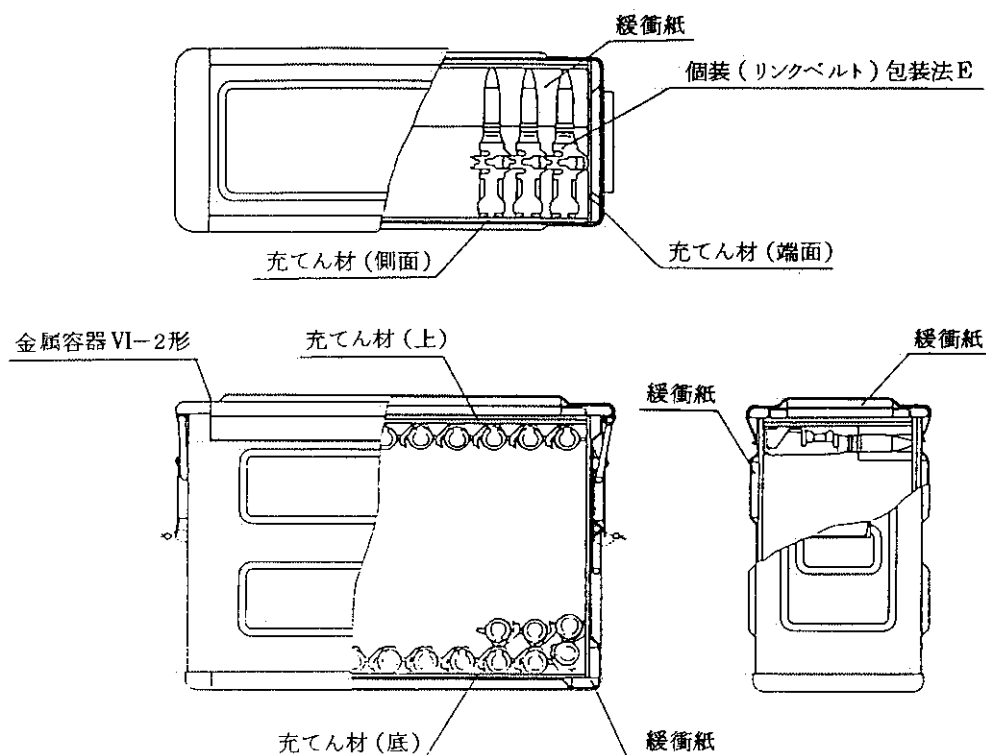


解説付図 37 - 2 外装（金属容器）包装法 C（100 発入）
（包装の区分 9-2-1）



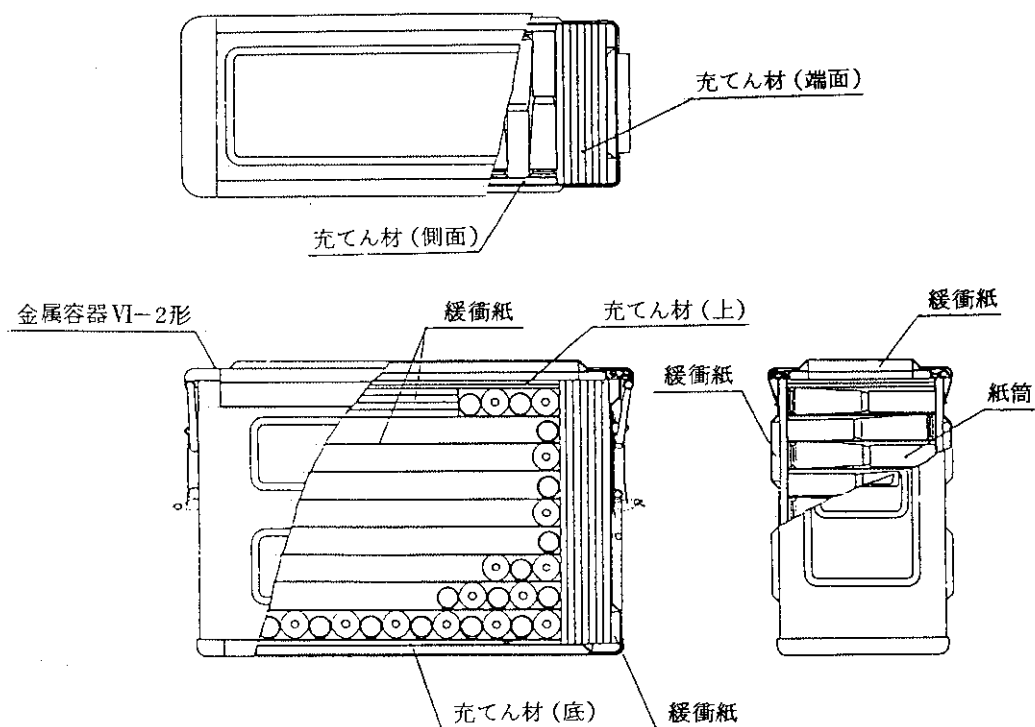
解説付図 37 - 3 外装（金属容器）包装法 D（100 発入）

（包装の区分 9-2-2）



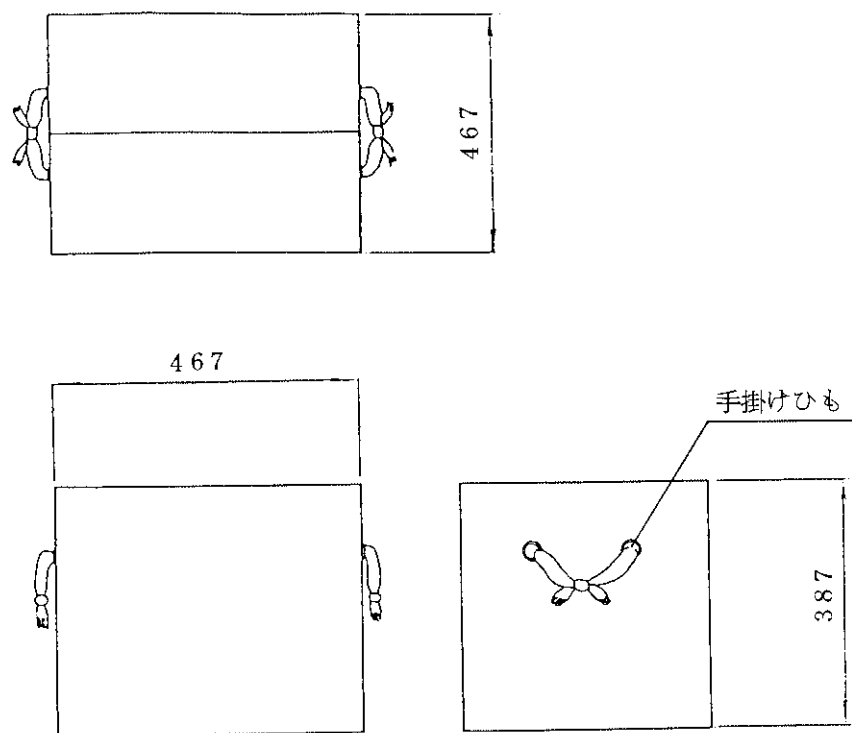
解説付図 37 - 4 外装（金属容器）包装法 E（100 発入）

（包装の区分 10）

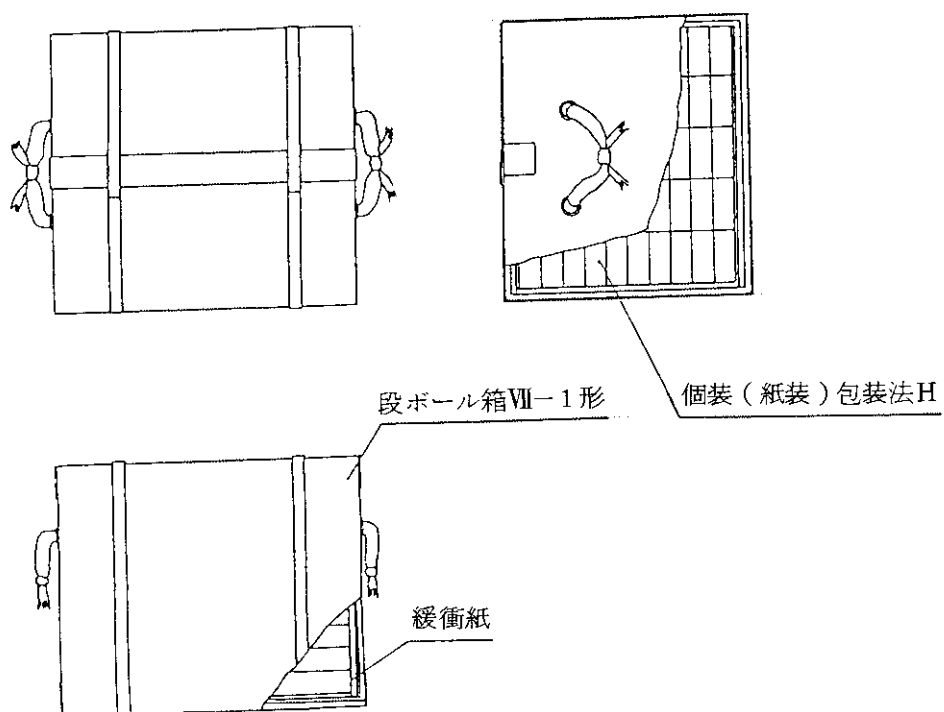


解説付図 38 - 1 段ボール箱Ⅷ形

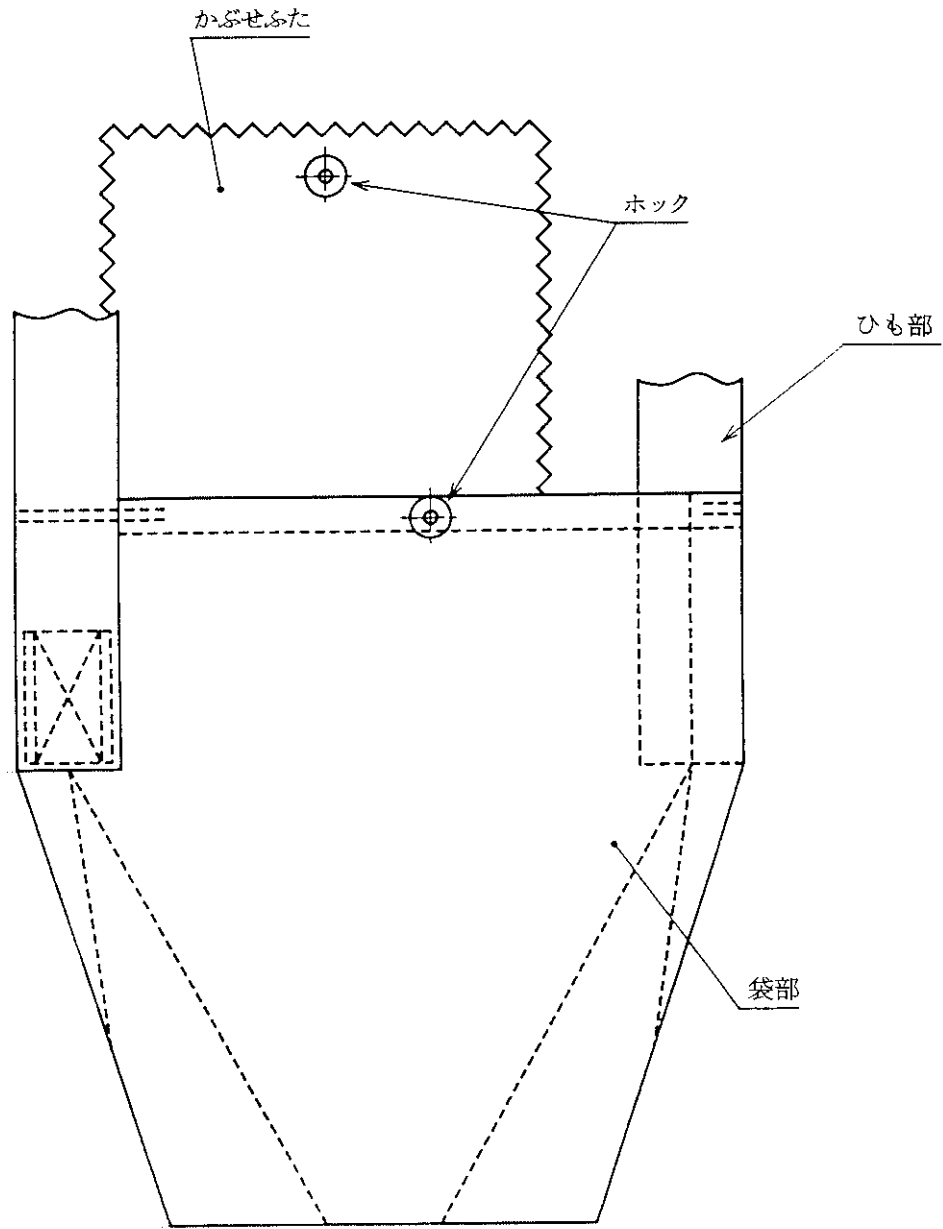
単位 mm



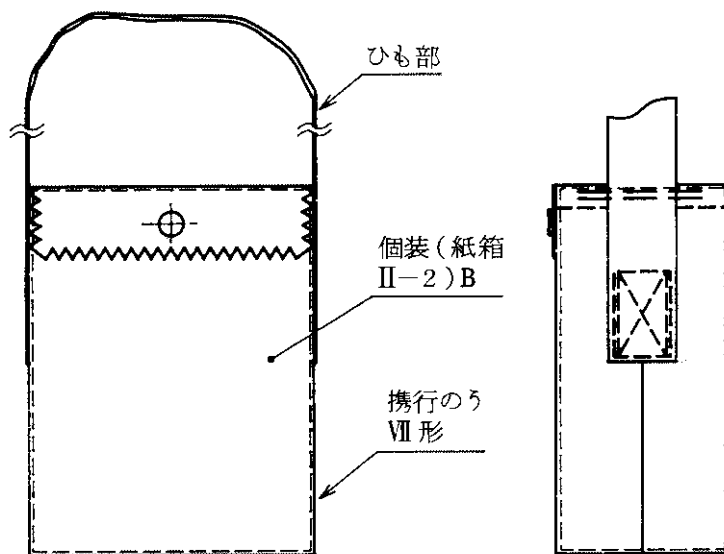
解説付図 38 - 2 外装（段ボール箱）包装法 J（リンク 500 個入）
（包装の区分 13）



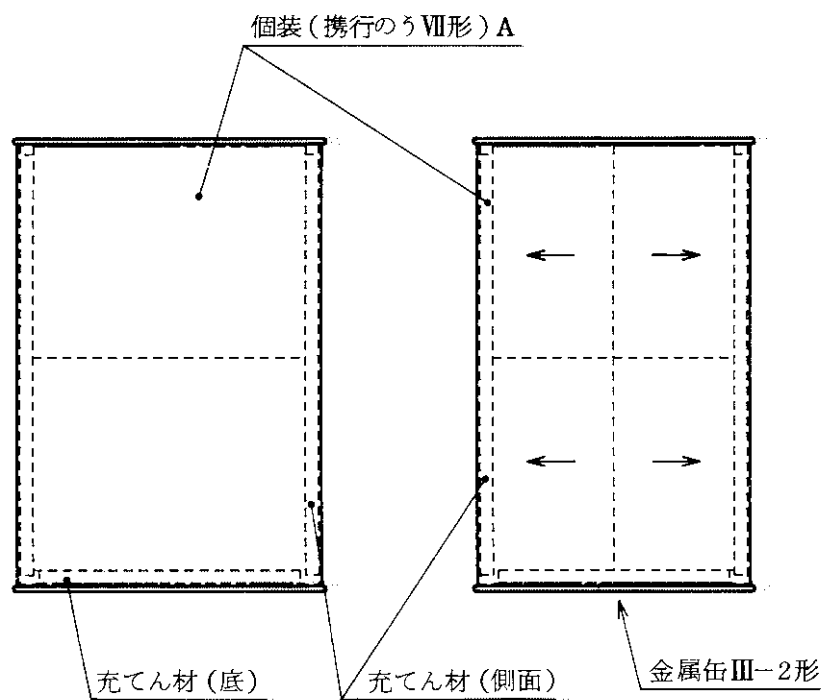
解説付図 39 - 1 携行のう VIII 形



解説付図 39 - 2 個装（携行のう）包装法 A（100 発リンク 1 連紙箱入）



解説付図 39 - 3 内装（金属缶）包装法 B - 2（4 携行のう 400 発入）



備考 ← は，弾頭方向を示す。